

平成27年度  
中国残留邦人等実態調査結果報告書

厚生労働省社会・援護局

## 調査の概要

## 用語の説明

## 中国残留邦人等実態調査結果

1 世帯の概要	1
(1)年齢	1
(2)都道府県別居住割合	1
2 日本語習得状況	3
(1)日本語の理解度	3
(2)日本語の勉強方法	6
3 支援給付の状況	8
4 配偶者支援金の状況	10
(1)婚姻の時期	10
(2)配偶者支援金の認知状況	10
(3)配偶者支援金の満足度	12
5 支援・相談員制度の利用状況	14
6 海外への渡航状況	16
7 永住帰国後の生活	19
(1)現在の生活状況	19
(2)帰国後の感想	20
(3)現在の楽しみや生きがい	22
(4)将来に対する心配・不安	24

---

8	健康状況等	26
	(1)健康状況	26
	(2)医療機関の受診状況	27
	(3)介護保険制度の認知度	28
	(4)要介護(要支援)認定の状況	29
	(5)介護サービスの利用状況	31
	(6)病院・介護サービス利用時の通訳必要度	32
	(7)通訳依頼先	34
9	家族の状況	36
	(1)日本に在住している家族の状況	36
	(2)世帯の状況	37
	(3)同伴帰国した子世帯の状況	38
	(4)年齢(子と子の配偶者、孫と孫の配偶者)	40
	(5)日本語習得状況(子と子の配偶者、孫と孫の配偶者)	41
	(6)就労状況(子と子の配偶者、孫と孫の配偶者)	44
	(7)生活支援の状況	50
10	地域生活の状況	52
	(1)近所付き合いの状況	52
	(2)悩みの相談相手	54
	(3)地域活動への参加状況	56
	(4)今後の地域活動	59

---

# 調査の概要

---

## 1 調査の目的

この調査は、永住帰国した中国残留邦人等の生活実態を把握し、支援施策に関する基礎資料を整備することを目的とし、また平成26年10月から実施している配偶者支援金の効果等を検証するため実施したものである。

なお、この調査は、昭和59年度以降必要に応じて実施しており、前回調査は平成21年度に実施した。今回は11回目となる。

## 2 調査の対象

昭和36年4月1日(拠出制の国民年金発足)以降に永住帰国した中国残留邦人等の本人(以下「帰国者」という)のうち、調査基準日において、永住帰国後1年未満の者を除いた4,933人(中国残留邦人4,816人、樺太等残留邦人117人)と帰国者の死亡後に配偶者支援金を受給した者(以下「配偶者支援金受給者」という)312人(中国残留邦人の配偶者308人、樺太等残留邦人の配偶者4名)、合計5,245人を対象とした。

なお、中国残留邦人等とは、戦後の混乱等により、中国と樺太等の地域に残留を余儀なくされた方々のことをいう。

## 3 調査基準日

平成27年10月1日

## 4 調査の期間

平成27年11月13日 ~ 平成28年1月19日

## 5 調査の方法

調査対象者に調査票と回答用紙を郵送し、帰国者と配偶者支援金受給者自らが記入した回答用紙を調査事務局に返送する方法により実施した。

## 6 調査票の回収状況

調査票配布数:5,245、調査票回収数:3,867(回収率:73.7%)

## 7 利用上の注意

- (1) この調査結果に掲載の数値は、四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合がある。
  - (2) 前回調査の結果と比較する際は、無回答率が異なるため注意をする必要がある。
-

## 用語の説明

---

### ○満額の老齢基礎年金等の支給

中国残留邦人等の国民年金の被保険者期間にかかる保険料の追納を認めるとともに、追納に必要な保険料相当額を全額国が負担することにより、満額の老齢基礎年金等の支給を可能にするもの。

### ○支援給付

満額の老齢基礎年金等の受給によっても、なお、その世帯の収入の額が一定の基準に満たない60歳以上の中国残留邦人等に、公的年金制度を補完するものとして支給。

### ○配偶者支援金

中国残留邦人等と長年にわたり労苦を共にしてきた特定配偶者（永住帰国前から継続して特定中国残留邦人等の配偶者である方）が、支援給付を受給している特定中国残留邦人等が死亡した後も安定した生活を送ることができるよう、平成26年10月から支給。

### ○支援・相談員

中国残留邦人等からの日常生活上の相談等への対応や支援給付事務の補助業務等を行うために支援給付実施機関に配置している相談員。

### ○自立支援通訳

中国残留邦人等が医療・介護サービスを利用する際や公的機関から援助を受ける際など、通訳が必要な場面に同行し、通訳業務を行う。

### ○地域生活支援事業

中国残留邦人等が暮らす身近な地域において、都道府県・市区町村が主体となり、日本語を学ぶ場の提供や地域の人々との交流事業等を開催するなど、中国残留邦人等が地域で生き生きと暮らせるよう支援するもの。

### ○中国帰国者「定着促進センター」

帰国直後の中国残留邦人等が入所し、日本語学習や日本の生活習慣等の研修を行う施設。平成27年度末に閉所し、平成28年度からは定着促進事業として首都圏中国帰国者支援・交流センター（東京都）に統合した。

### ○中国帰国者「自立研修センター」

定着促進センターにおける研修を終えた中国残留邦人等が通所し、日本語学習、日常生活上の相談や就労相談等の支援を行う施設。平成24年度末に閉所し、以降は自立研修事業として首都圏中国帰国者支援・交流センター（東京都）で実施。

### ○中国帰国者「支援・交流センター」

中国残留邦人等に対し、日本語学習の継続、日常生活上の相談や就労相談、地域社会から孤立しないよう地域の人々との交流事業等を開催するなどの支援を行うとともに、都道府県・市区町村が主体となって実施する「地域生活支援事業」への助言・協力等の支援を行う施設。

（設置場所）北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、福岡県

---

---

---

---

# 中国残留邦人等実態調査結果

---



# 1 世帯の概要

## (1) 年齢

帰国者の平均年齢は76.0歳。70歳代が71.3%、80歳代が17.6%、90歳以上が4.5%となっている。  
 配偶者の平均年齢は72.6歳。70歳代が57.3%、80歳代が11.0%、90歳以上が1.2%となっている。  
 配偶者支援金受給者の平均年齢は74.3歳。70歳代が54.9%、80歳代が15.5%、90歳以上が3.3%となっている。

## (2) 都道府県別居住割合

居住地は全都道府県に及ぶが、帰国者と配偶者支援金受給者の合計では、東京都が25.6%と最も多く、大阪府10.2%、神奈川県7.7%、愛知県5.4%、埼玉県5.2%と続いている。

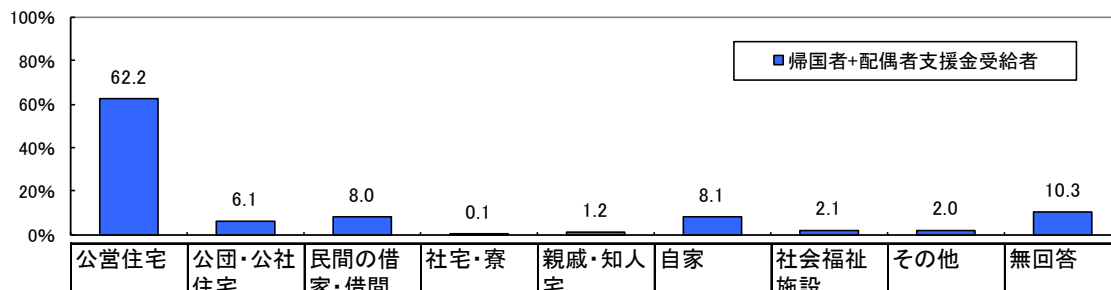
(表1 帰国者、配偶者、配偶者支援金受給者の年齢)

区分	今回調査						前回調査			
	帰国者		配偶者		配偶者支援金受給者		帰国者		配偶者	
40歳未満	0人	0.0%	4人	0.2%	0人	0.0%	0人	0.0%	8人	0.3%
40～49歳	0人	0.0%	11人	0.5%	1人	0.5%	4人	0.1%	33人	1.1%
50～59歳	17人	0.5%	61人	2.8%	1人	0.5%	44人	1.0%	209人	7.2%
60～69歳	227人	6.2%	528人	24.6%	54人	25.4%	2,123人	48.5%	1,417人	48.5%
70～79歳	2,604人	71.3%	1,233人	57.3%	117人	54.9%	1,471人	33.6%	966人	33.1%
80～89歳	642人	17.6%	236人	11.0%	33人	15.5%	660人	15.1%	205人	7.0%
90歳以上	164人	4.5%	26人	1.2%	7人	3.3%	75人	1.7%	26人	0.9%
無回答	0人	0.0%	51人	2.4%	0人	0.0%	0人	0.0%	55人	1.9%
平均年齢(歳)	76.0		72.6		74.3		71.6		68.6	
男性	1,395人	38.2%	1,005人	46.7%	62人	29.1%	1,582人	36.1%	1,409人	48.3%
女性	2,259人	61.8%	1,145人	53.3%	151人	70.9%	2,795人	63.9%	1,510人	51.7%
計	3,654人		2,150人		213人		4,377人		2,919人	

(表2 都道府県別居住割合)

都道府県	今回調査						前回調査	
	帰国者		配偶者支援金受給者		合計		帰国者	
東京都	935人	25.6%	56人	26.3%	991人	25.6%	1,063人	24.3%
大阪府	374人	10.2%	20人	9.4%	394人	10.2%	450人	10.3%
神奈川県	285人	7.8%	14人	6.6%	299人	7.7%	338人	7.7%
愛知県	197人	5.4%	10人	4.7%	207人	5.4%	229人	5.2%
埼玉県	188人	5.1%	12人	5.6%	200人	5.2%	227人	5.2%
北海道	153人	4.2%	17人	8.0%	170人	4.4%	143人	3.3%
千葉県	154人	4.2%	4人	1.9%	158人	4.1%	176人	4.0%
長野県	139人	3.8%	7人	3.3%	146人	3.8%	188人	4.3%
兵庫県	116人	3.2%	8人	3.8%	124人	3.2%	124人	2.8%
福岡県	107人	2.9%	4人	1.9%	111人	2.9%	116人	2.7%
広島県	100人	2.7%	6人	2.8%	106人	2.7%	126人	2.9%
京都府	81人	2.2%	5人	2.3%	86人	2.2%	117人	2.7%
群馬県	57人	1.6%	6人	2.8%	63人	1.6%	65人	1.5%
岐阜県	54人	1.5%	1人	0.5%	55人	1.4%	66人	1.5%
宮城県	50人	1.4%	2人	0.9%	52人	1.3%	70人	1.6%
その他	664人	18.2%	41人	19.2%	705人	18.2%	879人	20.1%
計	3,654人		213人		3,867人		4,377人	

(グラフ1 住居の種類)



帰国者+配偶者支援金受給者	3,867人	62.2	6.1	8.0	0.1	1.2	8.1	2.1	2.0	10.3
---------------	--------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

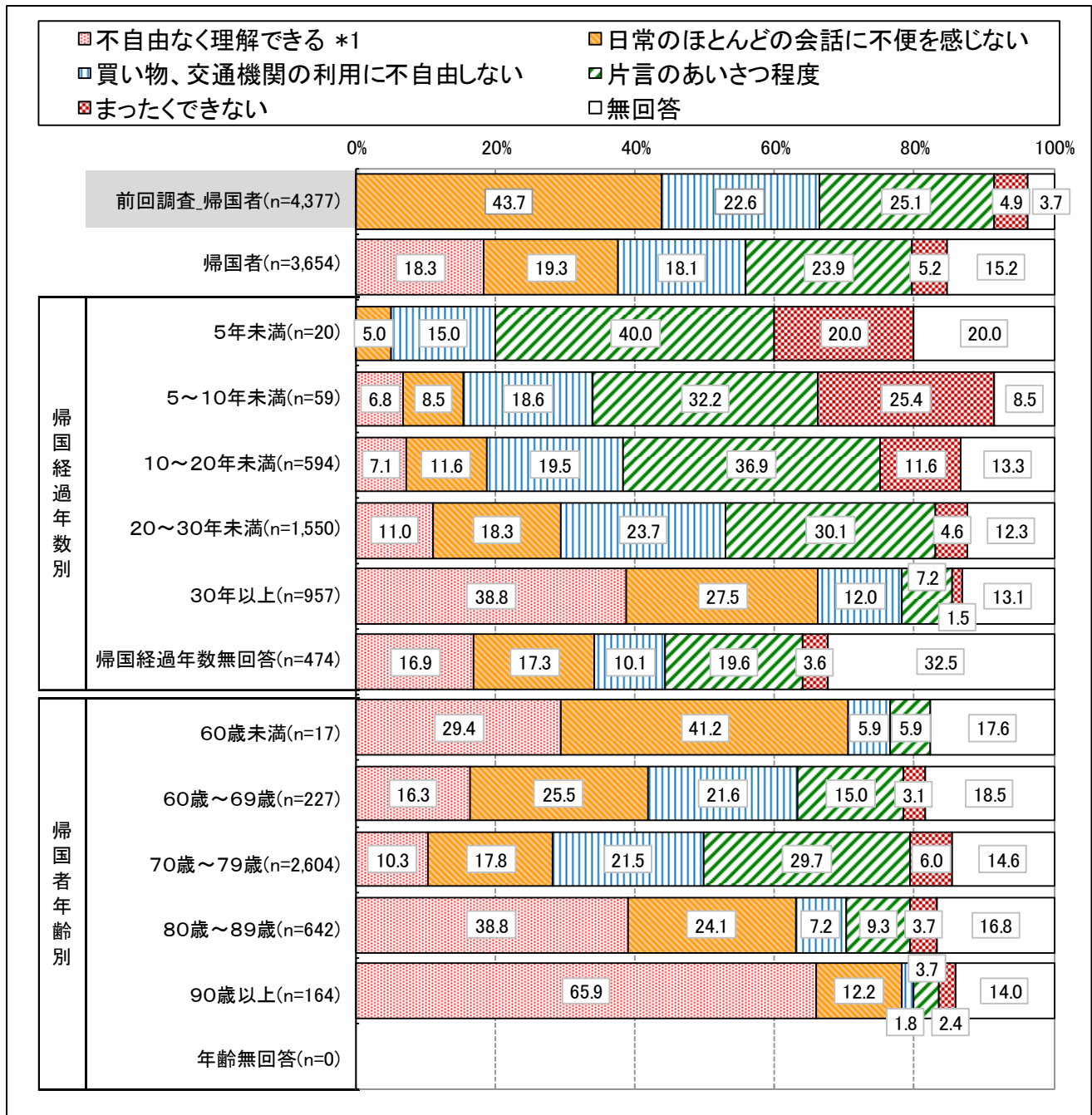
## 2 日本語習得状況

### (1) 日本語の理解度

「不自由なく理解できる」「日常のほとんどの会話に不便を感じない」「買い物、交通機関の利用に不自由しない」は、帰国者では55.7%、配偶者では39.0%、配偶者支援金受給者では35.3%となっている。

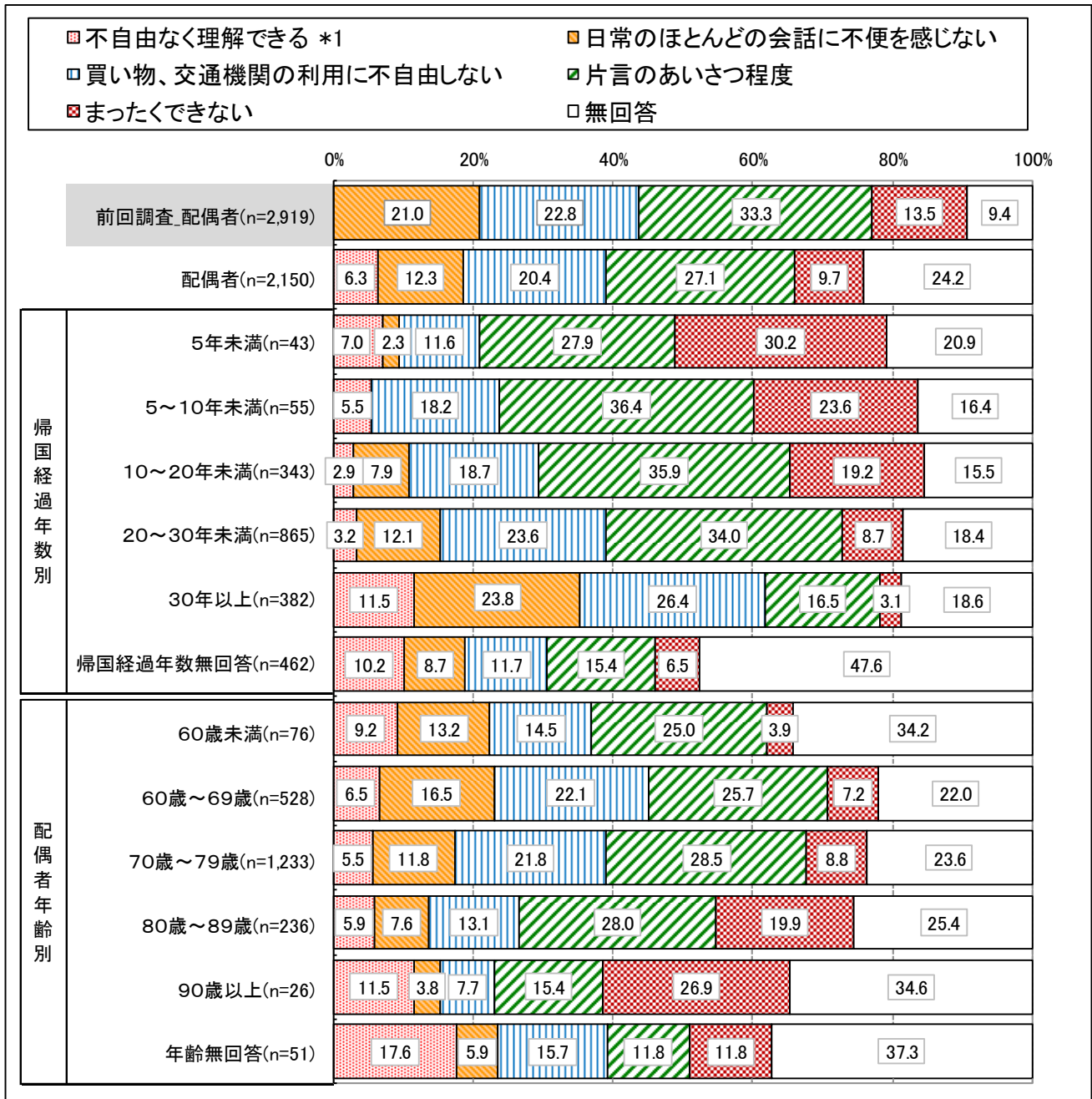
一方、「片言のあいさつ程度」「まったくできない」は、帰国者では29.1%、配偶者では36.8%、配偶者支援金受給者では38.0%となっている。

(グラフ2 帰国者の日本語理解度(帰国経過年数別・年齢別))



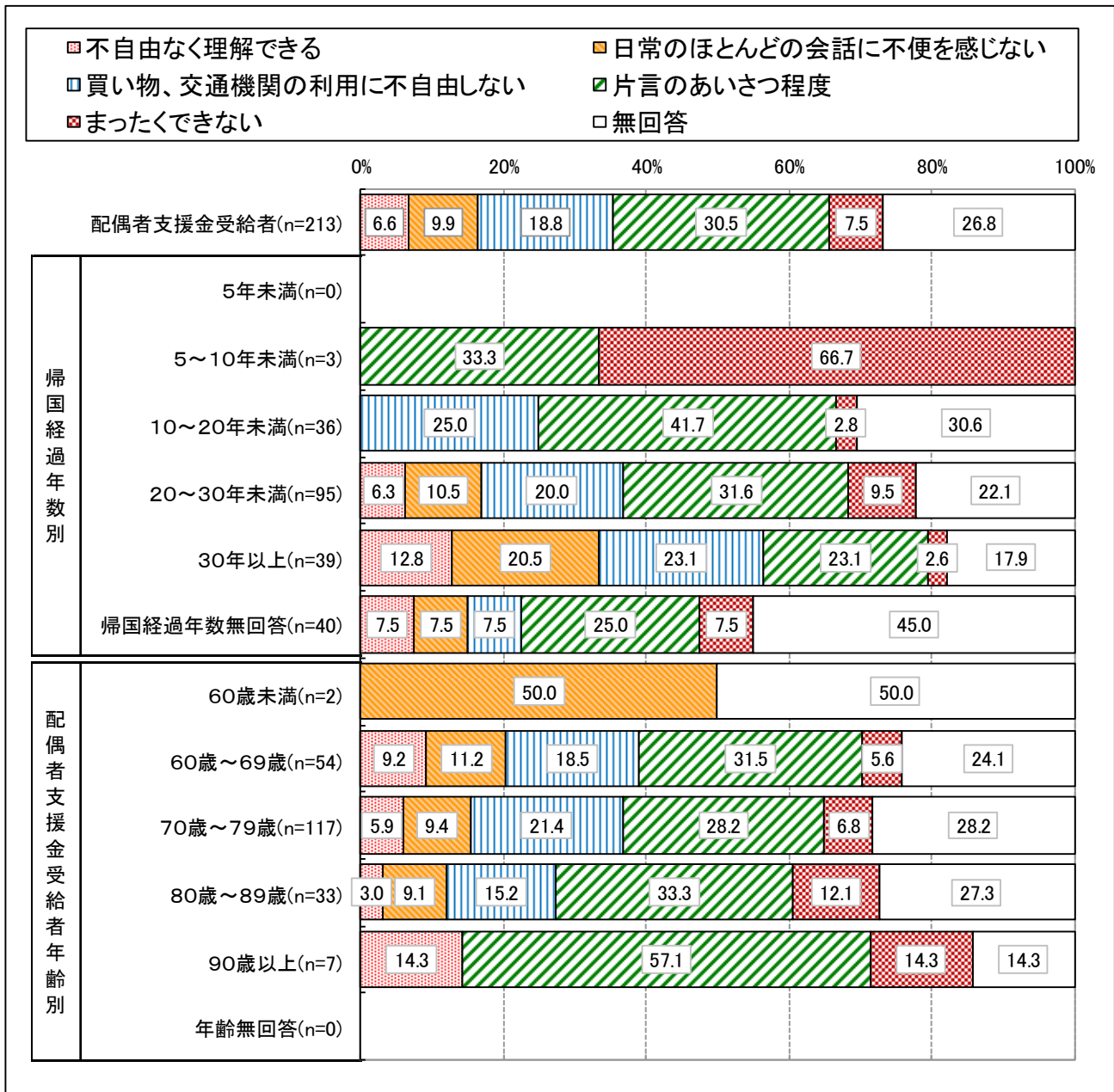
\* 1: 前回未調査項目

(グラフ3 配偶者の日本語理解度(帰国経過年数別・年齢別))



\*1: 前回未調査項目

(グラフ4 配偶者支援金受給者の日本語理解度(帰国経過年数別・年齢別))



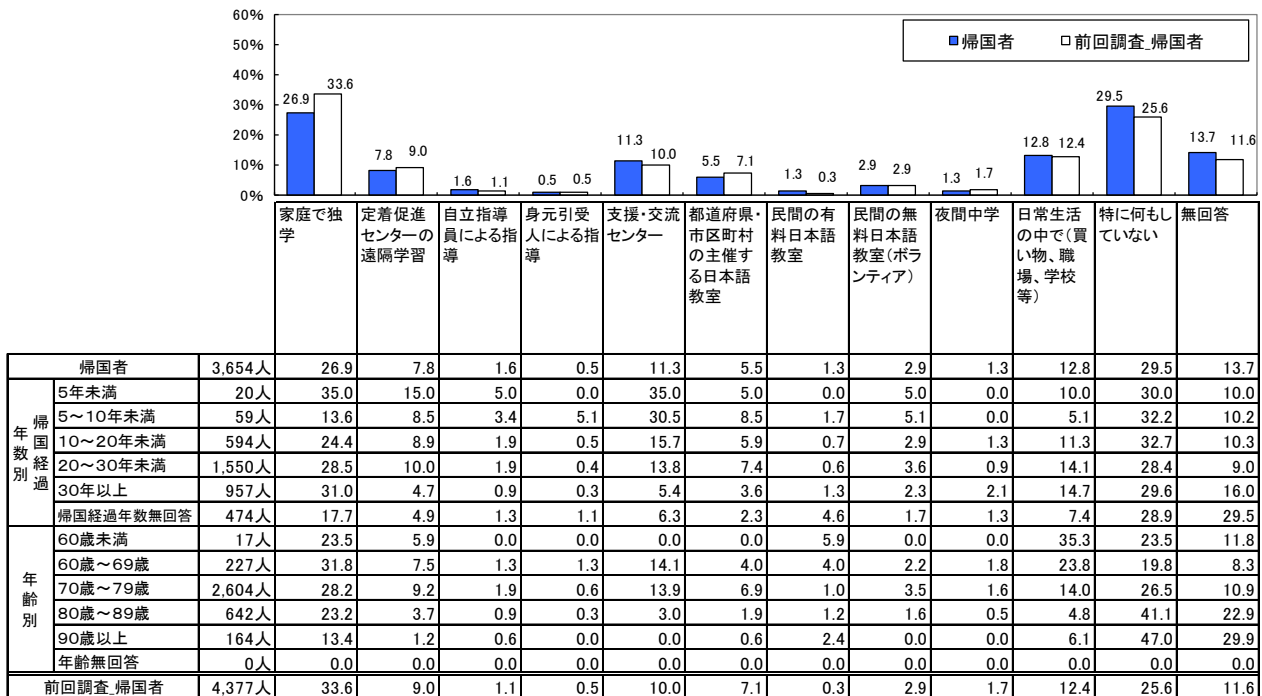
(2) 日本語の勉強方法

「家庭で独学」「日常生活の中で(買い物、職場、学校等)」が最も多く、帰国者では39.7%、配偶者では33.5%、配偶者支援金受給者では23.0%となっている。

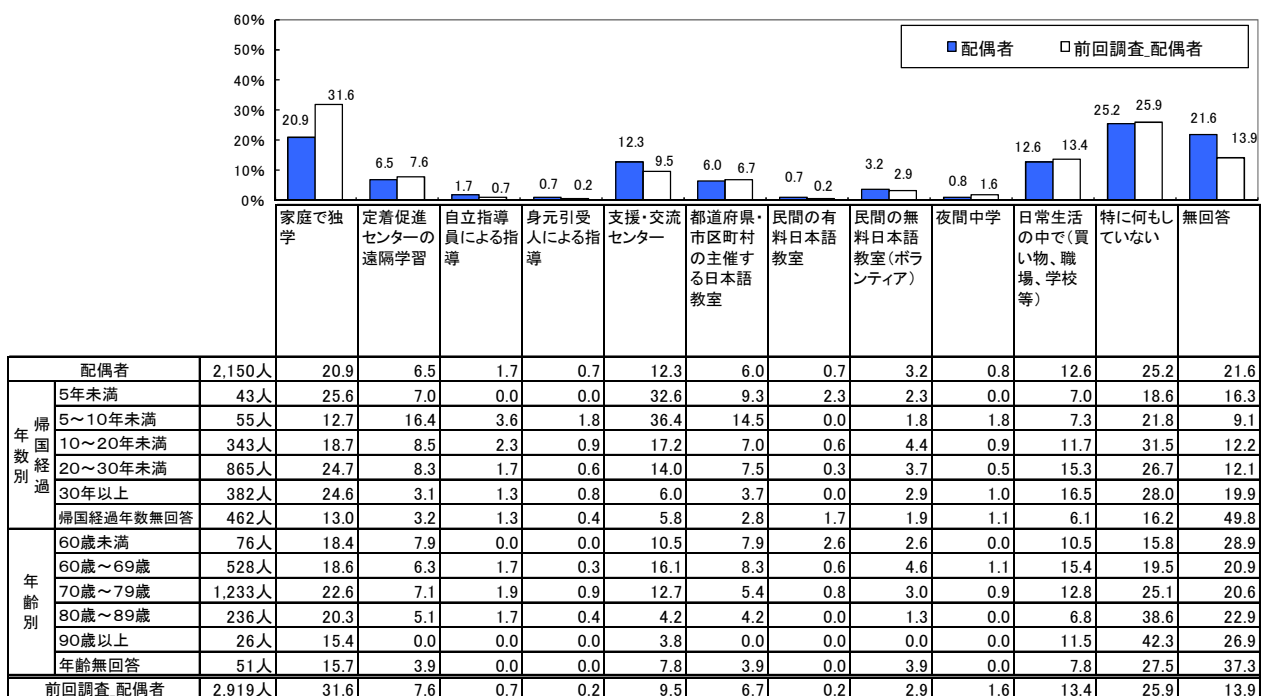
「支援・交流センター」「都道府県・市町村の主催する日本語教室」は、帰国者では16.8%、配偶者では18.3%となっている。

「定着促進センターの遠隔学習」は、帰国者では7.8%、配偶者では6.5%、配偶者支援金受給者では5.2%となっている。

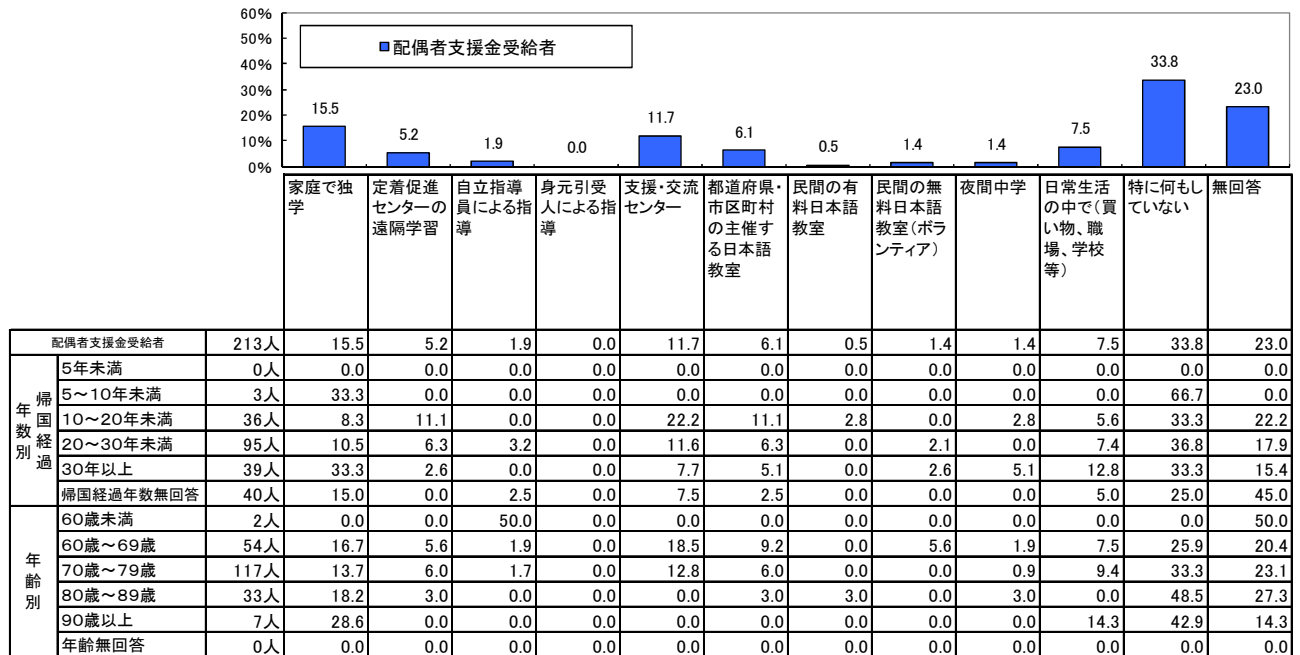
(グラフ5 帰国者の日本語勉強方法(帰国経過年数別・年齢別)) <複数回答>



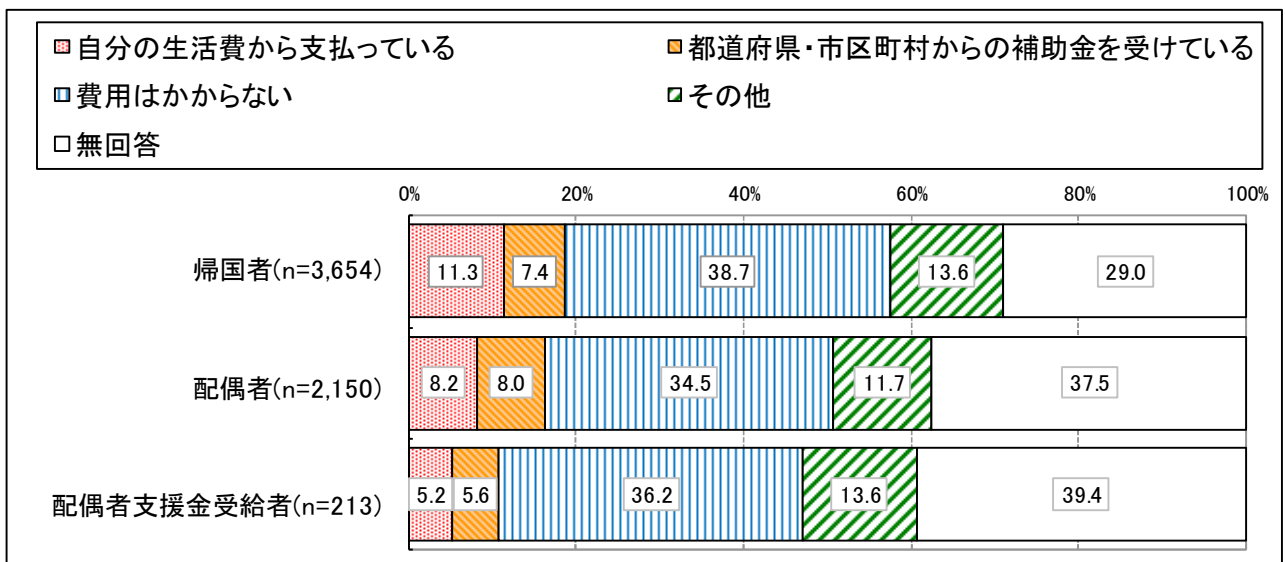
(グラフ6 帰国者の配偶者の日本語勉強方法(帰国経過年数別・年齢別)) <複数回答>



(グラフ7 配偶者支援金受給者の日本語勉強方法(帰国経過年数別・年齢別)) <複数回答>



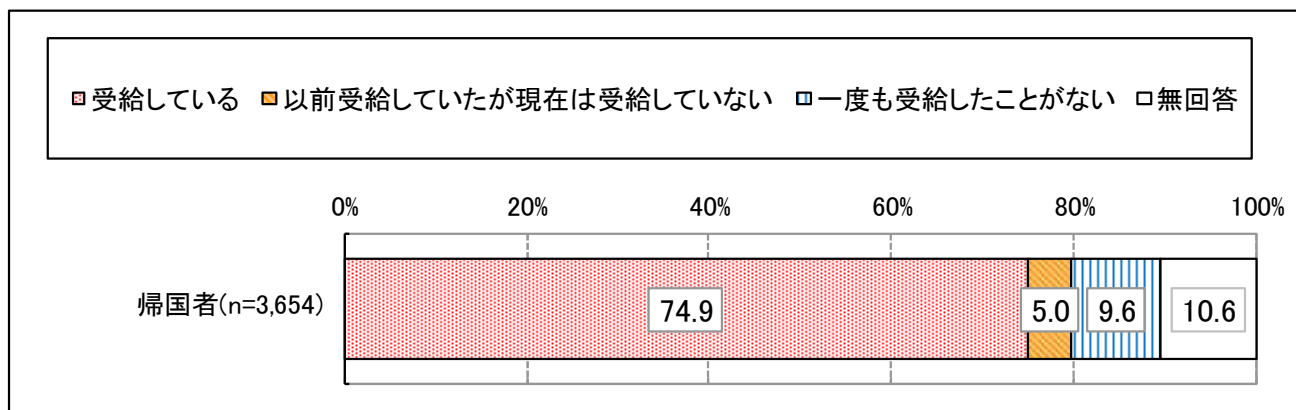
(グラフ8 勉強の費用(教材費等))



### 3 支援給付の状況

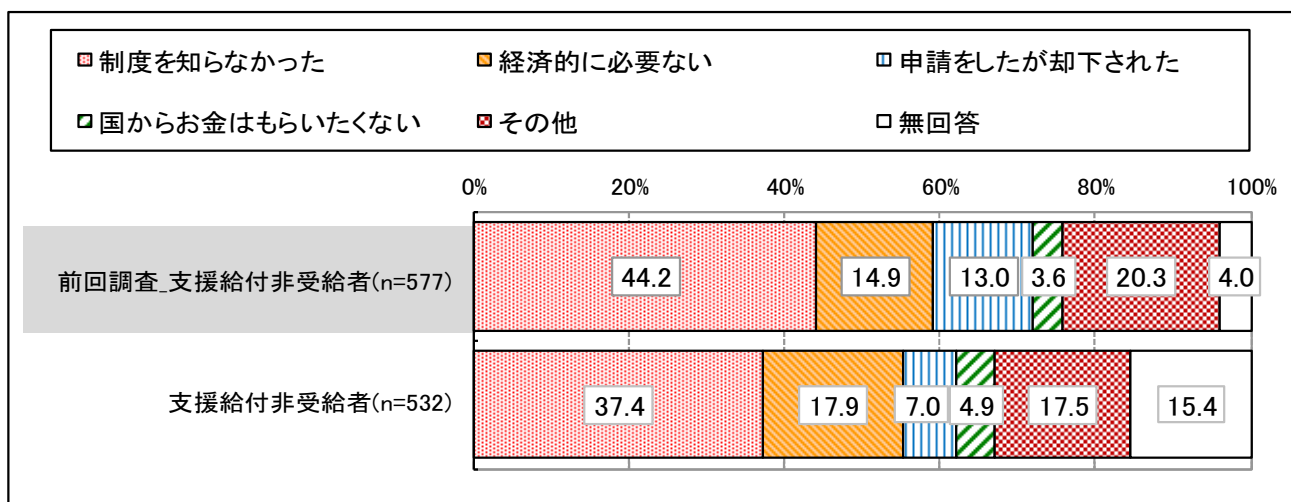
帰国者の支援給付を「受給している」は74.9%、「以前受給していたが現在は受給していない」は5.0%、「一度も受給したことがない」は9.6%となっている。

(グラフ9 帰国者の支援給付受給状況)



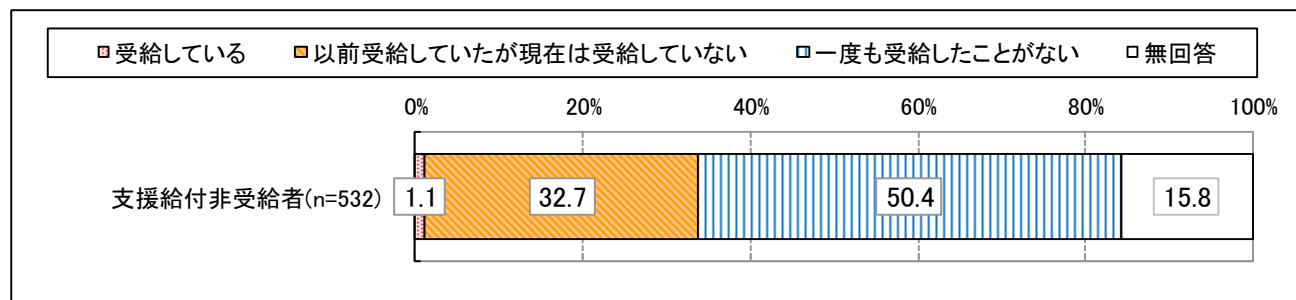
(グラフ10 帰国者の支援給付を受給していない理由)

※支援給付を「以前受給していたが現在は受給していない」、「一度も受給したことがない」と回答した者

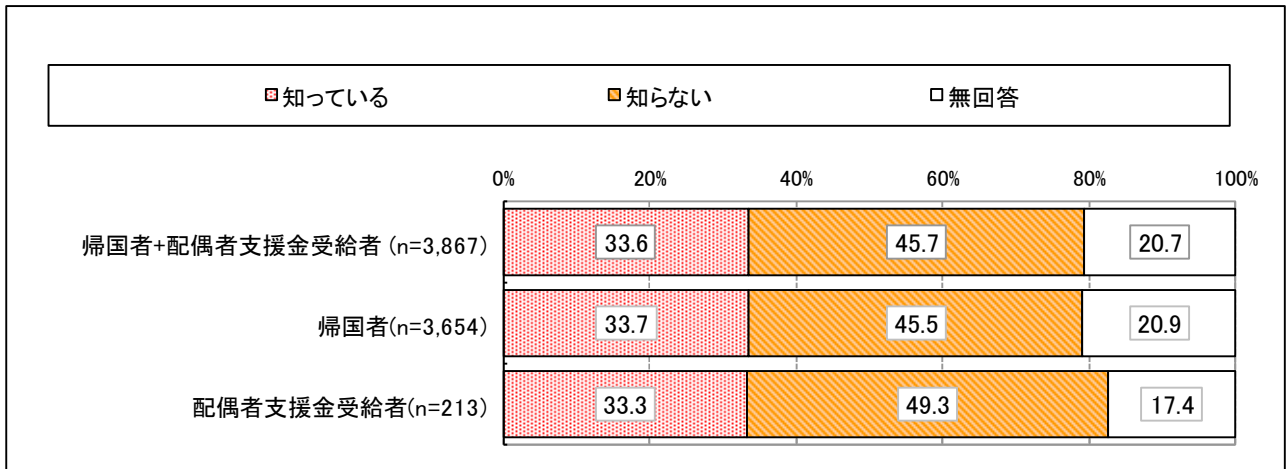


(グラフ11 帰国者の生活保護受給状況)

※支援給付を「以前受給していたが現在は受給していない」、「一度も受給したことがない」と回答した者



(グラフ12 支援給付制度と生活保護制度では、年金収入や保有資産の取扱いが異なることを知っているか)



## 4 配偶者支援金の状況

### (1) 婚姻の時期

「帰国前」の婚姻が77.7%となっている。

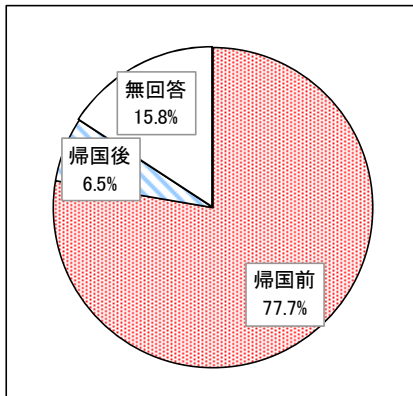
### (2) 配偶者支援金の認知状況

配偶者支援金について、「詳しく知っている」「ある程度知っている」が33.9%となっている。

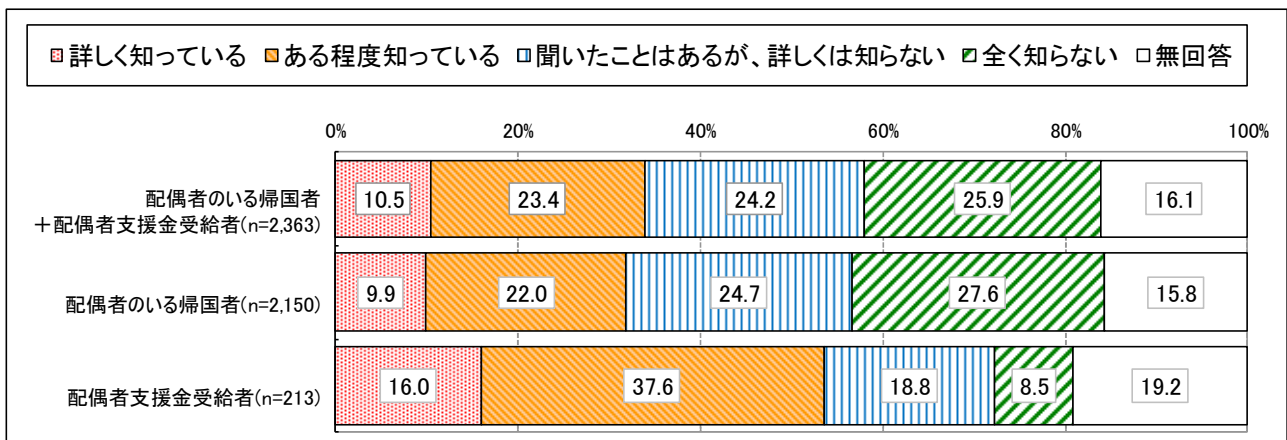
認知した時期は、平成26年10月1日の「制度開始日より前」が45.1%、「制度開始日より後」は49.6%となっている。

認知経路は「実施機関、支援・相談員から聞いた」が54.4%で最も多く、「制度案内のリーフレットを見た」が20.8%、「親族、知人から聞いた」が19.6%と続いている。

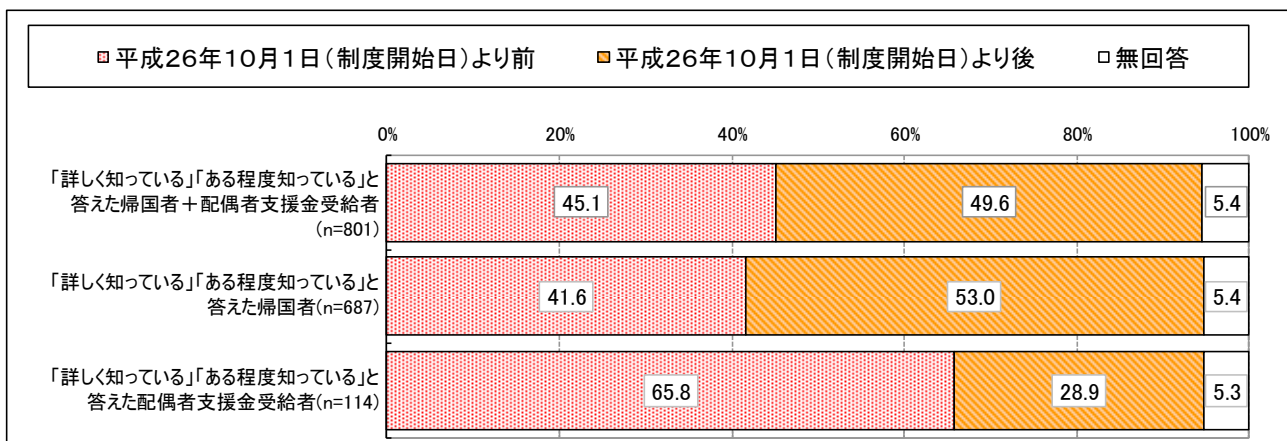
(グラフ13 配偶者のいる帰国者及び配偶者支援金受給者の婚姻の時期(帰国前・帰国後)) n=2,363



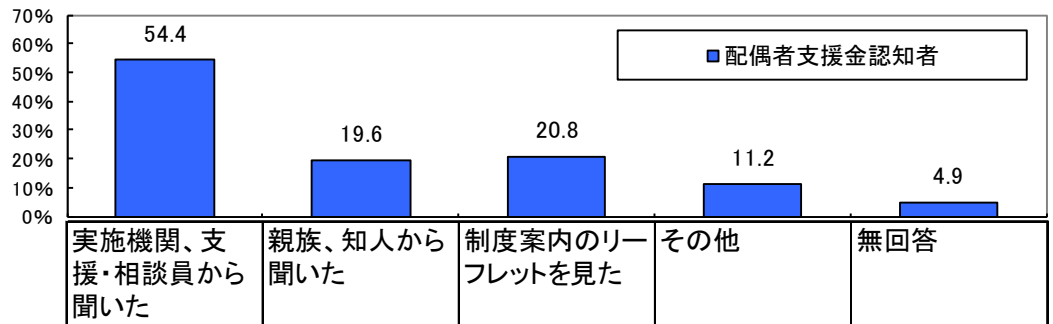
(グラフ14 配偶者支援金の認知度)



(グラフ15 配偶者支援金を知った時期)



(グラフ16 配偶者支援金の認知経路(年齢別))〈複数回答〉



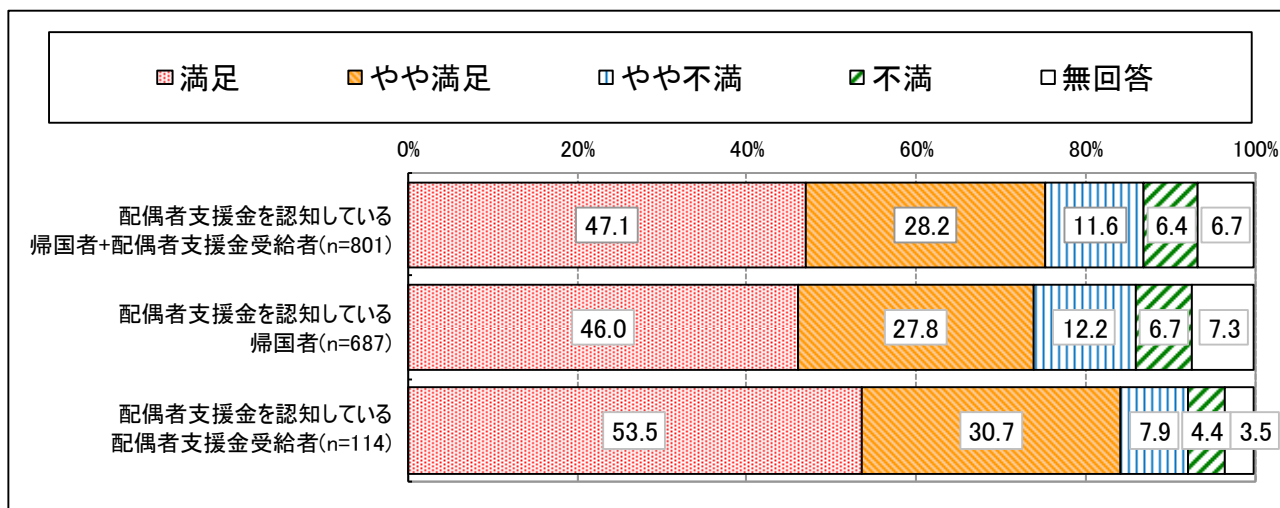
配偶者支援金認知者		801人	54.4	19.6	20.8	11.2	4.9
年齢別	60歳未満	2人	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	60歳～69歳	75人	54.7	16.0	28.0	12.0	5.3
	70歳～79歳	674人	53.4	20.6	20.6	10.8	5.0
	80歳～89歳	45人	71.1	11.1	15.6	11.1	2.2
	90歳以上	5人	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	年齢無回答	0人	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### (3) 配偶者支援金の満足度

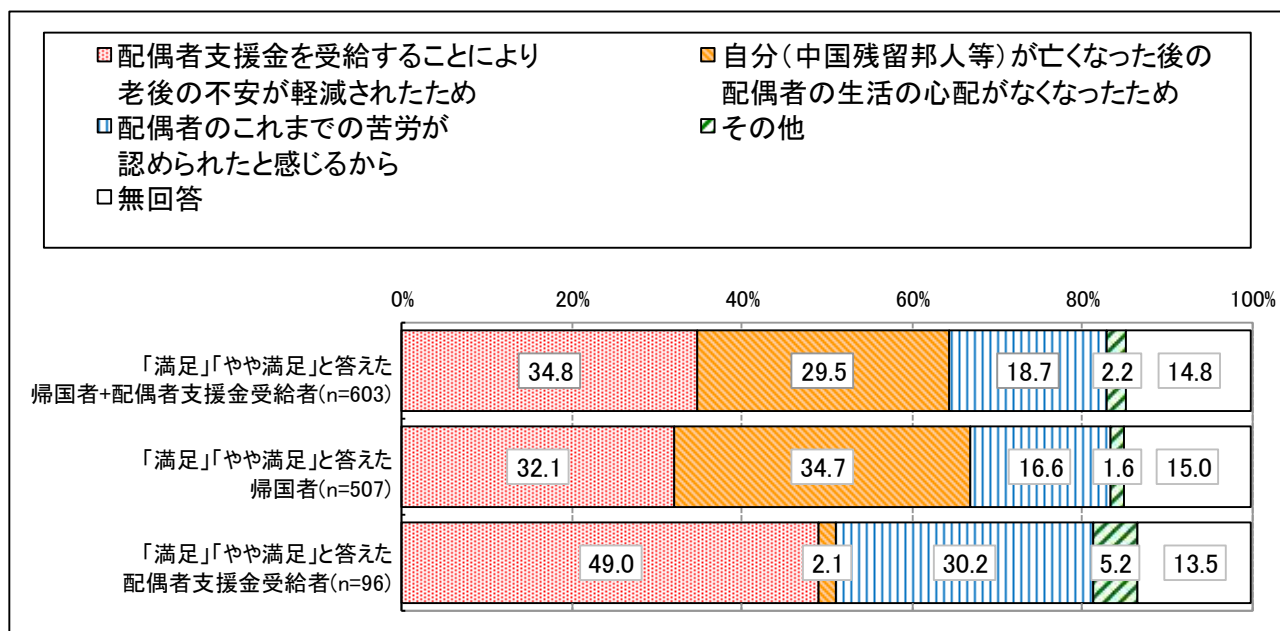
配偶者支援金の満足度について、「満足」「やや満足」が75.3%となっている。

満足している理由は、「配偶者支援金を受給することにより老後の不安が軽減されたため」が34.8%、「自分(中国残留邦人等)が亡くなった後の配偶者の生活の心配がなくなったため」が29.5%となっている。

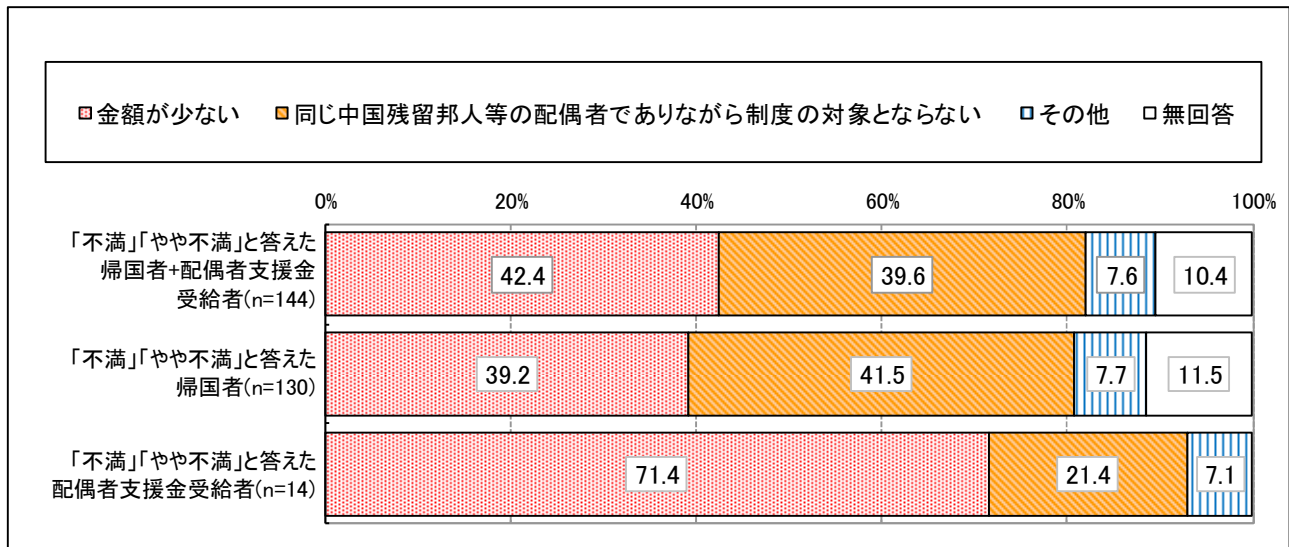
(グラフ17 配偶者支援金の満足度)



(グラフ18 配偶者支援金の満足理由)



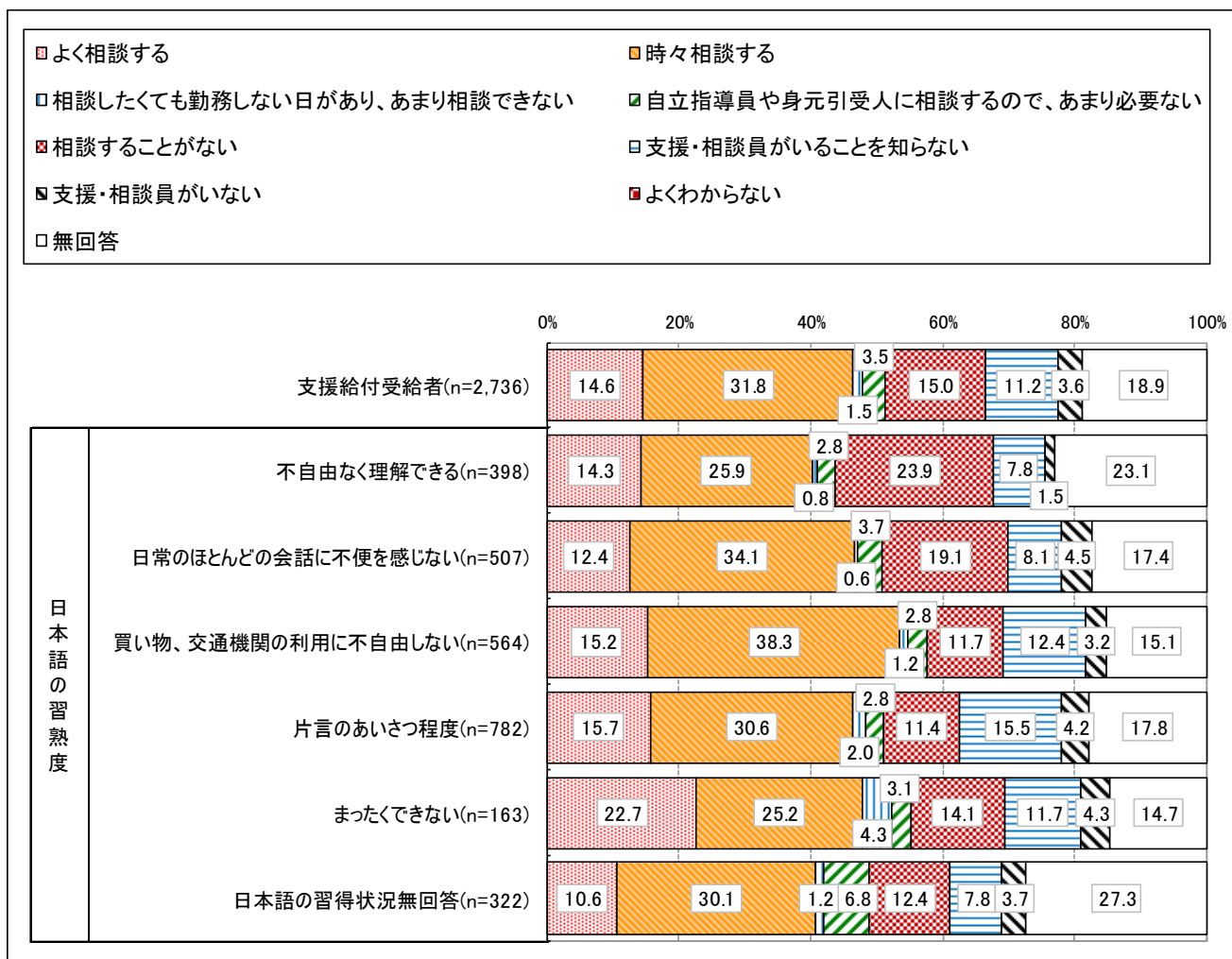
(グラフ19 配偶者支援金の不満足理由)



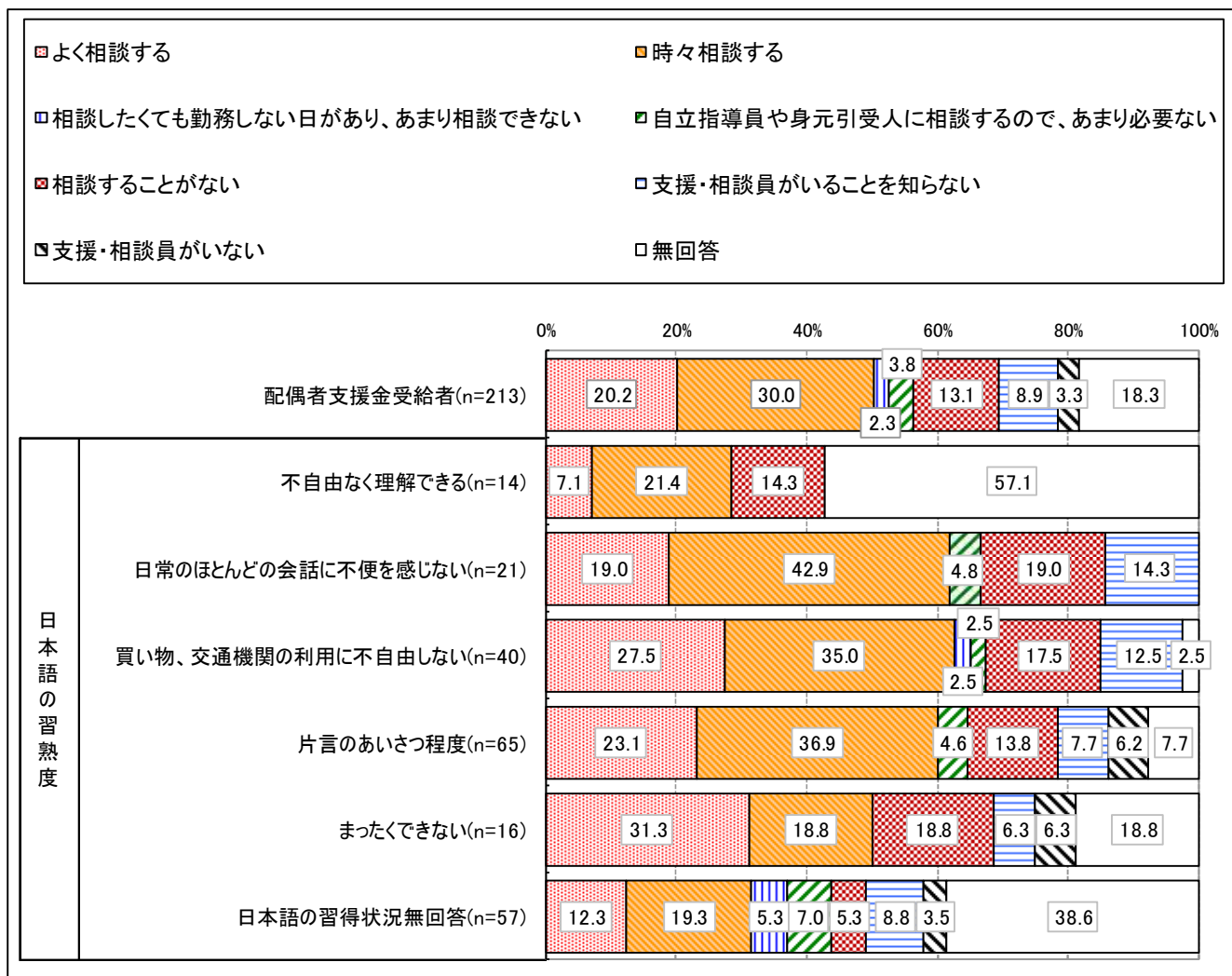
## 5 支援・相談員制度の利用状況

支援給付受給者では、「よく相談する」「時々相談する」が46.4%となっている。  
 配偶者支援金受給者では、「よく相談する」「時々相談する」が50.2%となっている。

(グラフ20 帰国者の支援・相談員制度の利用状況(日本語習熟度別))



(グラフ21 配偶者支援金受給者の支援・相談員制度の利用状況(日本語習熟度別))

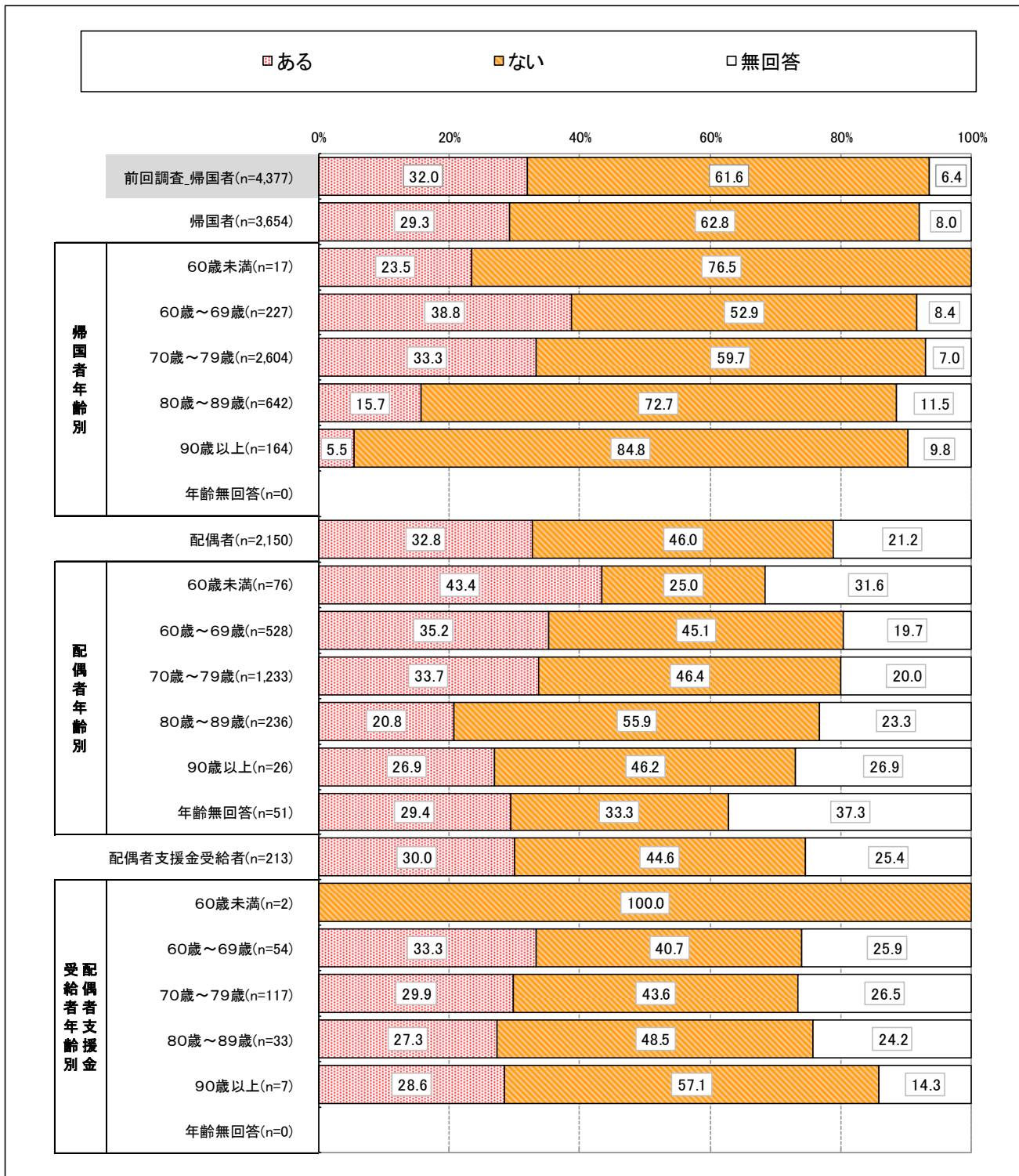


## 6 海外への渡航状況

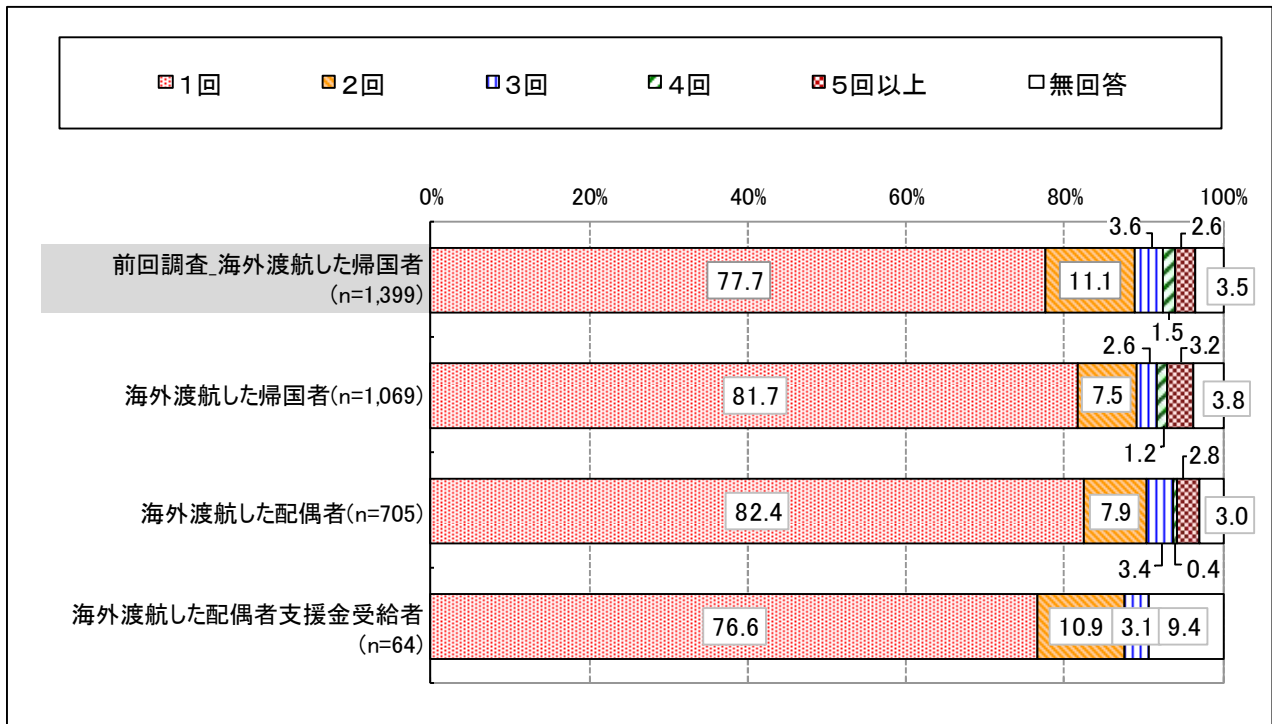
最近1年間に親族訪問、墓参のため「海外渡航をした」帰国者は29.3%、配偶者は32.8%、配偶者支援金受給者は30.0%となっている。

1回あたりの平均渡航期間は、「1カ月以上2カ月未満」が最も多く、帰国者では39.7%、配偶者では44.3%、配偶者支援金受給者では39.1%となっている。

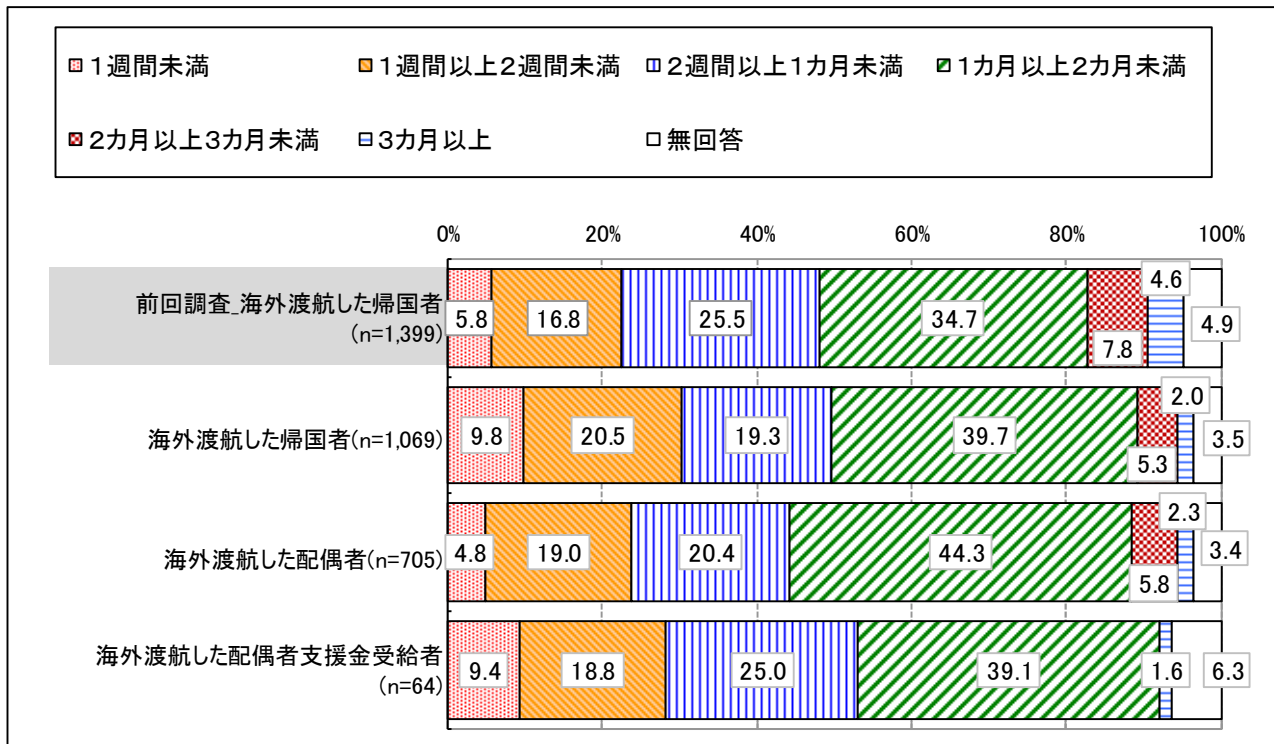
(グラフ22 最近1年間の「親族訪問」、「墓参」のための海外渡航有無(年齢別))



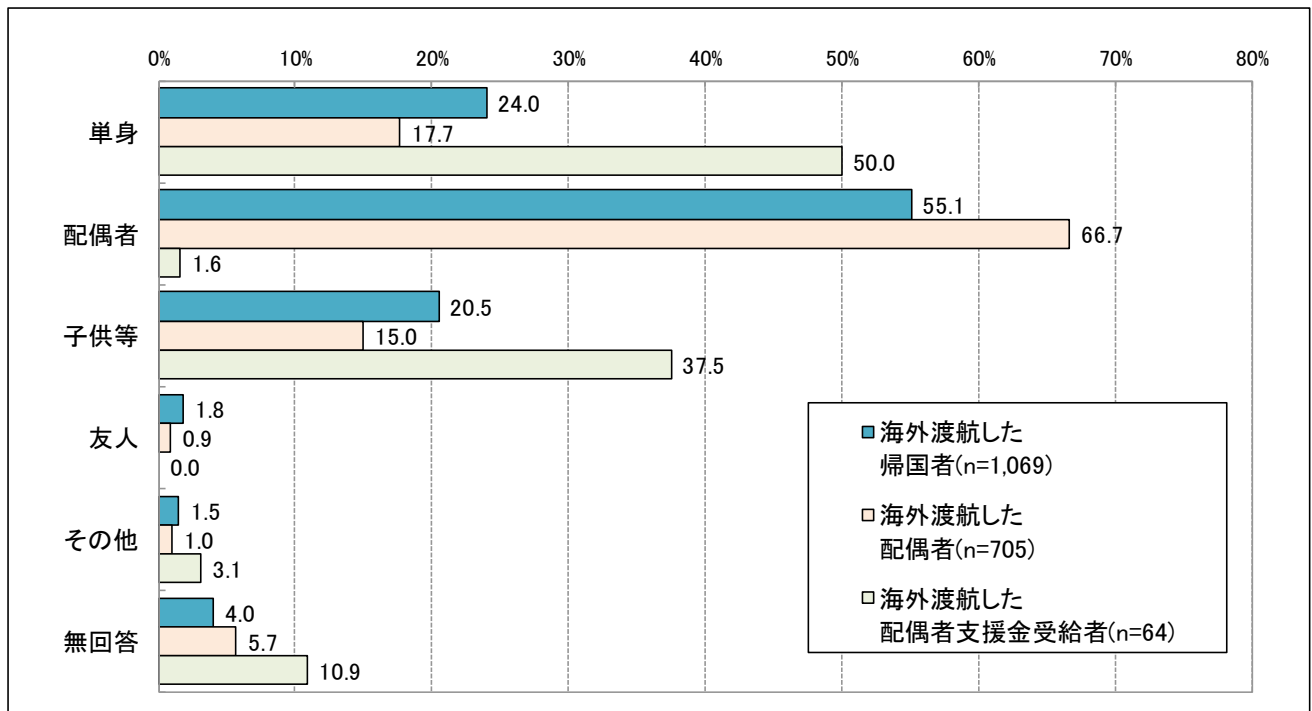
(グラフ23 渡航回数)



(グラフ24 渡航期間)



(グラフ25 海外渡航同行者)〈複数回答〉



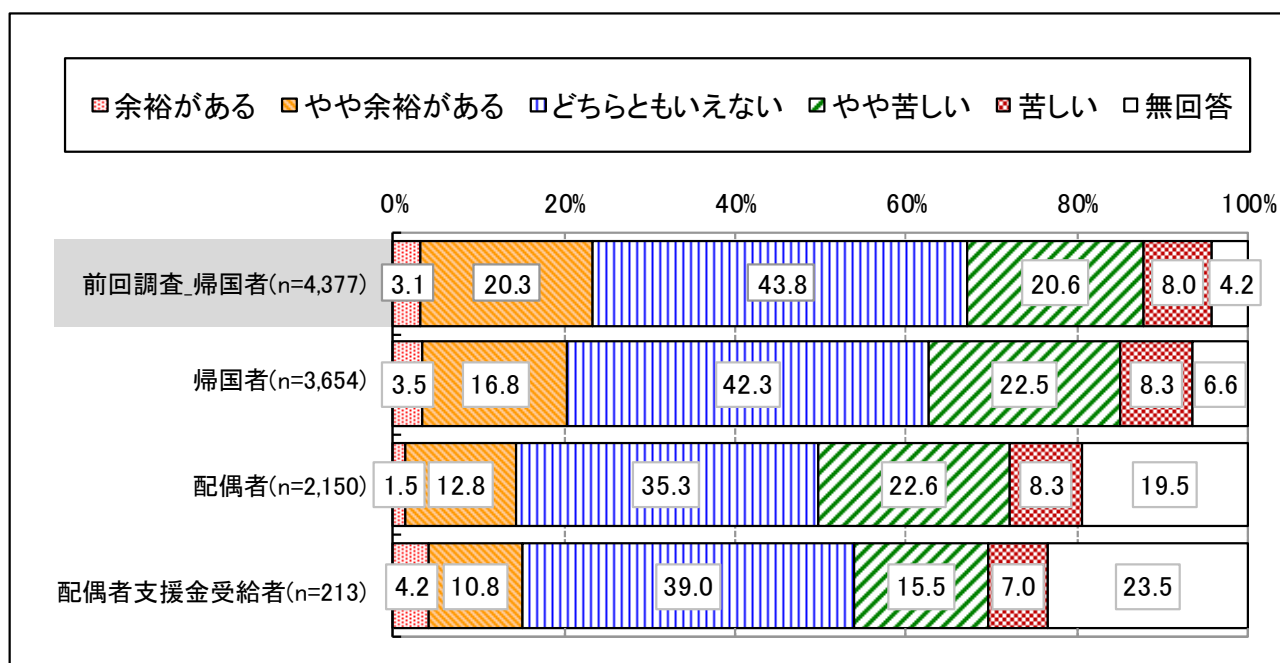
## 7 永住帰国後の生活

### (1) 現在の生活状況

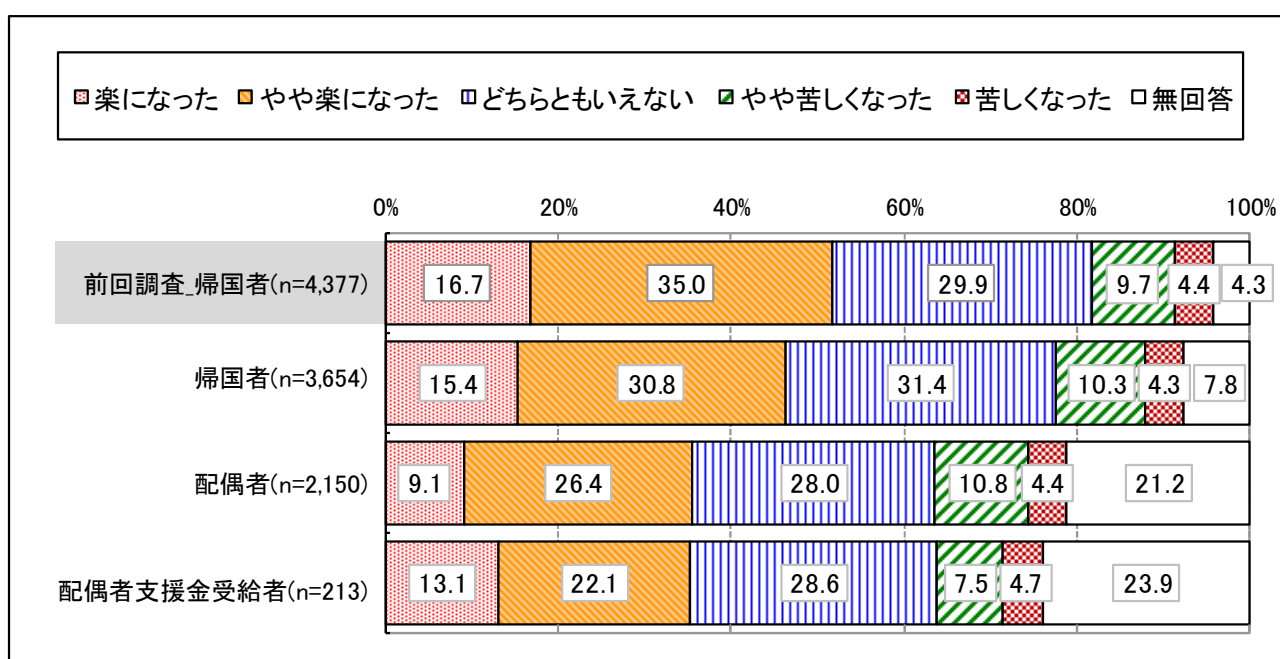
「余裕がある」「やや余裕がある」は、帰国者では20.3%、配偶者では14.3%、配偶者支援金受給者では15.0%となっている。

帰国前に比べて、現在の生活状況が「楽になった」「やや楽になった」は、帰国者では46.2%、配偶者では35.5%、配偶者支援金受給者では35.2%となっている。

(グラフ26 現在の生活状況)



(グラフ27 生活状況の帰国前との比較)



(2) 帰国後の感想

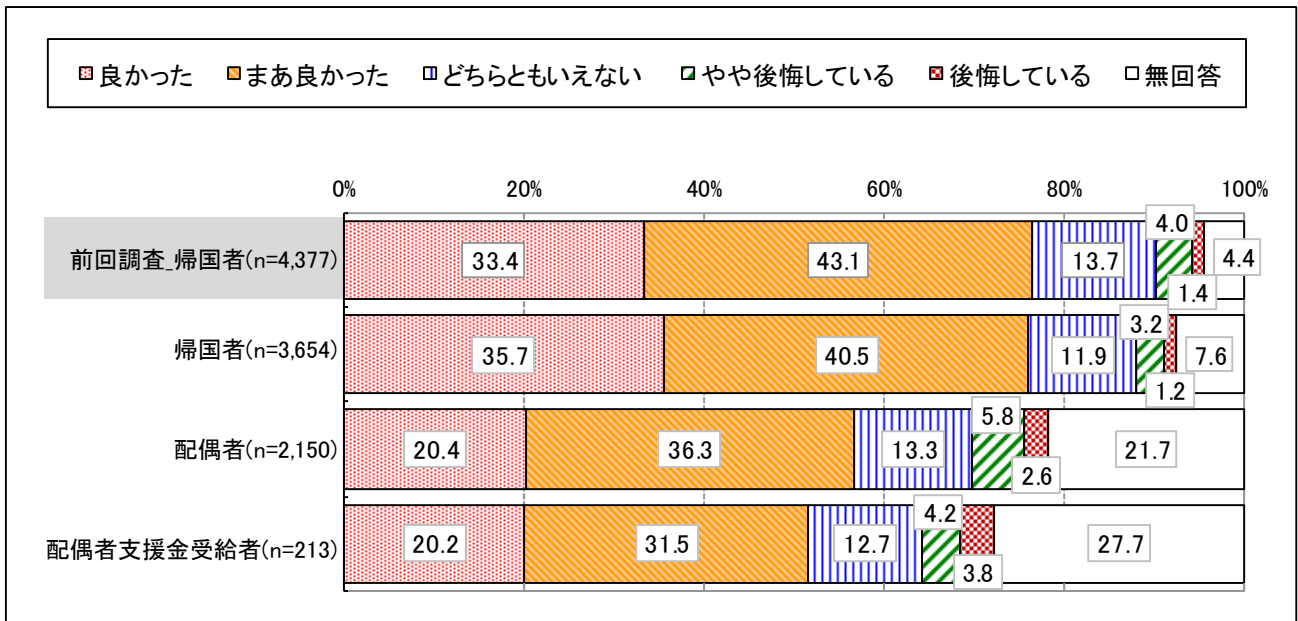
「良かった」「まあ良かった」は、帰国者では76.2%、配偶者では56.7%、配偶者支援金受給者では51.7%となっている。

帰国して良かった理由は、帰国者では、「祖国で生活できるようになった」が54.6%と最も多く、「生活が楽になった」が14.8%、「子供や孫の帰国希望がかなった」が7.5%と続いている。

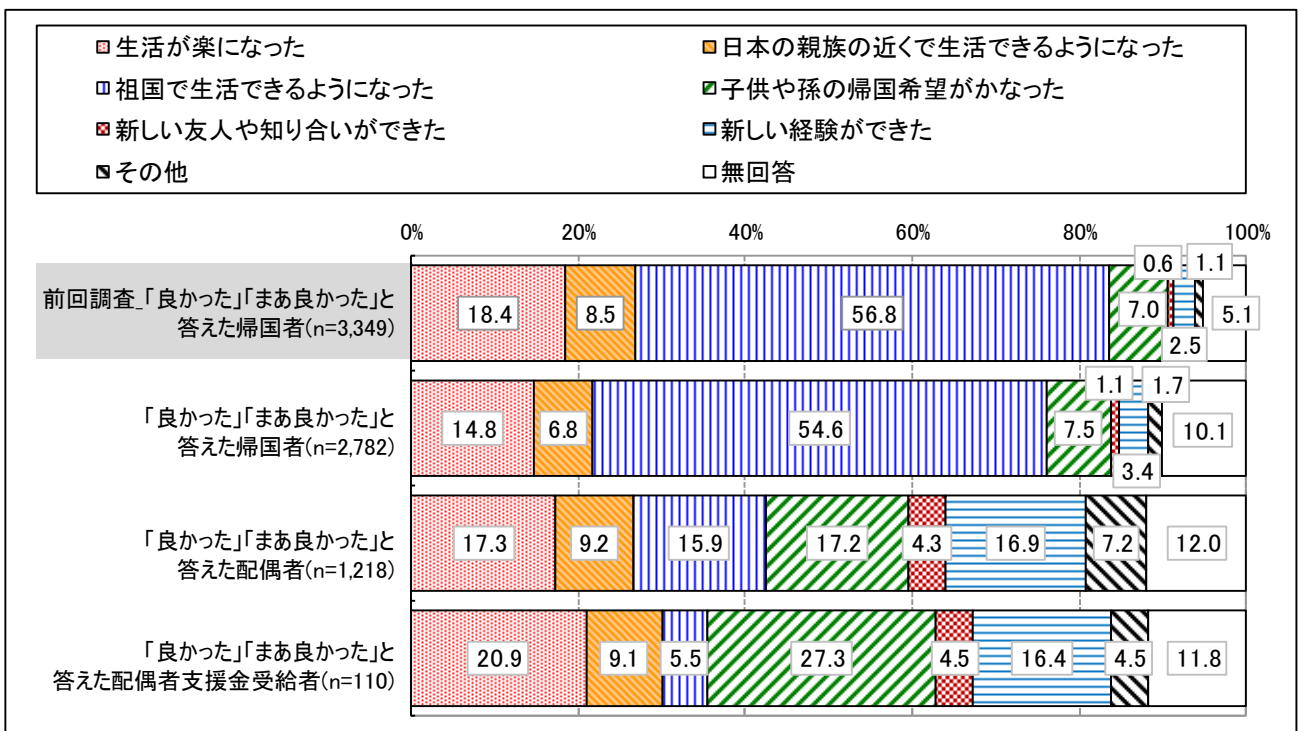
配偶者では、「生活が楽になった」が17.3%、「子供や孫の帰国希望がかなった」が17.2%、「新しい経験ができた」が16.9%と続いている。

配偶者支援金受給者では、「子供や孫の帰国希望がかなった」が27.3%、「生活が楽になった」が20.9%、「新しい経験ができた」が16.4%と続いている。

(グラフ28 帰国後の感想)



(グラフ29 帰国して良かった理由)

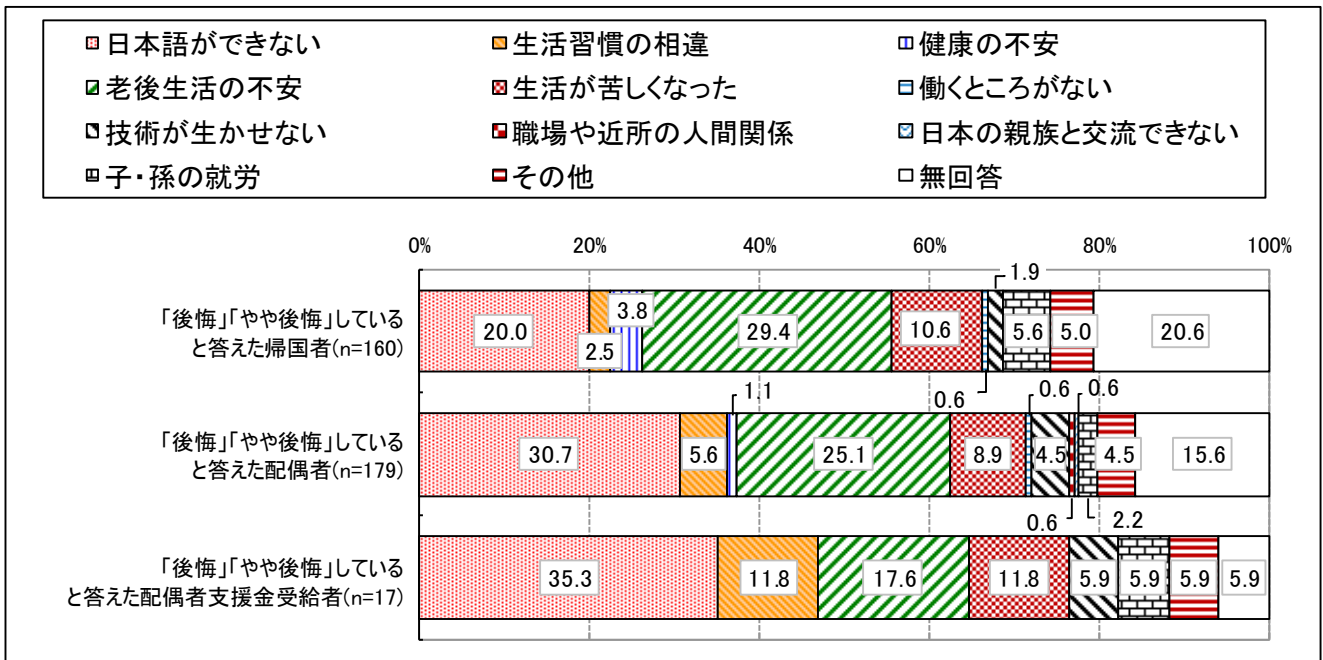


帰国を後悔している理由は、帰国者では、「老後生活の不安」が29.4%と最も多く、「日本語ができない」20.0%が続いている。

配偶者では、「日本語ができない」が30.7%と最も多く、「老後生活の不安」25.1%が続いている。

配偶者支援金受給者では、「日本語ができない」が35.3%と最も多く、「老後生活の不安」17.6%が続いている。

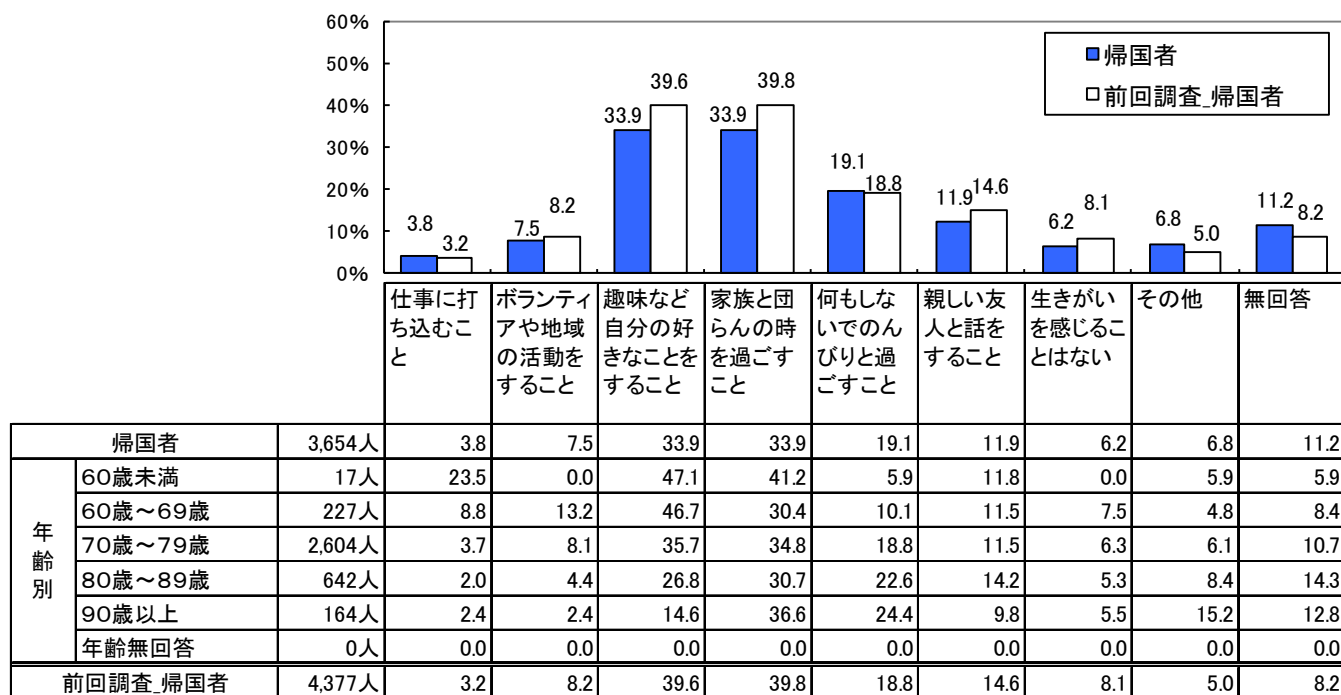
(グラフ30 帰国を後悔している理由)



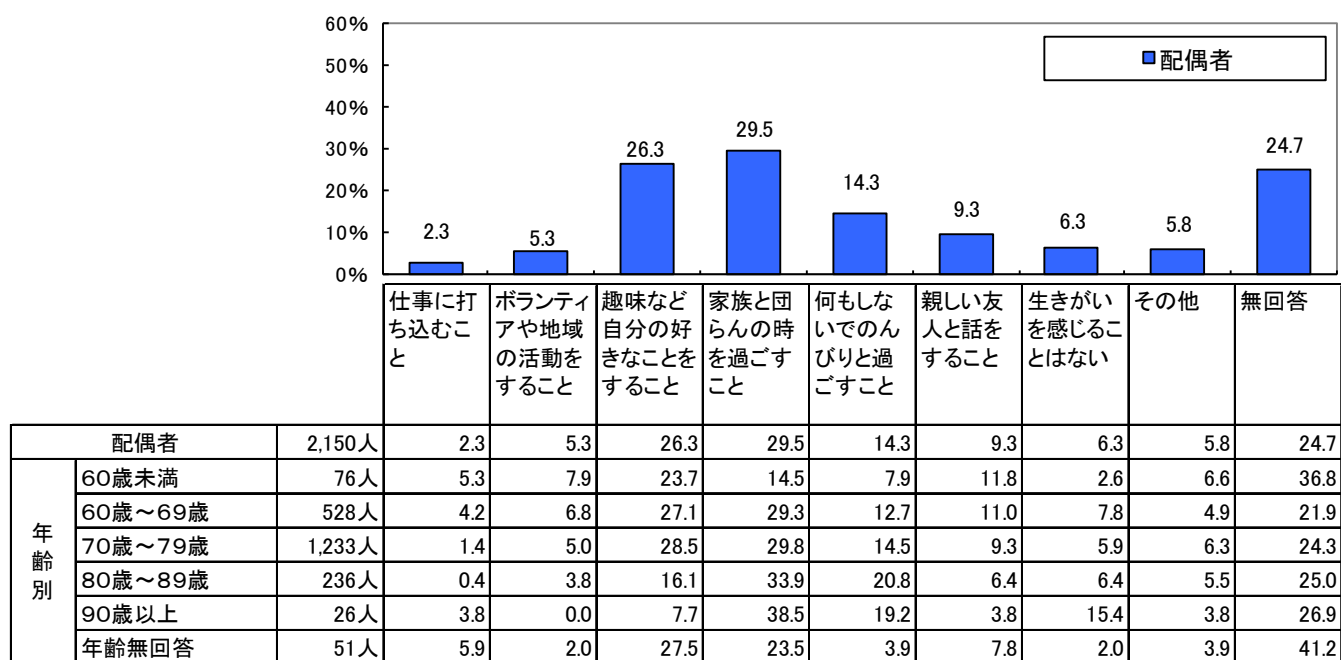
(3)現在の楽しみや生きがい

「趣味など自分の好きなことをすること」と「家族と団らんの時を過ごすこと」などとなっている。

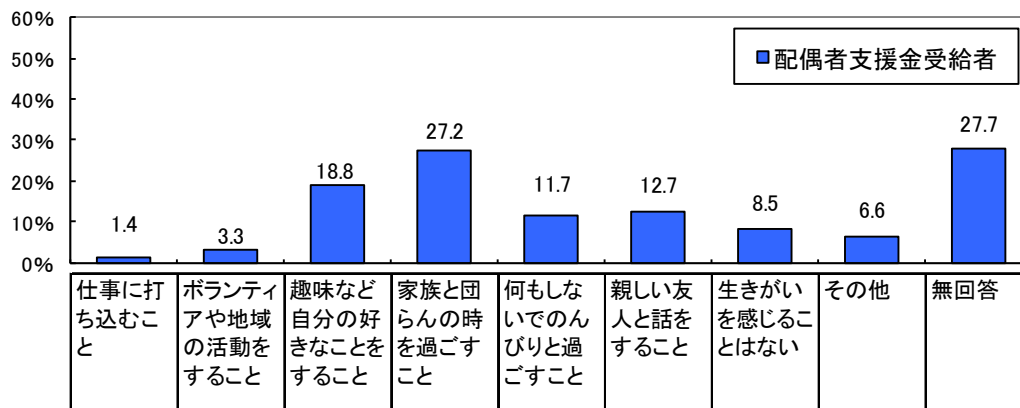
(グラフ31 帰国者の現在の楽しみや生きがい(年齢別))〈複数回答〉



(グラフ32 配偶者の現在の楽しみや生きがい(年齢別))〈複数回答〉



(グラフ33 配偶者支援金受給者の現在の楽しみや生きがい(年齢別))〈複数回答〉



配偶者支援金受給者		仕事に打ち込むこと	ボランティアや地域の活動をする	趣味など自分の好きなことを	家族と団らんを過ごす	何もしないでんびりと過ごす	親しい友人と話す	生きがいを感じない	その他	無回答
配偶者支援金受給者	213人	1.4	3.3	18.8	27.2	11.7	12.7	8.5	6.6	27.7
年齢別	60歳未満	2人	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60歳～69歳	54人	1.9	3.7	18.5	29.7	7.4	18.5	7.4	13.0
	70歳～79歳	117人	1.7	4.2	18.8	27.4	9.4	11.9	7.7	5.9
	80歳～89歳	33人	0.0	0.0	21.2	27.3	18.2	9.1	9.1	0.0
	90歳以上	7人	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	28.6	0.0
年齢無回答	0人	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

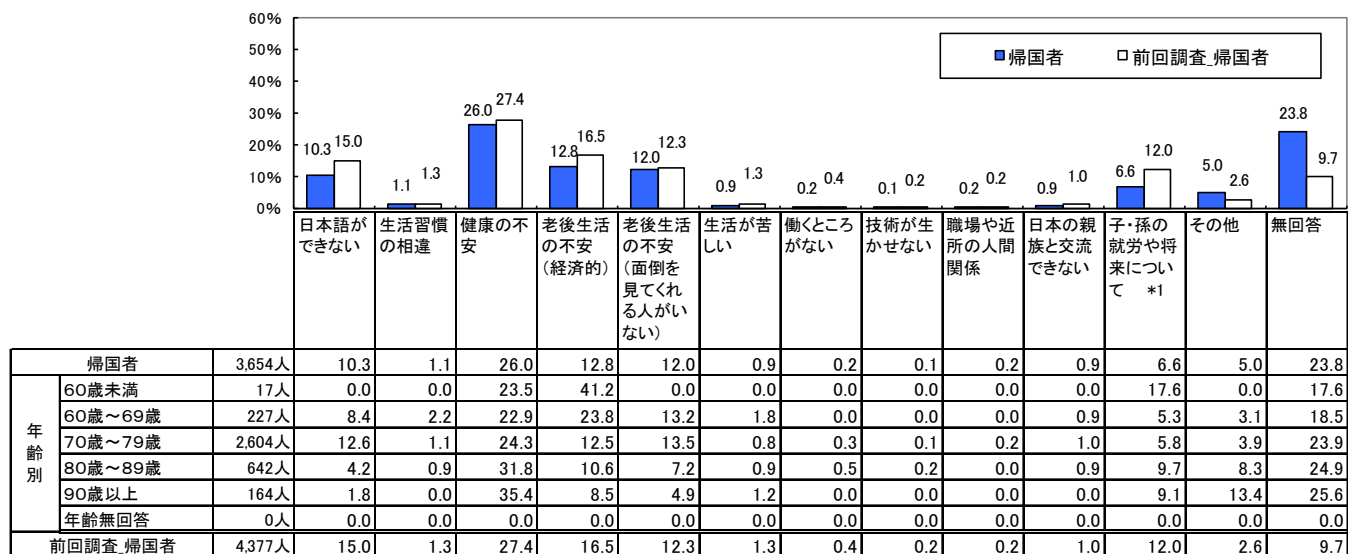
#### (4) 将来に対する心配・不安

帰国者では、「健康の不安」が26.0%と最も多く、「老後生活の不安(経済的)」が12.8%、「老後生活の不安(面倒を見てくれる人がいない)」が12.0%と続いている。

配偶者でも、「健康の不安」が17.5%と最も多く、「老後生活の不安(経済的)」が13.6%、「老後生活の不安(面倒を見てくれる人がいない)」が11.8%と続いている。

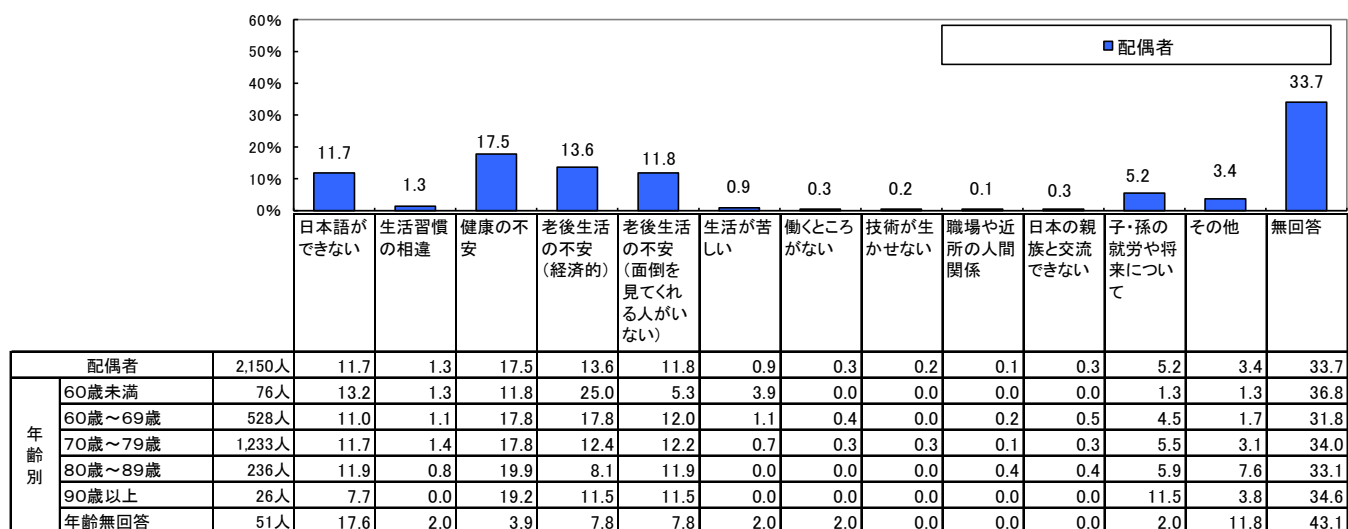
配偶者支援金受給者では、「日本語ができない」が15.5%と最も多く、「健康の不安」が15.0%、「老後生活の不安(経済的)」と「老後生活の不安(面倒を見てくれる人がいない)」が11.3%と続いている。

(グラフ34 帰国者の将来に対する心配・不安(年齢別))

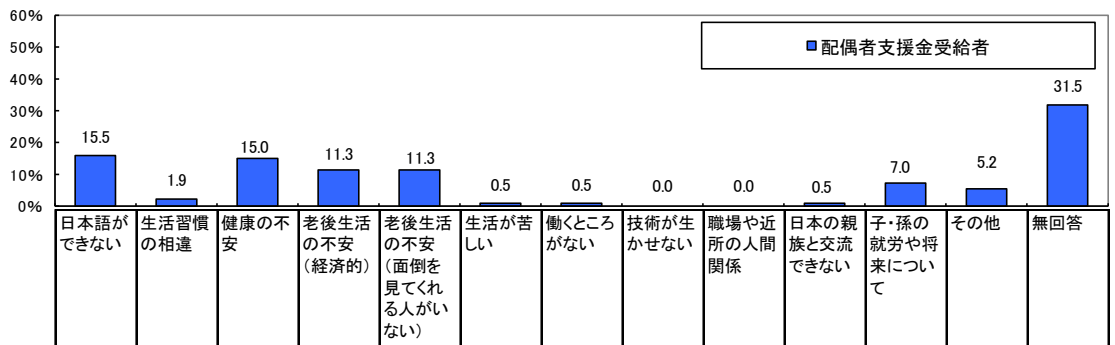


\*1: 前は「子・孫の将来について」

(グラフ35 配偶者の将来に対する心配・不安(年齢別))



(グラフ36 配偶者支援金受給者の帰国者の将来に対する心配・不安(年齢別))



配偶者支援金受給者		213人	15.5	1.9	15.0	11.3	11.3	0.5	0.5	0.0	0.0	0.5	7.0	5.2	31.5	
年齢別	60歳未満	2人	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	60歳～69歳	54人	16.7	1.9	22.2	14.8	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	25.9	
	70歳～79歳	117人	15.4	0.8	14.5	8.6	12.8	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	7.7	6.9	31.6	
	80歳～89歳	33人	15.2	3.0	9.1	15.2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	12.1	3.0	36.4	
	90歳以上	7人	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9	
	年齢無回答	0人	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

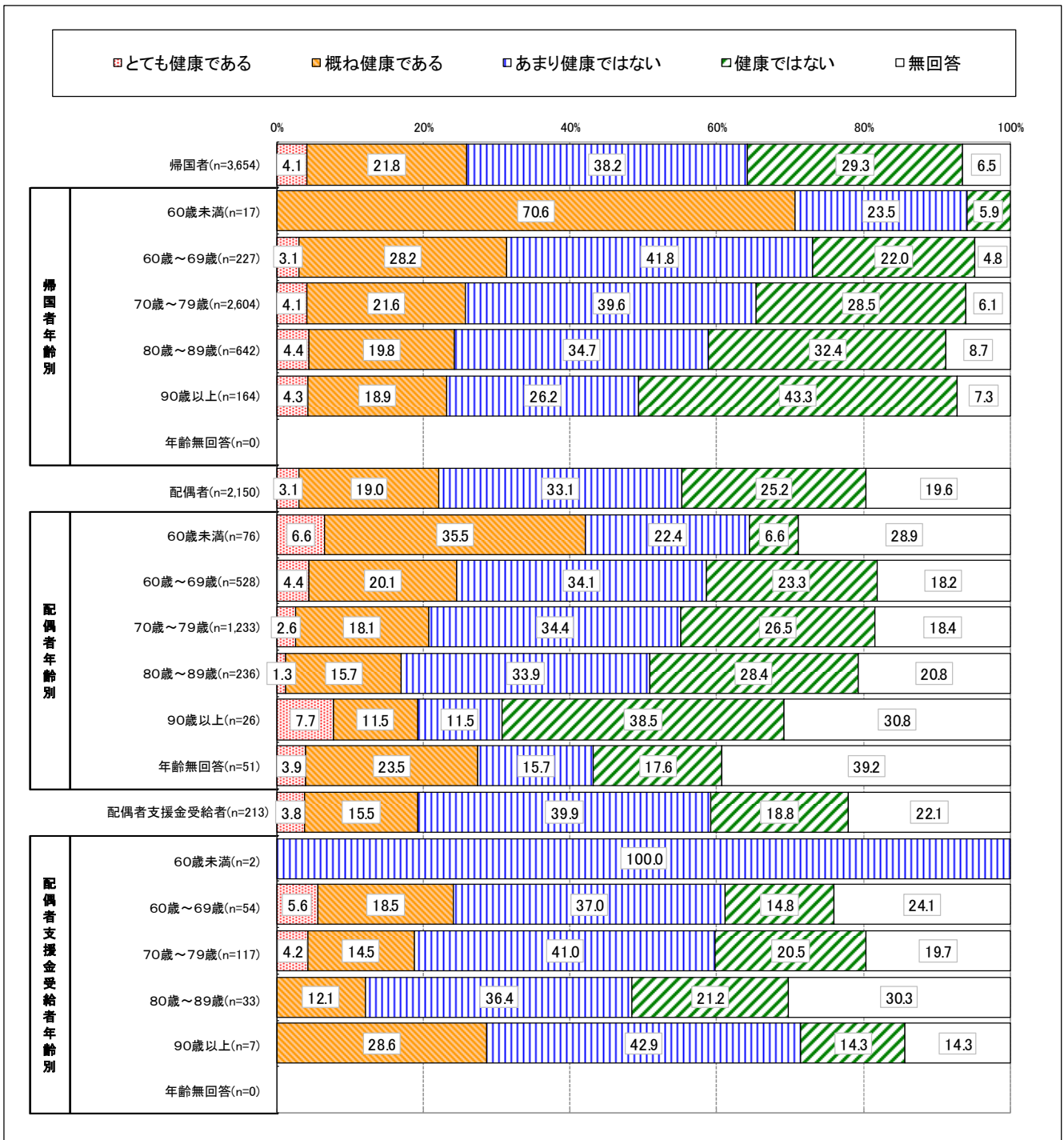
## 8 健康状況等

### (1) 健康状況

「とても健康である」「概ね健康である」は、帰国者では25.9%、配偶者では22.1%、配偶者支援金受給者では19.3%となっている。

「あまり健康ではない」「健康ではない」は、帰国者では67.5%、配偶者では58.3%、配偶者支援金受給者では58.7%となっている。

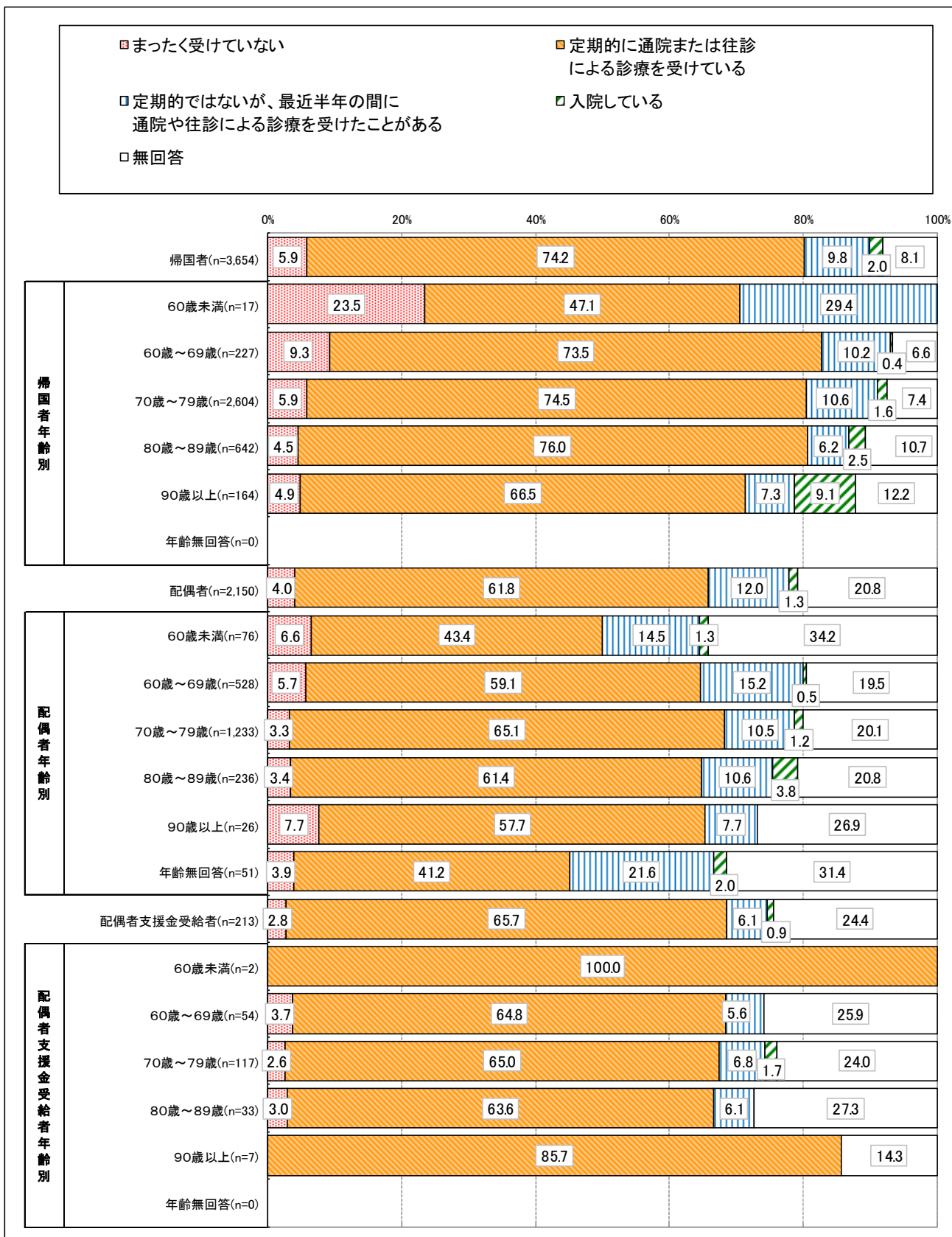
(グラフ37 健康状況(年齢別))



(2) 医療機関の受診状況

「定期的に通院または往診による診療を受けている」は、帰国者では74.2%、配偶者では61.8%、配偶者支援金受給者では65.7%となっている。

(グラフ38 医療機関の受診状況(介護サービスを除く)(年齢別))



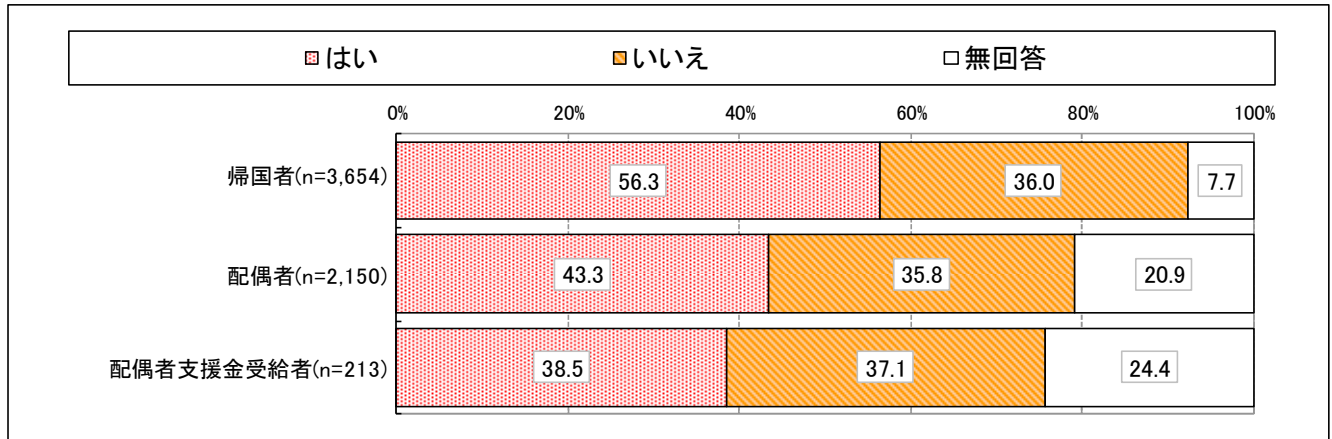
### (3) 介護保険制度の認知度

帰国者では「知っている」が56.3%、「知らない」が36.0%となっている。

配偶者では「知っている」が43.3%、「知らない」が35.8%となっている。

配偶者支援金受給者では「知っている」が38.5%、「知らない」が37.1%となっている。

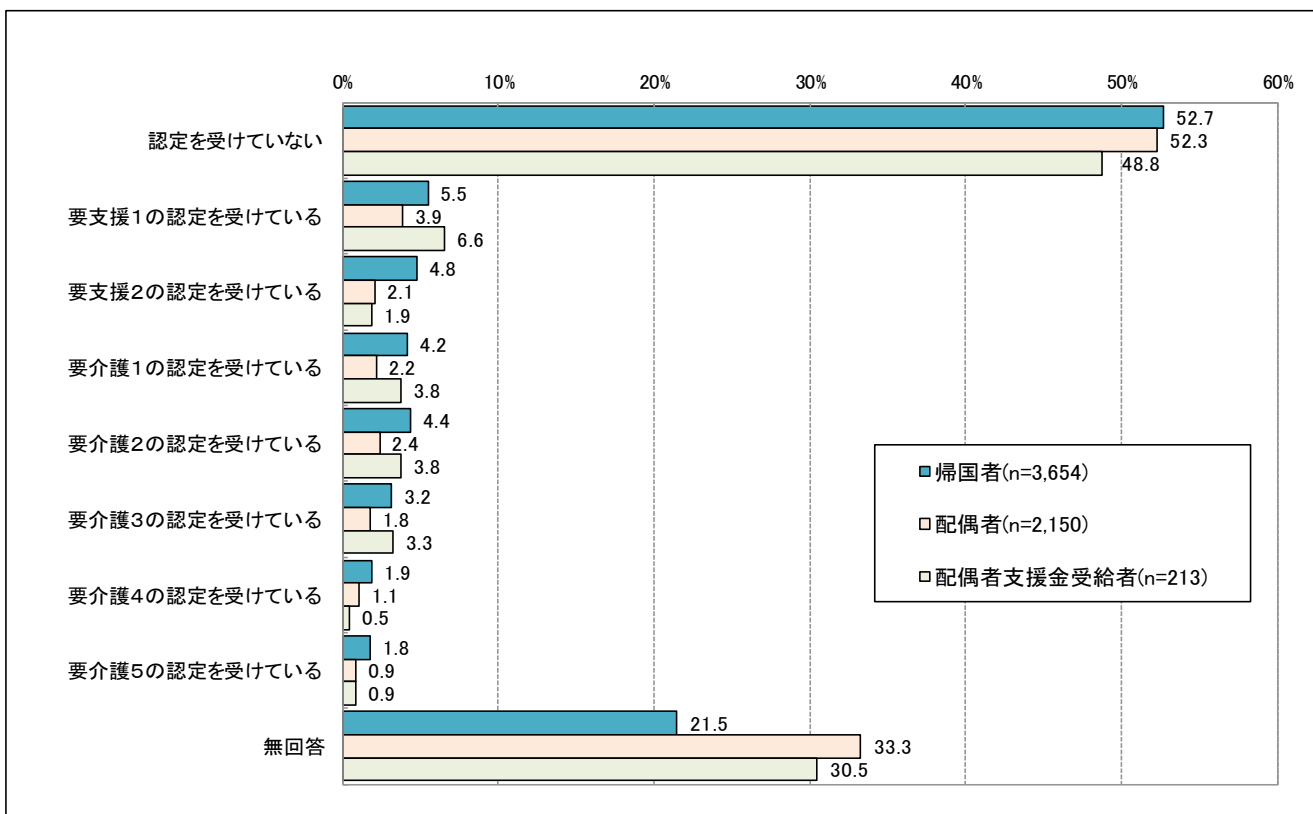
(グラフ39 介護保険制度を知っているか)



(4) 要介護(要支援)認定の状況

要介護(要支援)認定を受けている帰国者は25.8%、配偶者は14.4%、配偶者支援金受給者は20.8%となっている。

(グラフ40 要介護(要支援)認定の状況)



(表3 要介護(要支援)認定の程度(年齢別))

		認定を受けていない	認定を受けている								無回答	
			要支援1の認定を受けている	要支援2の認定を受けている	要介護1の認定を受けている	要介護2の認定を受けている	要介護3の認定を受けている	要介護4の認定を受けている	要介護5の認定を受けている			
帰国者		3,654人	52.7	25.8	5.5	4.8	4.2	4.4	3.2	1.9	1.8	21.5
帰国者 年齢別	60歳未満	17人	64.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.3
	60歳～64歳	37人	59.5	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	37.8
	65歳～69歳	190人	65.3	10.5	1.6	2.6	2.6	1.1	1.6	0.5	0.5	24.2
	70歳～74歳	1,573人	61.2	16.0	3.9	3.6	2.5	3.1	1.1	1.2	0.6	22.7
	75歳～79歳	1,031人	52.2	26.8	6.3	6.1	4.9	3.6	3.2	1.4	1.3	21.0
	80歳～89歳	642人	37.4	43.7	9.3	6.2	7.6	8.6	5.8	2.6	3.6	18.8
	90歳以上	164人	16.5	68.4	7.3	5.5	6.1	11.6	16.5	10.4	11.0	15.2
	年齢無回答	0人	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
配偶者		2,150人	52.3	14.4	3.9	2.1	2.2	2.4	1.8	1.1	0.9	33.3
配偶者 年齢別	60歳未満	76人	53.9	2.6	1.3	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	43.4
	60歳～64歳	123人	56.1	4.0	2.4	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	39.8
	65歳～69歳	405人	60.5	8.0	2.7	0.7	1.2	2.2	0.5	0.5	0.2	31.4
	70歳～74歳	707人	53.6	12.0	3.0	1.1	2.4	2.7	1.4	0.6	0.8	34.4
	75歳～79歳	526人	51.5	17.5	5.5	3.0	2.7	1.7	2.1	1.7	0.8	31.0
	80歳～89歳	236人	39.4	30.9	6.4	5.9	3.8	4.2	5.1	2.5	3.0	29.7
	90歳以上	26人	26.9	38.4	3.8	7.7	0.0	7.7	7.7	3.8	7.7	34.6
	年齢無回答	51人	39.2	17.7	3.9	3.9	2.0	3.9	2.0	2.0	0.0	43.1
配偶者支援金受給者		213人	48.8	20.8	6.6	1.9	3.8	3.8	3.3	0.5	0.9	30.5
受給者 年齢別	60歳未満	2人	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	60歳～64歳	6人	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	65歳～69歳	48人	62.5	6.3	4.2	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.3
	70歳～74歳	66人	54.5	21.1	9.1	0.0	4.5	3.0	4.5	0.0	0.0	24.2
	75歳～79歳	51人	35.3	27.5	7.8	2.0	5.9	5.9	0.0	2.0	3.9	37.3
	80歳～89歳	33人	42.4	24.4	0.0	6.1	6.1	6.1	6.1	0.0	0.0	33.3
	90歳以上	7人	14.3	71.5	28.6	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3
	年齢無回答	0人	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

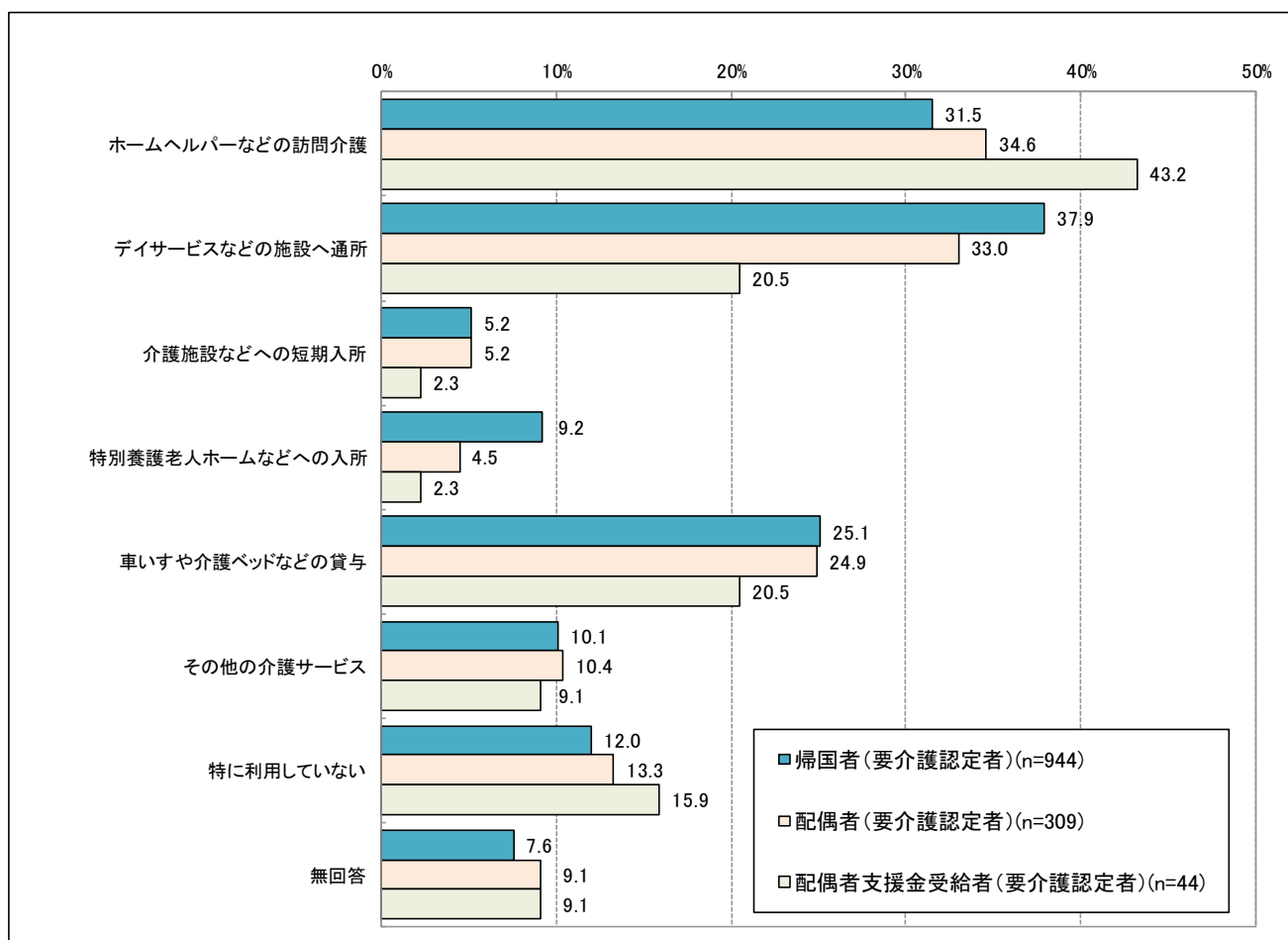
(5) 介護サービスの利用状況

要介護(要支援)認定を受けている帰国者では、「デイサービスなどの施設へ通所」が37.9%と最も多く、「ホームヘルパーなどの訪問介護」が31.5%、「車いすや介護ベッドなどの貸与」が25.1%と続いている。

配偶者では、「ホームヘルパーなどの訪問介護」が34.6%と最も多く、「デイサービスなどの施設へ通所」が33.0%、「車いすや介護ベッドなどの貸与」が24.9%と続いている。

配偶者支援金受給者では、「ホームヘルパーなどの訪問介護」が43.2%と最も多く、「デイサービスなどの施設へ通所」と「車いすや介護ベッドなどの貸与」が20.5%と続いている。

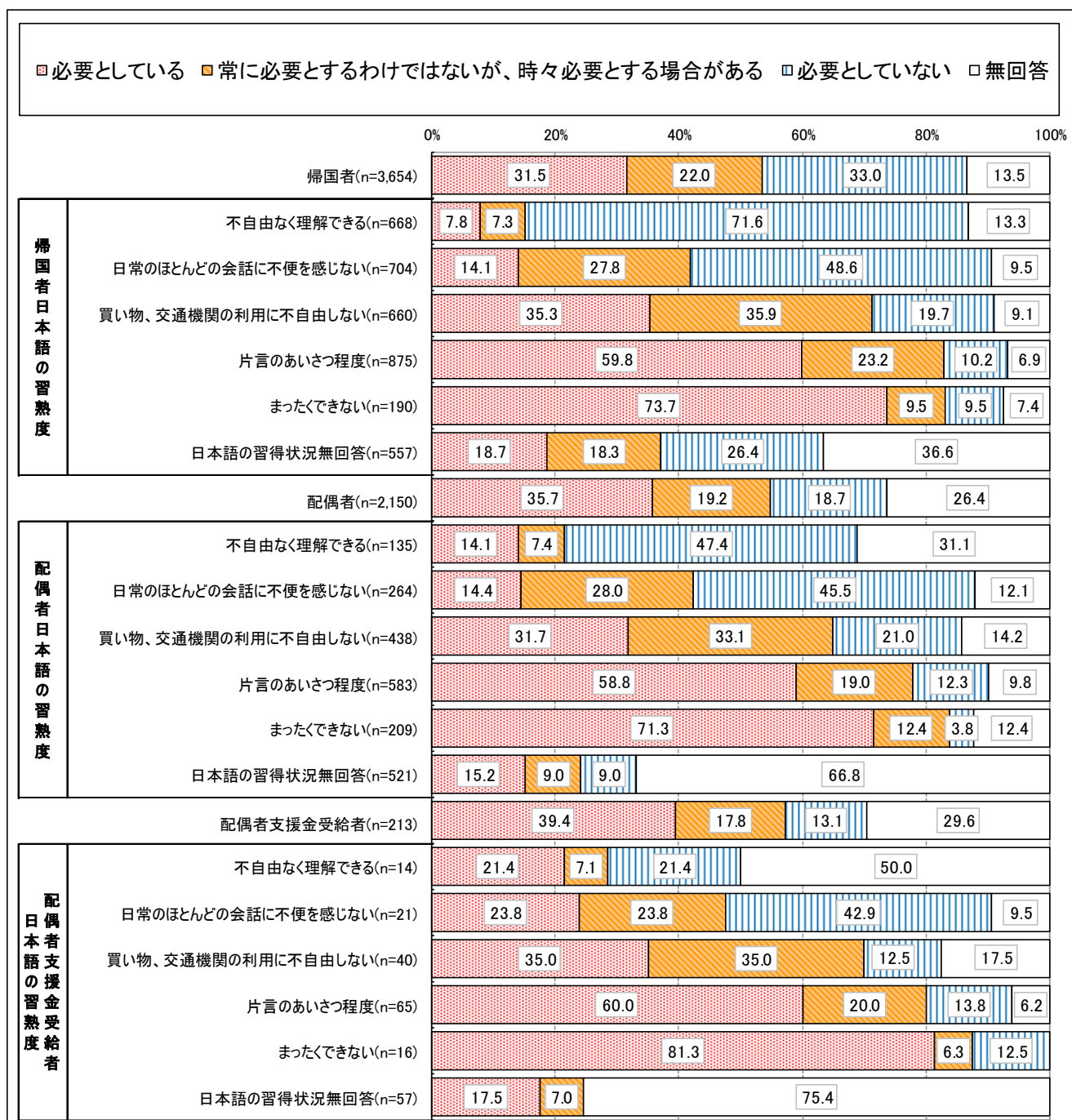
(グラフ41 介護サービスの利用状況)〈複数回答〉



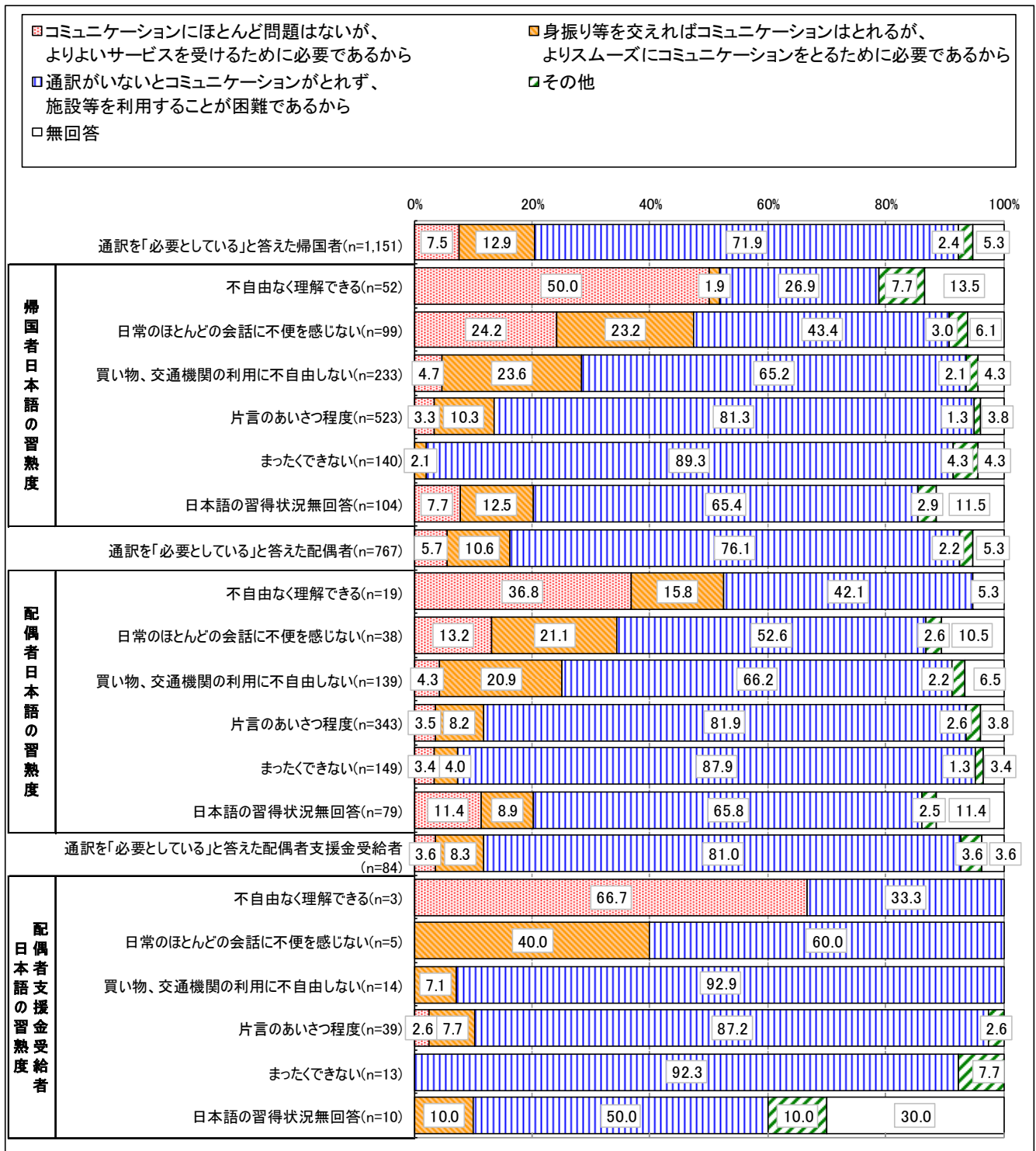
(6) 病院・介護サービス利用時の通訳必要度

帰国者では、通訳を「必要としている」「時々必要とする場合がある」は53.5%となっている。  
 配偶者では、通訳を「必要としている」「時々必要とする場合がある」は54.9%となっている。  
 配偶者支援金受給者では、通訳を「必要としている」「時々必要とする場合がある」は57.2%となっている。

(グラフ42 病院・介護サービス利用時の通訳必要度(日本語習熟度別))



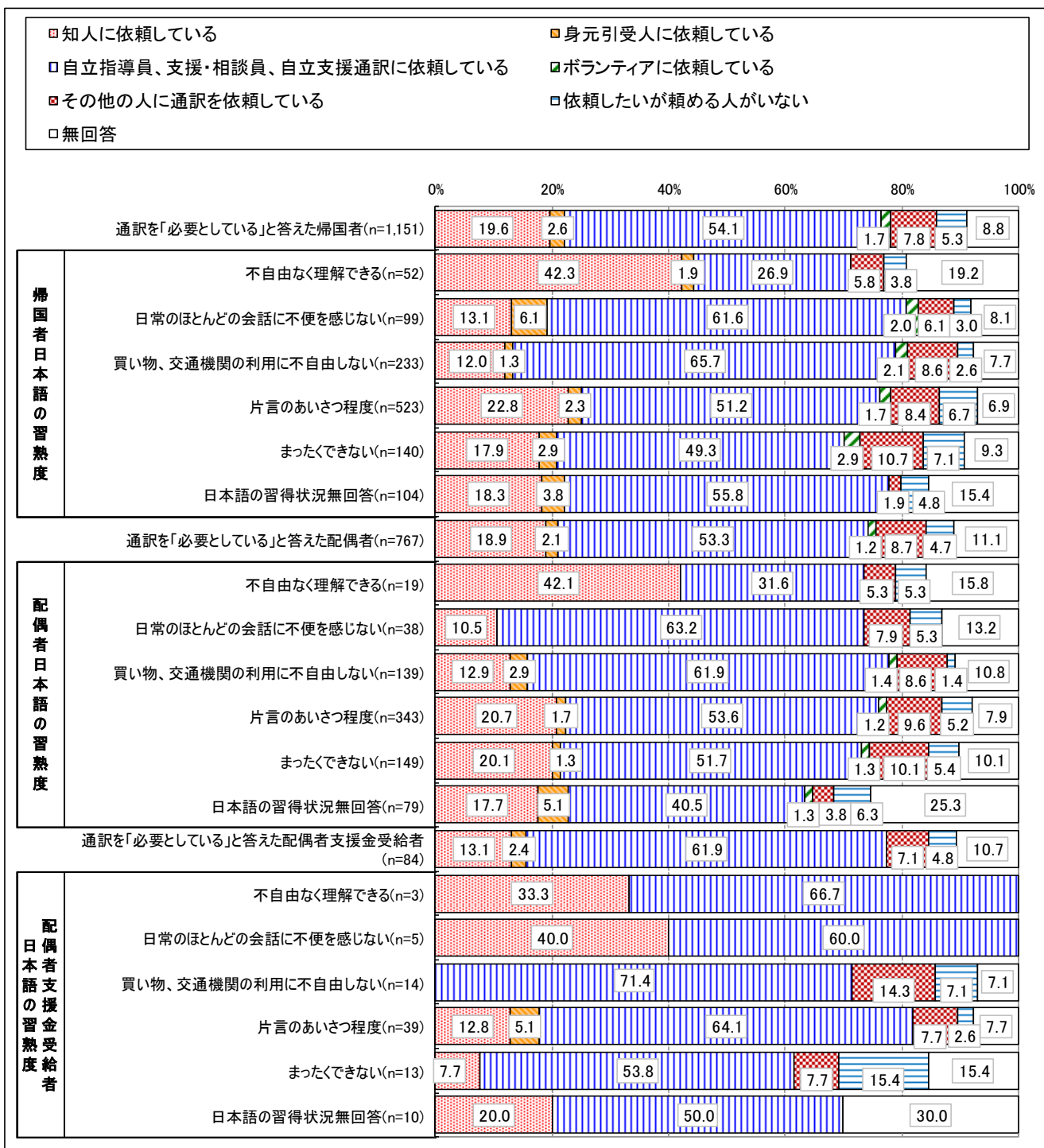
(グラフ43 通訳が必要な理由(日本語習熟度別))



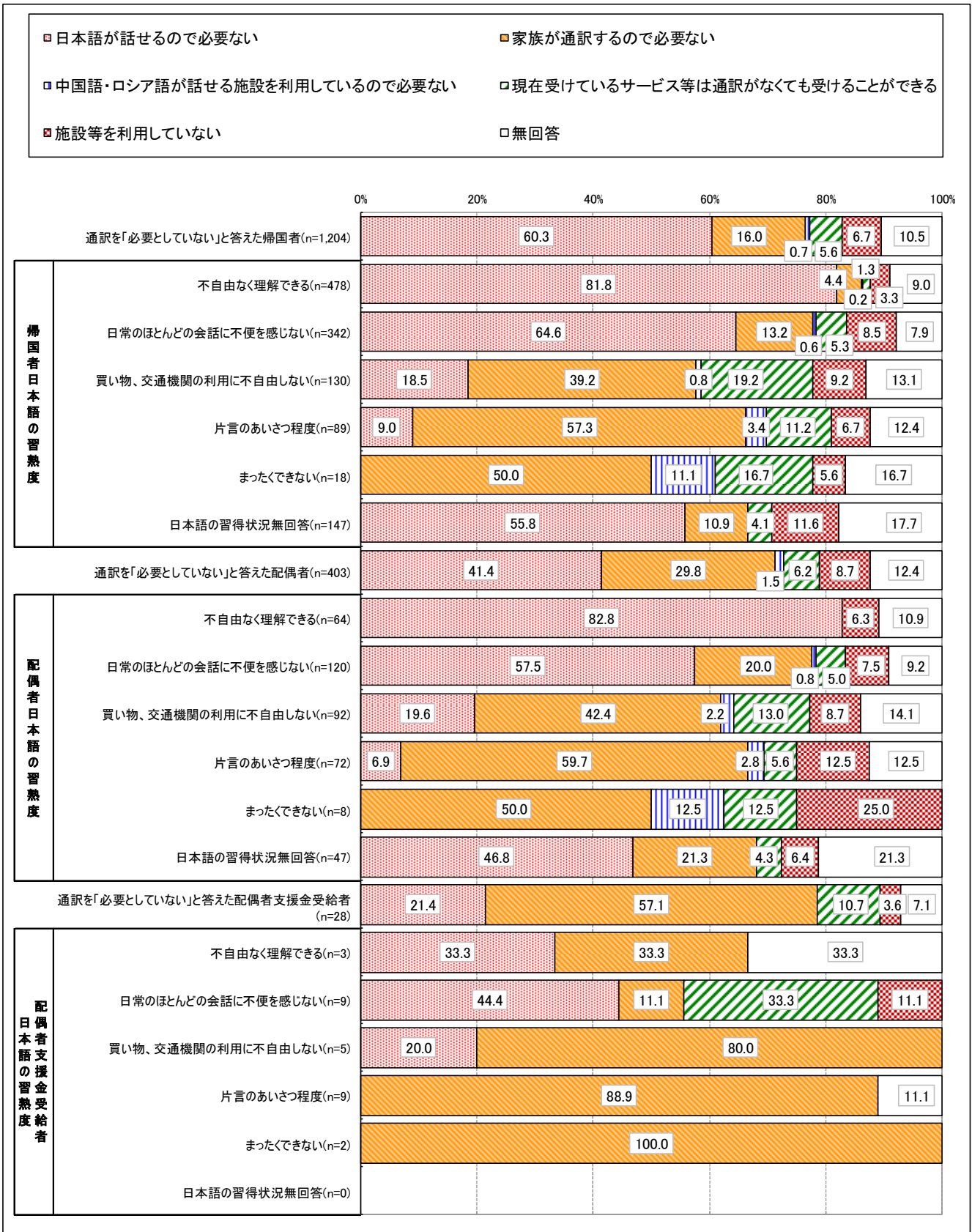
(7) 通訳依頼先

「自立指導員、支援・相談員、自立支援通訳」が最も多く、帰国者では54.1%、配偶者では53.3%、配偶者支援金受給者では61.9%となっている。

(グラフ44 通訳依頼先(日本語習熟度別))



(グラフ45 通訳を必要としない理由(日本語習熟度別))



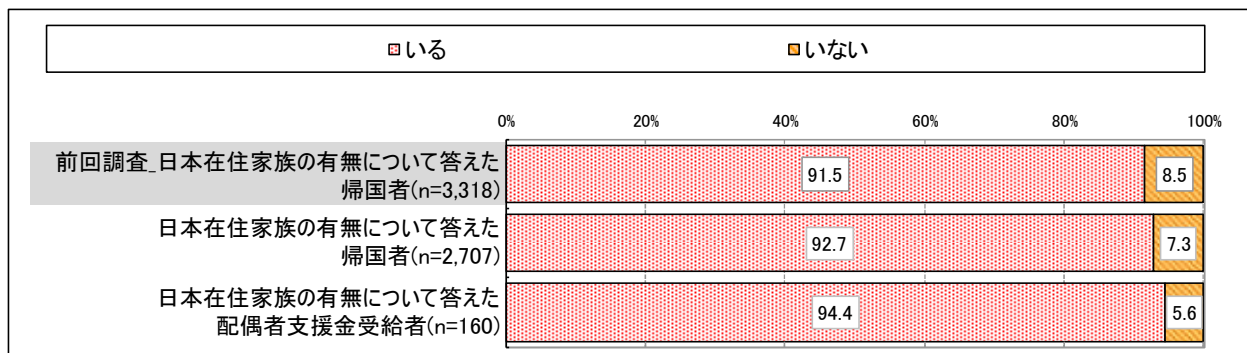
## 9 家族の状況

### (1) 日本に在住している家族の状況

帰国者では「日本に在住している家族がいる」は92.7%で、帰国者1人当たりで見ると、その人数は平均で10.1人となっている。

配偶者支援金受給者では「日本に在住している家族がいる」は94.4%で、配偶者支援金受給者1人当たりで見ると、その人数は9.5人となっている。

(グラフ46 日本に在住している家族の有無)



(表4 帰国者の日本在住家族の続柄別人数)

	帰国者	養父母	配偶者	子	子の配偶者	孫	その他	合計
日本在住家族がいる帰国者数(続柄別)		121人	1,611人	2,471人	2,125人	1,994人	135人	
日本在住家族の人数(A)	2,707人	173人	1,611人	7,866人	5,939人	8,507人	637人	27,440人
帰国者1人当たりの日本在住家族の人数(A / 帰国者数=2,707人)	1.0人	0.1人	0.6人	2.9人	2.2人	3.1人	0.2人	10.1人
前回調査_帰国者1人当たりの日本在住家族の人数	1.0人	0.0人	0.7人	2.8人	2.1人	2.4人	0.3人	9.2人

(表5 帰国者の中国在住家族の続柄別人数)

	養父母	配偶者	子	子の配偶者	孫	その他	合計
中国在住家族がいる帰国者数(続柄別)	97人	43人	294人	233人	253人	105人	
中国在住家族の人数(A)	131人	43人	477人	356人	564人	293人	1,864人
帰国者1人当たりの中国在住家族の人数(A / 帰国者数=2,707人)	0.0人	0.0人	0.2人	0.1人	0.2人	0.1人	0.7人
前回調査_帰国者1人当たりの中国在住家族の人数	0.1人	0.0人	0.2人	0.2人	0.2人	0.2人	0.9人

(表6 配偶者支援金受給者の日本在住家族の続柄別人数)

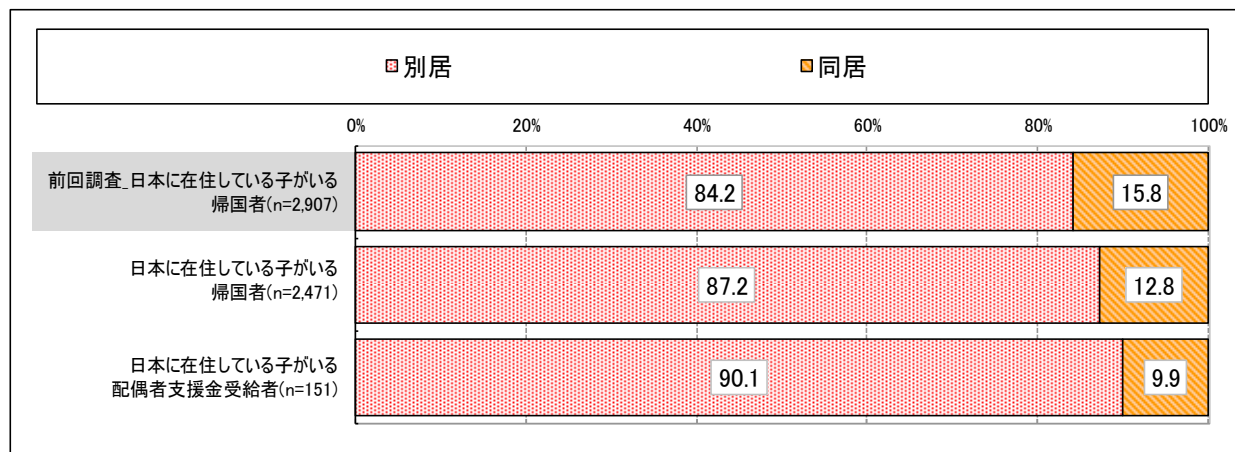
	配偶者支援金受給者	養父母	配偶者	子	子の配偶者	孫	その他	合計
日本在住家族がいる配偶者支援金受給者(続柄別)		5人	0人	151人	138人	127人	7人	
日本在住家族の人数(A)	160人	6人	0人	483人	364人	479人	21人	1,513人
配偶者支援金受給者1人当たりの日本在住家族の人数(A / 配偶者支援金受給者数=160人)	1.0人	0.0人	0.0人	3.0人	2.3人	3.0人	0.1人	9.5人

(2) 世帯の状況

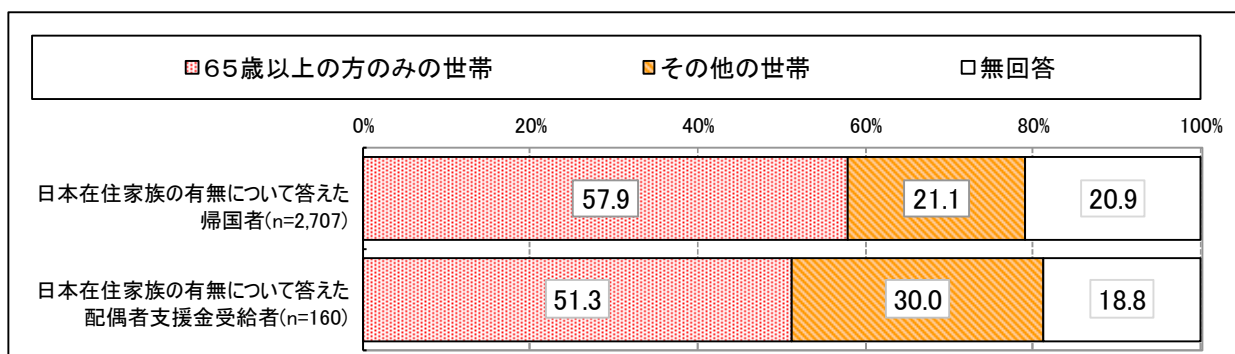
「日本に在住している子と同居している」は、帰国者では12.8%、配偶者支援金受給者では9.9%となっている。

「65歳以上のみで構成される世帯」は、帰国者では57.9%、配偶者支援金受給者では51.3%となっている。

(グラフ47 日本在住の子との同居の有無)



(グラフ48 65歳以上のみの世帯)



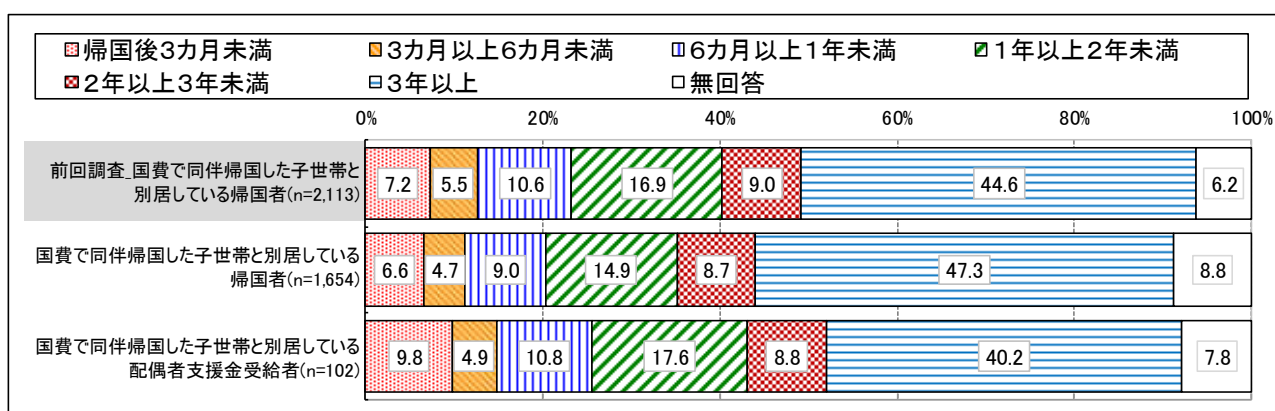
(3) 同伴帰国した子世帯の状況

国費で同伴帰国した子世帯と別居するまでの期間は「3年以上」が最も多く、帰国者では47.3%、配偶者支援金受給者では40.2%となっている。

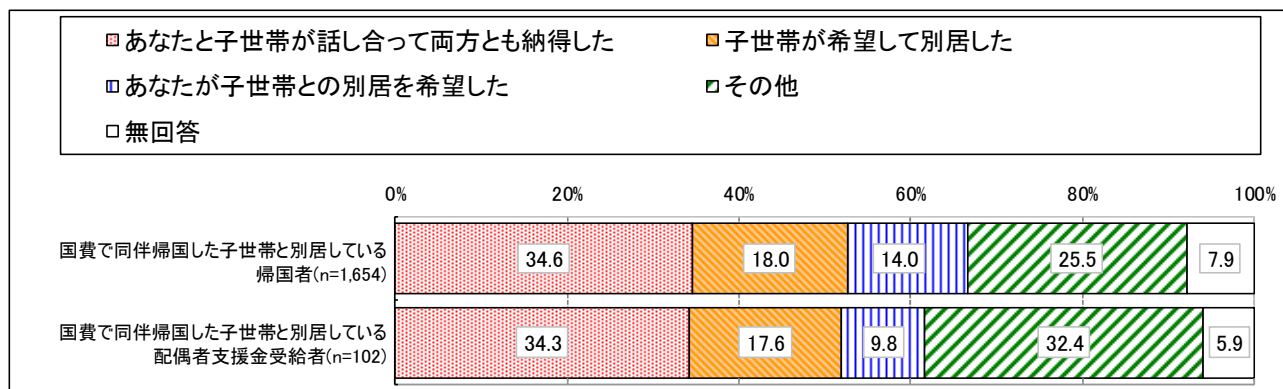
別居した時の状況は、「子世帯と話し合って両方とも納得した」が帰国者では34.6%、配偶者支援金受給者では34.3%、「子世帯が希望して別居した」が帰国者では18.0%、配偶者支援金受給者では17.6%となっている。

別居した理由は「家が狭い」が最も多く、帰国者では35.1%、配偶者支援金受給者では37.3%となっている。

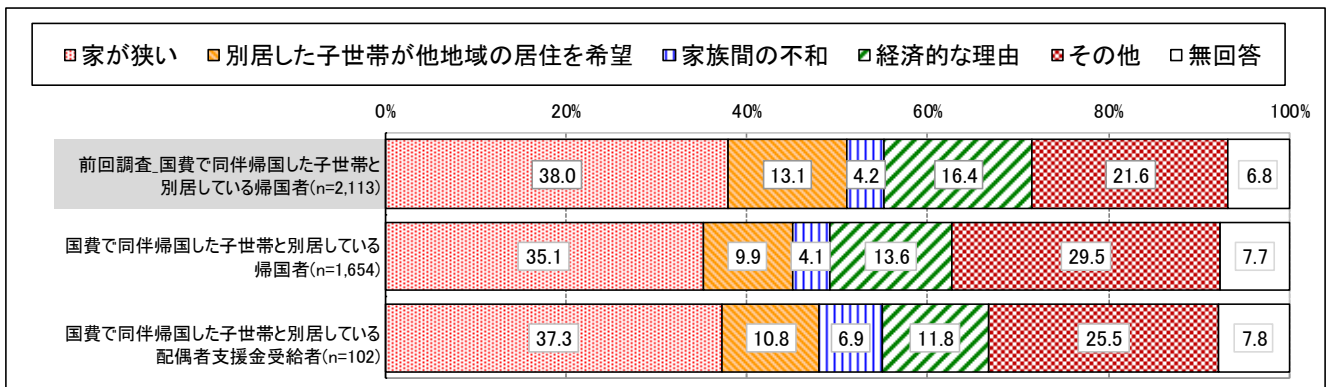
(グラフ49 国費で同伴帰国した子世帯と別居までの期間)



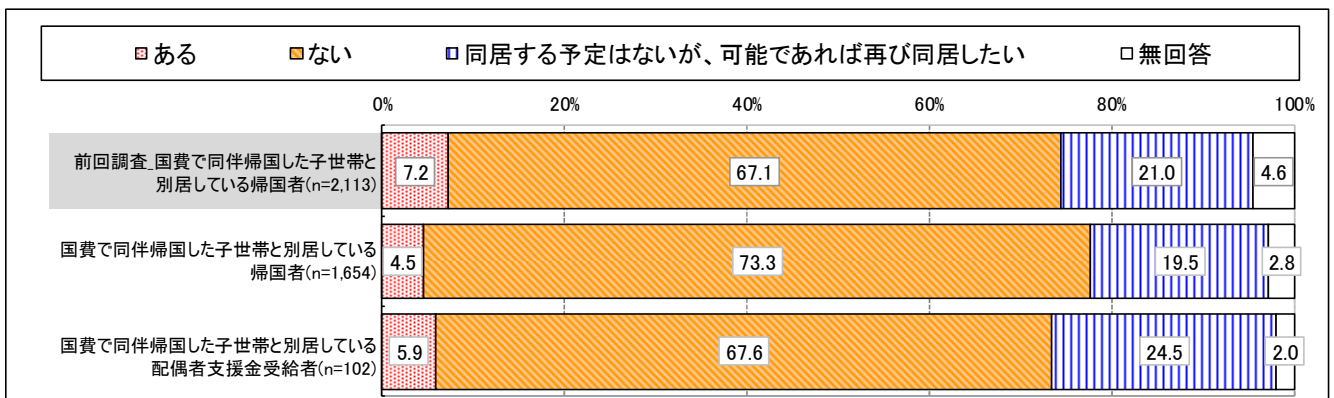
(グラフ50 国費で同伴帰国した子世帯と別居した時の状況)



(グラフ51 国費で同伴帰国した子世帯と別居している理由)



(グラフ52 国費で同伴帰国した子世帯と将来再び同居する予定)

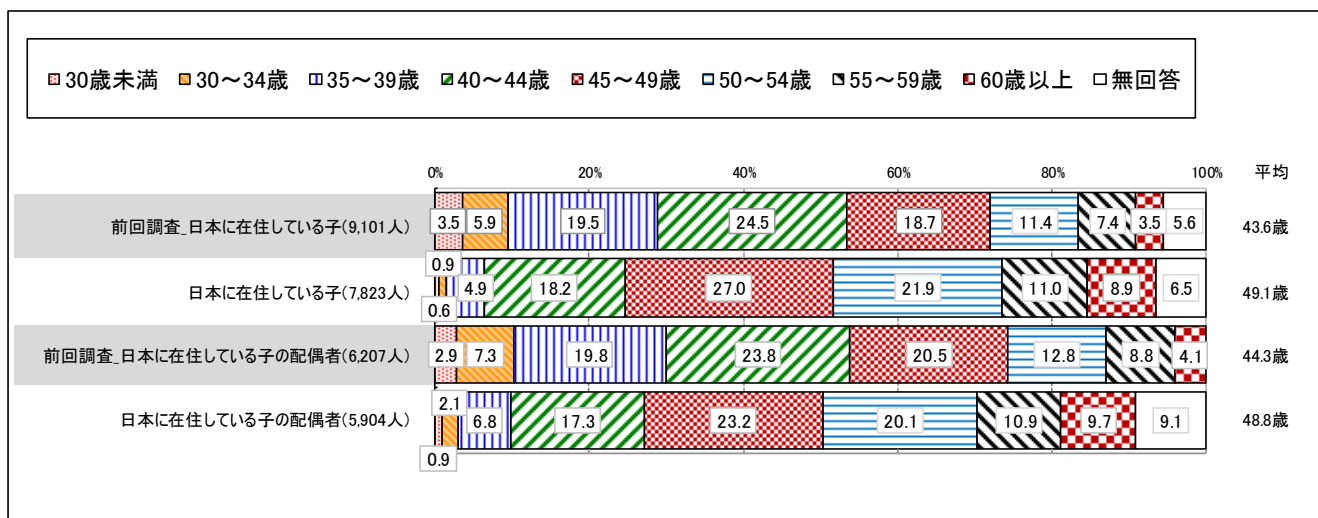


(4) 年齢(子と子の配偶者、孫と孫の配偶者)

日本に在住している子の平均年齢は、49.1歳。40歳代が45.2%、50歳代が32.9%となっている。  
日本に在住している孫の平均年齢は、22.2歳。20歳未満が34.4%、20歳代が36.5%となっている。

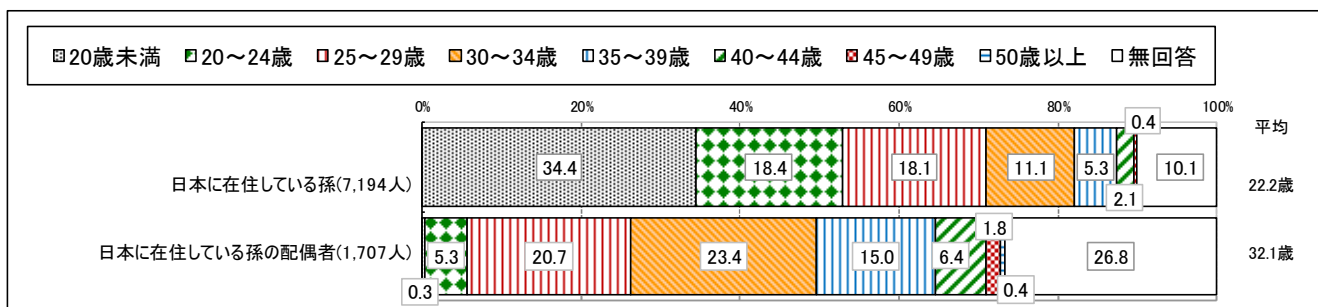
(グラフ53 日本に在住している子と子の配偶者の年齢)

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,622)の子と子の配偶者の数を足し上げて集計。



(グラフ54 日本に在住している孫と孫の配偶者の年齢)

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,121)の孫と孫の配偶者の数を足し上げて集計。

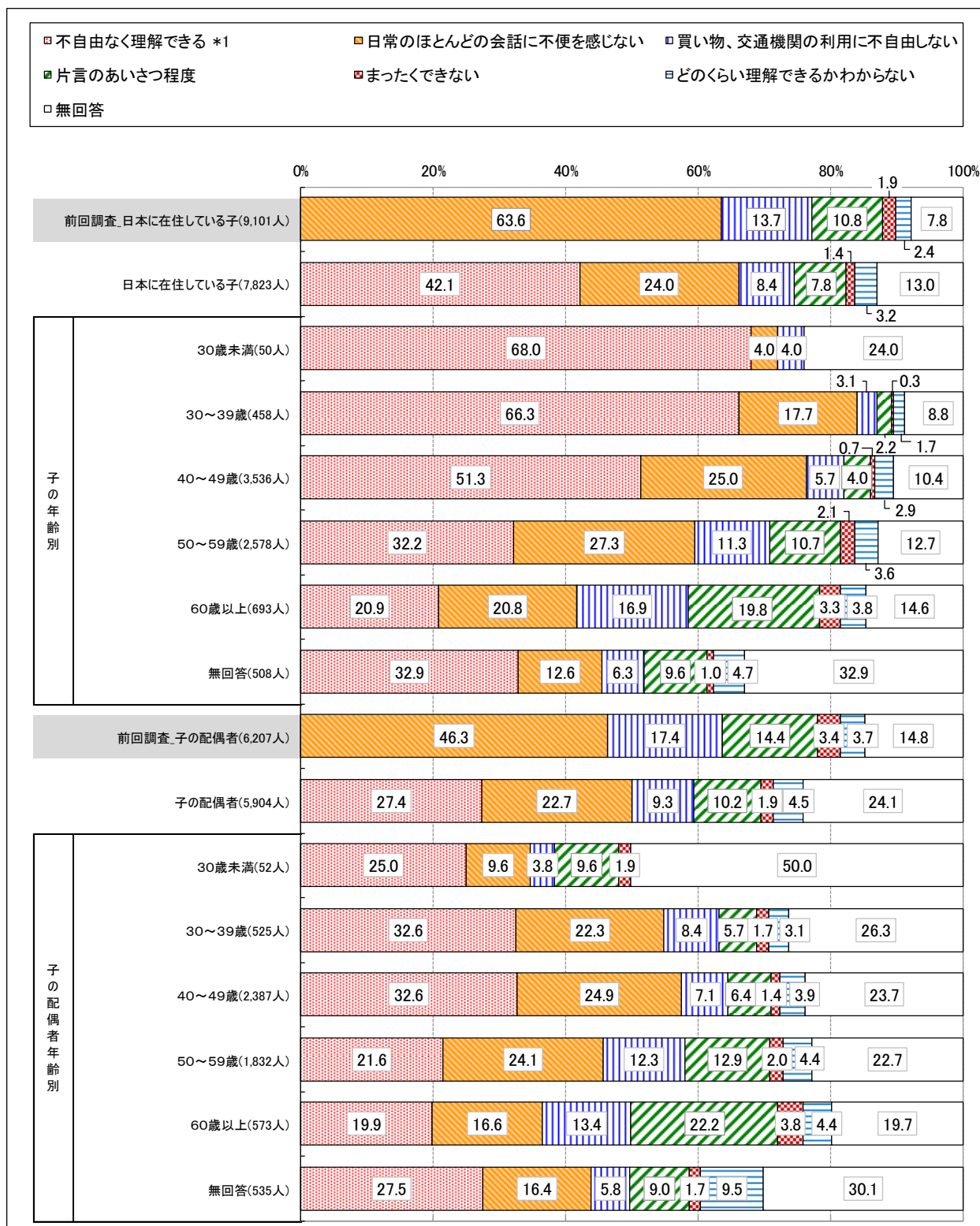


(5) 日本語習得状況(子と子の配偶者、孫と孫の配偶者)

「不自由なく理解できる」「日常のほとんどの会話に不便を感じない」「買い物、交通機関の利用に不自由しない」は、子では74.5%、孫では73.4%となっている。

(グラフ55 日本に在住している子と子の配偶者の日本語理解度)

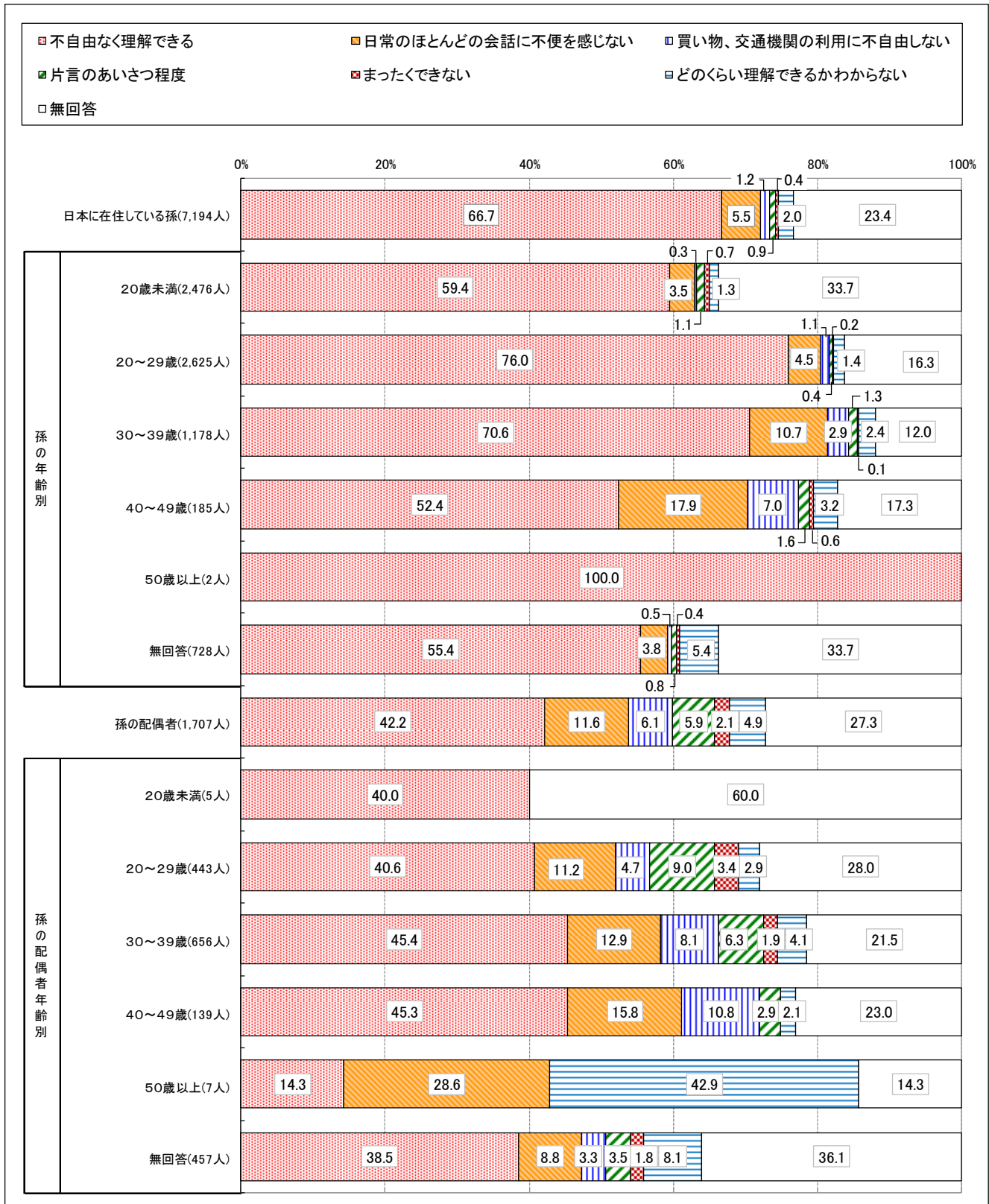
※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,622)の子と子の配偶者の数を足上げて集計。



\* 1: 前回未調査項目

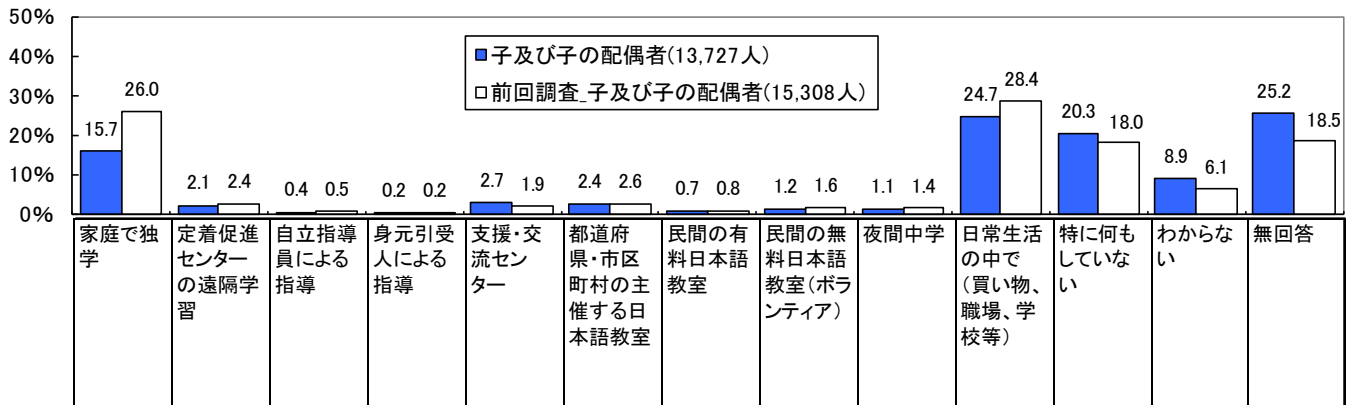
(グラフ56 日本に在住している孫と孫の配偶者の日本語理解度)

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,121)の孫と孫の配偶者の数を足上げて集計。



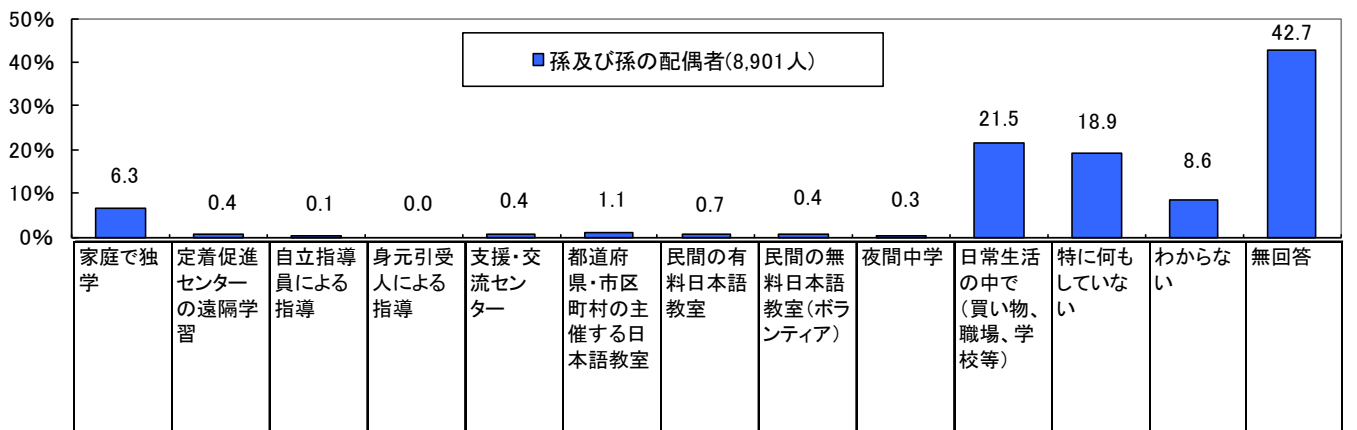
(グラフ57 日本に在住している子と子の配偶者の日本語勉強方法)〈複数回答〉

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,622)の子と子の配偶者の数を足し上げて集計。



(グラフ58 日本に在住している孫と孫の配偶者の日本語勉強方法)〈複数回答〉

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,121)の孫と孫の配偶者の数を足し上げて集計。



(6) 就労状況(子と子の配偶者、孫と孫の配偶者)

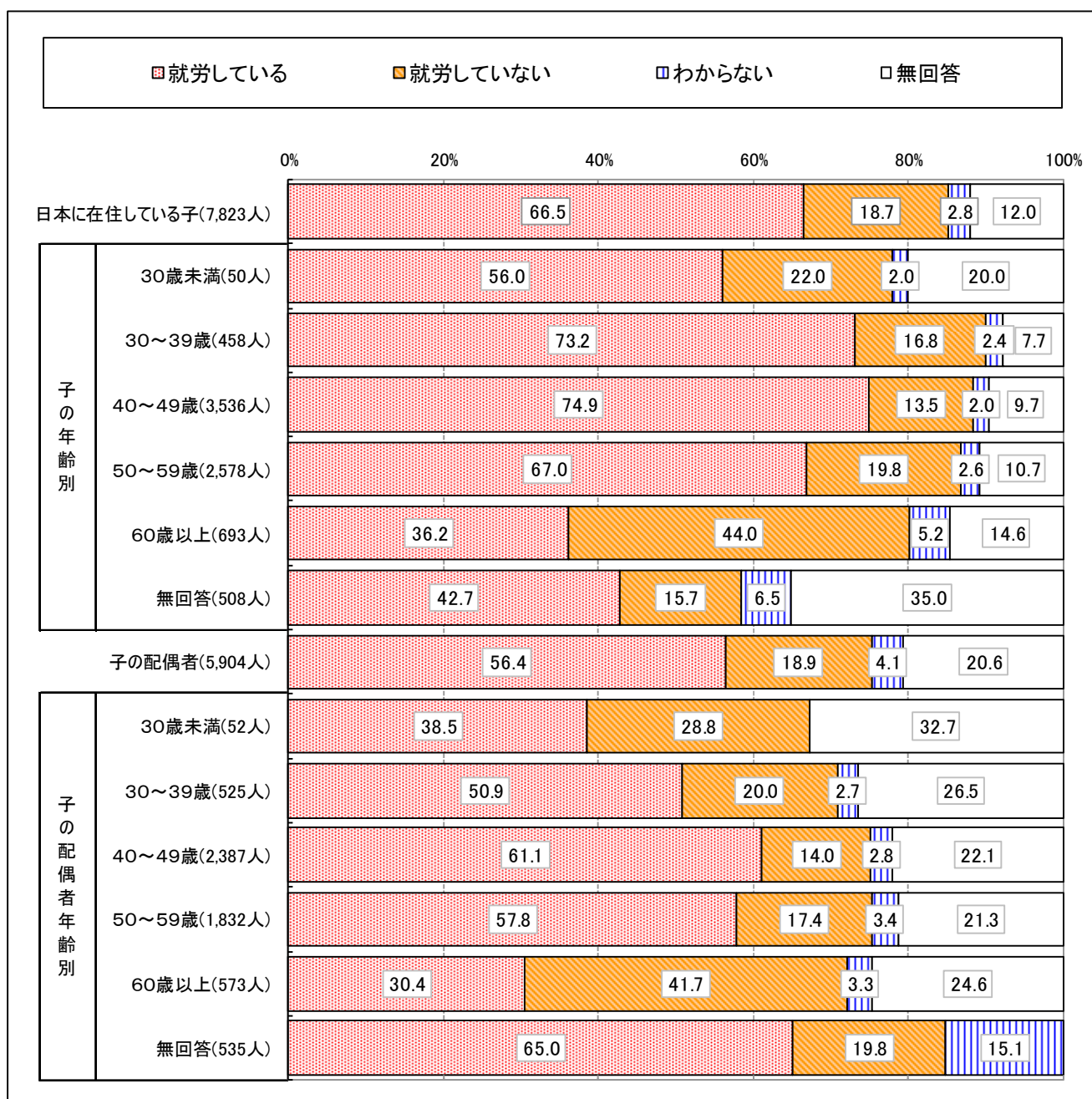
子が「就労している」は66.5%、「就労していない」は18.7%となっている。就業形態は「正社員」が44.5%と最も多く、「パート、アルバイト」が17.4%と続いている。

孫が「就労している」は40.5%、「就労していない」は26.0%となっている。就業形態は「正社員」が51.2%と最も多く、「パート、アルバイト」が11.4%と続いている。

なお、孫の平均年齢は22.2歳であり、20歳未満34.4%を含むため、全体での「就労している」は40.5%となっている。

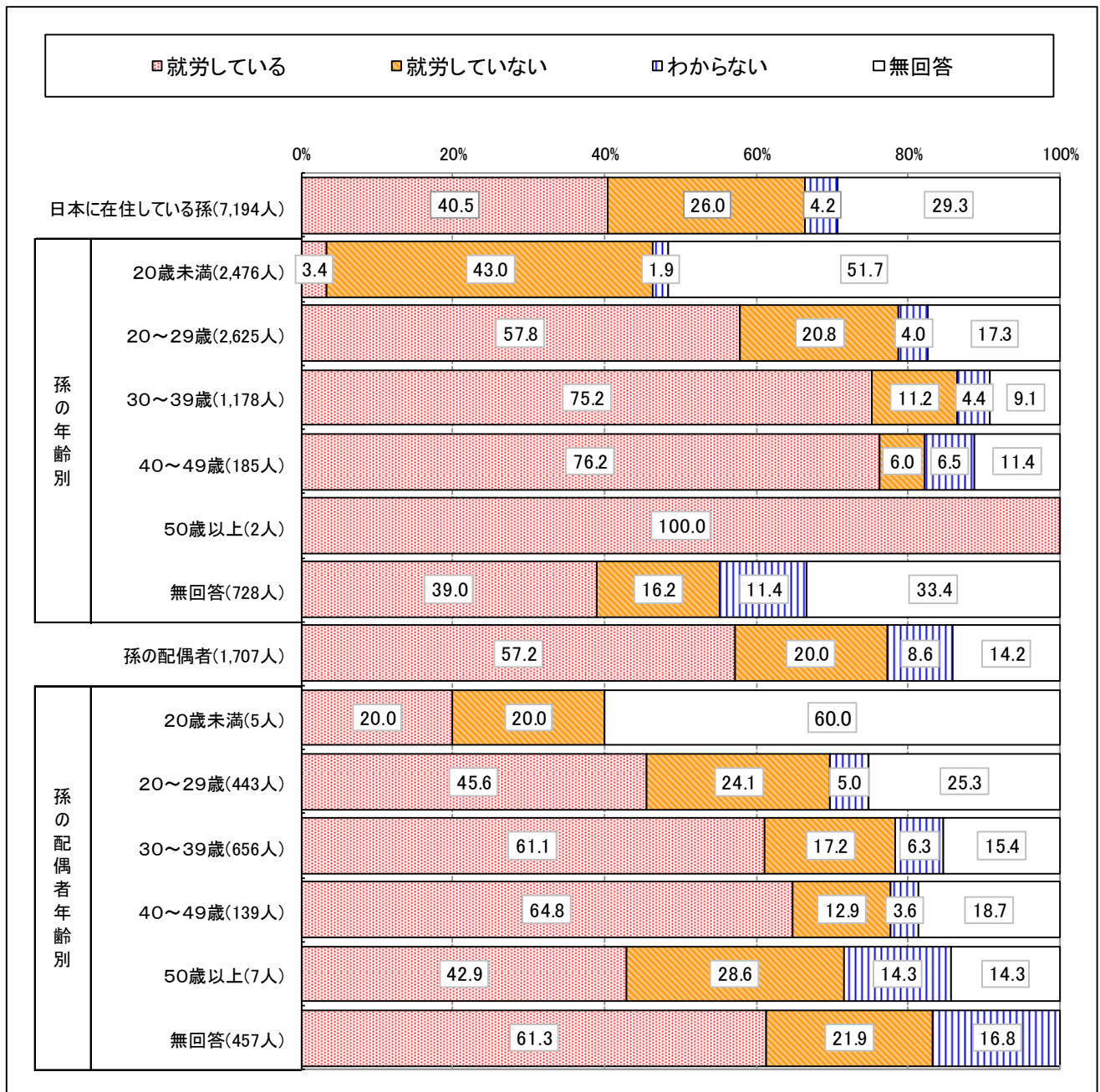
(グラフ59 日本に在住している子と子の配偶者の就労状況(年齢別))

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,622)の子と子の配偶者の数を足上げて集計。



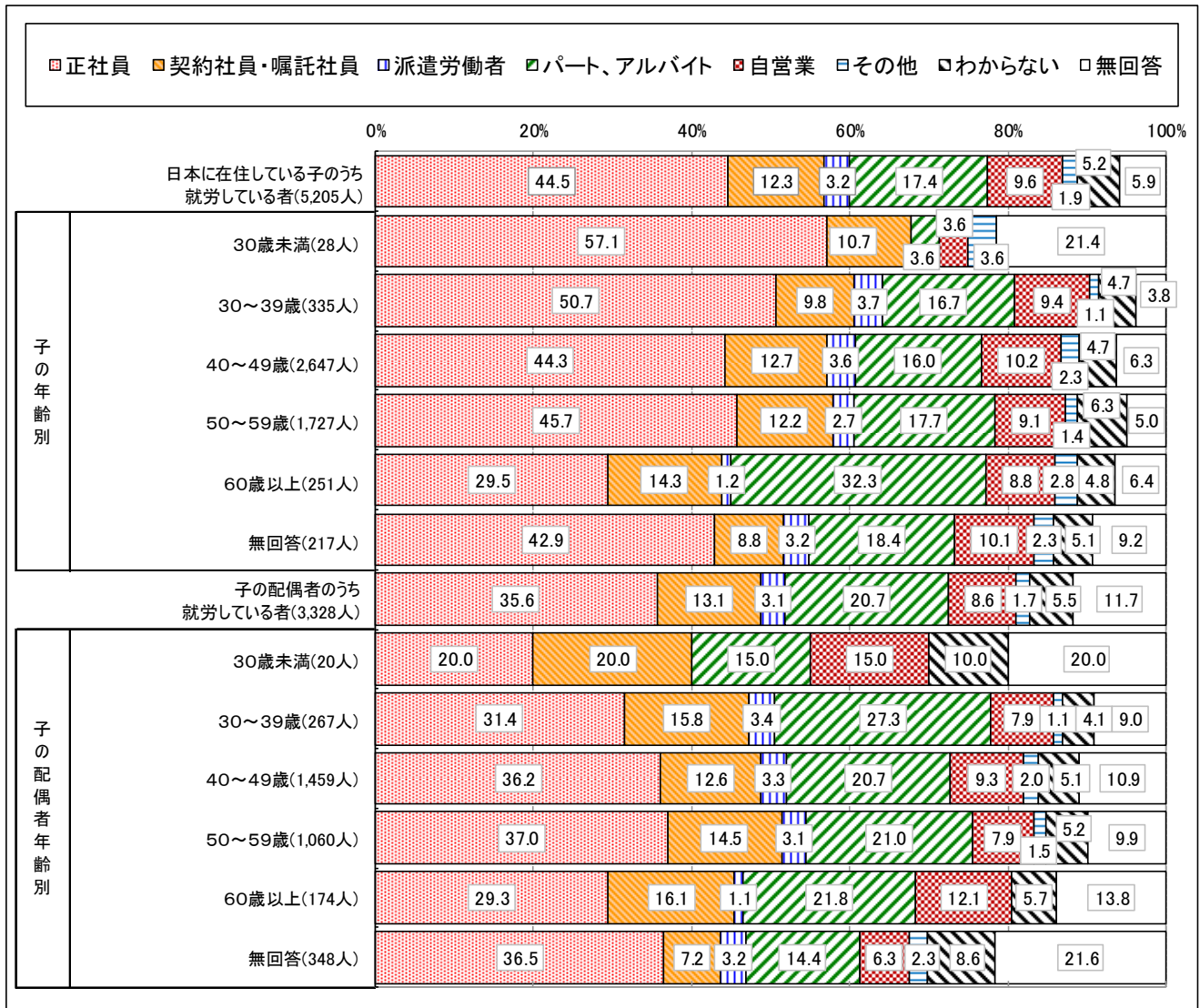
(グラフ60 日本に在住している孫と孫の配偶者の就労状況(年齢別))

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,121)の孫と孫の配偶者の数を足し上げて集計。



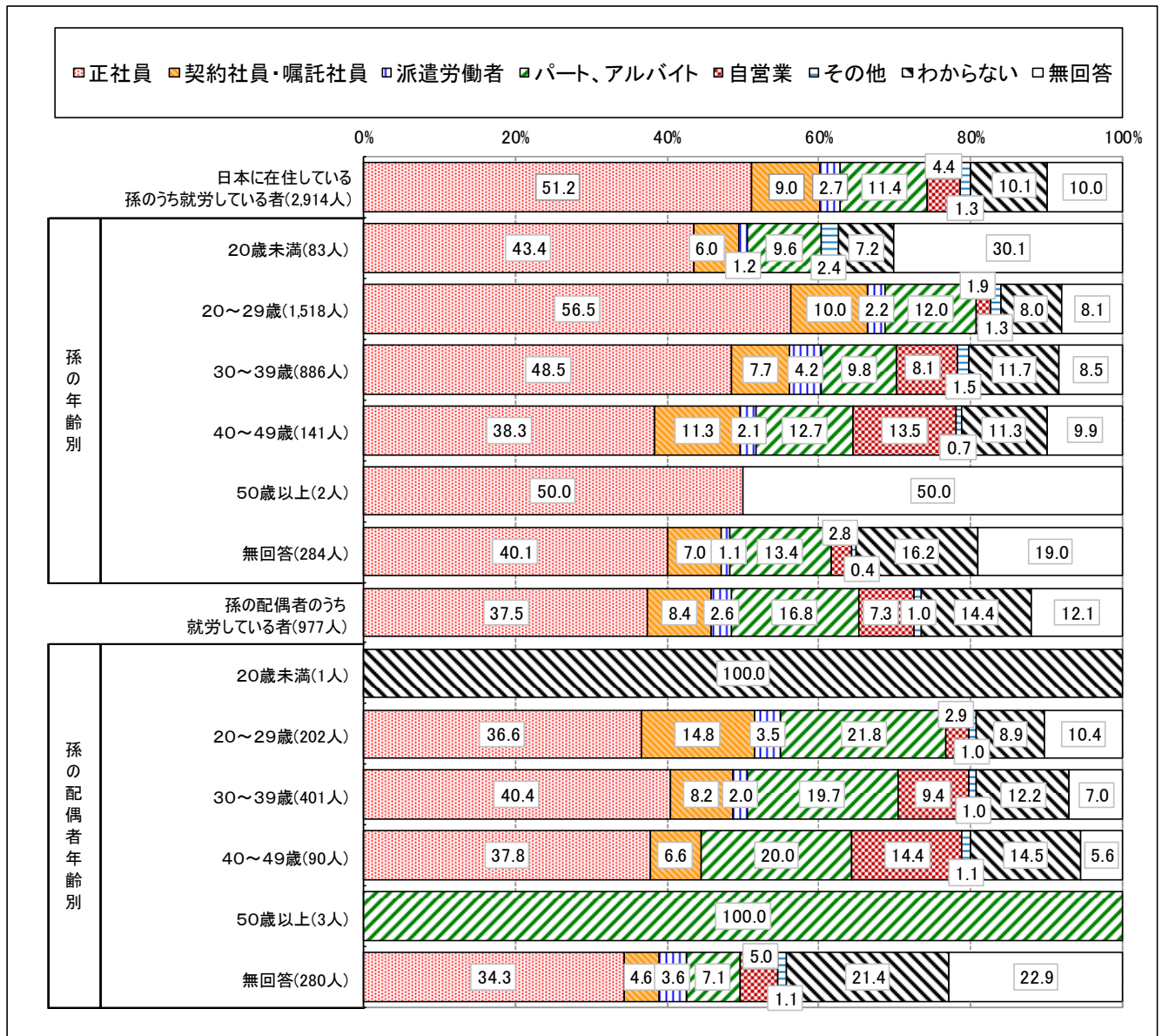
(グラフ61 日本に在住している子と子の配偶者の就業形態(年齢別))

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,162)の子と子の配偶者の数を足上げて集計。



(グラフ62 日本に在住している孫と孫の配偶者の就業形態(年齢別))

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=1,218)の孫と孫の配偶者の数を足上げて集計。



(表7 日本に在住している子と子の配偶者、孫と孫の配偶者の業種)

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,162)の子と子の配偶者の数を足し上げて集計。

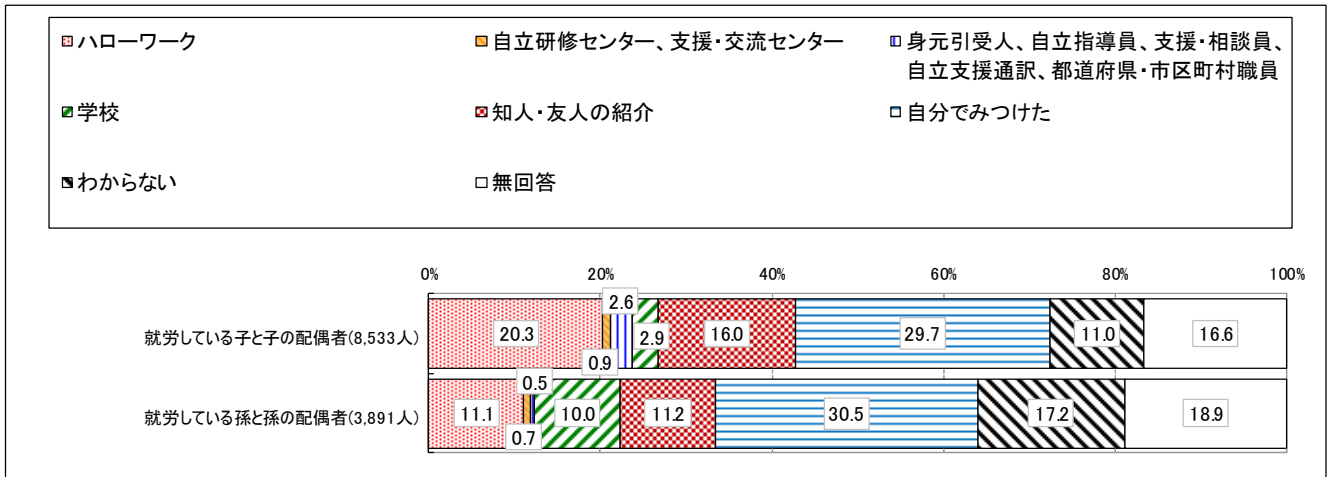
※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=1,218)の孫と孫の配偶者の数を足し上げて集計。

	子	子の配偶者	孫	孫の配偶者	
	5,205人	3,328人	2,914人	977人	
農業, 林業	1.2	1.0	1.1	0.7	(%)
漁業	0.2	0.3	0.1	0.2	
鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.4	0.3	0.0	0.1	
建設業	6.8	5.9	4.8	4.0	
製造業	24.8	24.8	12.6	15.1	
電気・ガス・熱供給・水道業	3.0	2.1	1.8	2.7	
情報通信業	1.0	1.3	2.9	1.5	
運輸業, 郵便業	3.8	1.8	2.1	1.6	
卸売業, 小売業	4.1	4.1	4.9	3.3	
金融業, 保険業	0.8	0.5	1.7	1.0	
不動産業, 物品賃貸業	0.4	0.2	1.3	0.4	
学術研究, 専門・技術サービス業	1.5	0.9	1.7	1.3	
宿泊業, 飲食サービス業	6.5	6.9	4.4	4.7	
生活関連サービス業, 娯楽業	2.5	3.0	2.5	2.0	
教育, 学習支援業	1.0	0.9	1.2	1.7	
医療, 福祉	4.4	3.1	5.3	3.8	
複合サービス事業	2.6	2.8	3.0	1.5	
サービス業(他に分類されないもの)	8.4	8.2	8.4	6.8	
公務(他に分類されるものを除く)	1.3	1.0	2.1	1.3	
分類不能の産業	4.3	4.4	3.0	4.0	
わからない	13.5	14.3	21.8	26.0	
無回答	7.6	12.1	13.3	16.1	

(グラフ63 職業の紹介元)

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,162)の子と子の配偶者の数を足上げて集計。

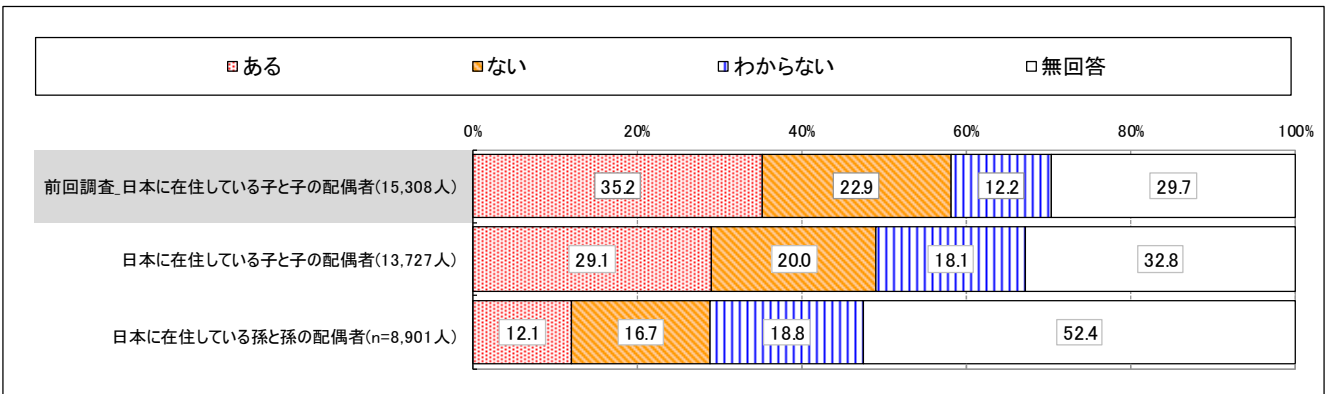
※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=1,218)の孫と孫の配偶者の数を足上げて集計。



(グラフ64 ハローワーク利用経験)

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,622)の子と子の配偶者の数を足上げて集計。

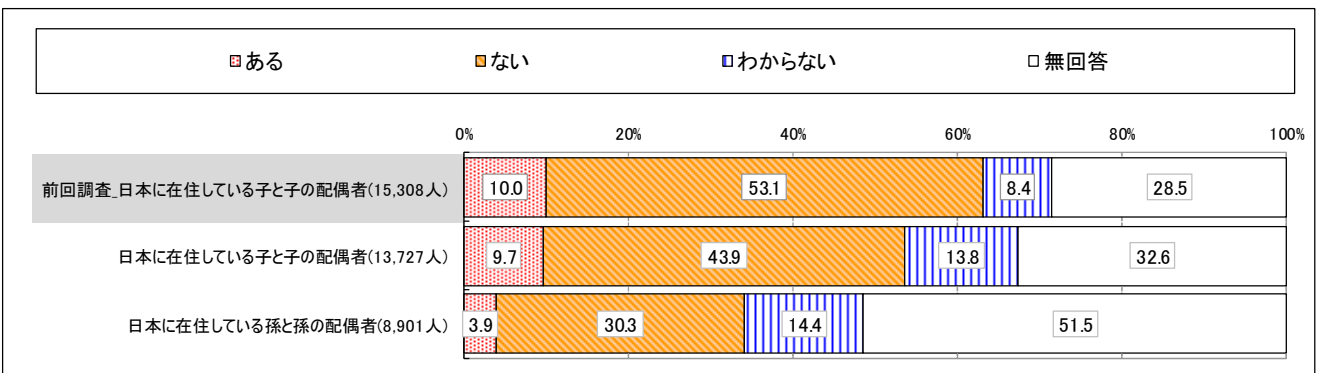
※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,121)の孫と孫の配偶者の数を足上げて集計。



(グラフ65 公共職業能力開発施設(職業訓練校)利用経験)

※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,622)の子と子の配偶者の数を足上げて集計。

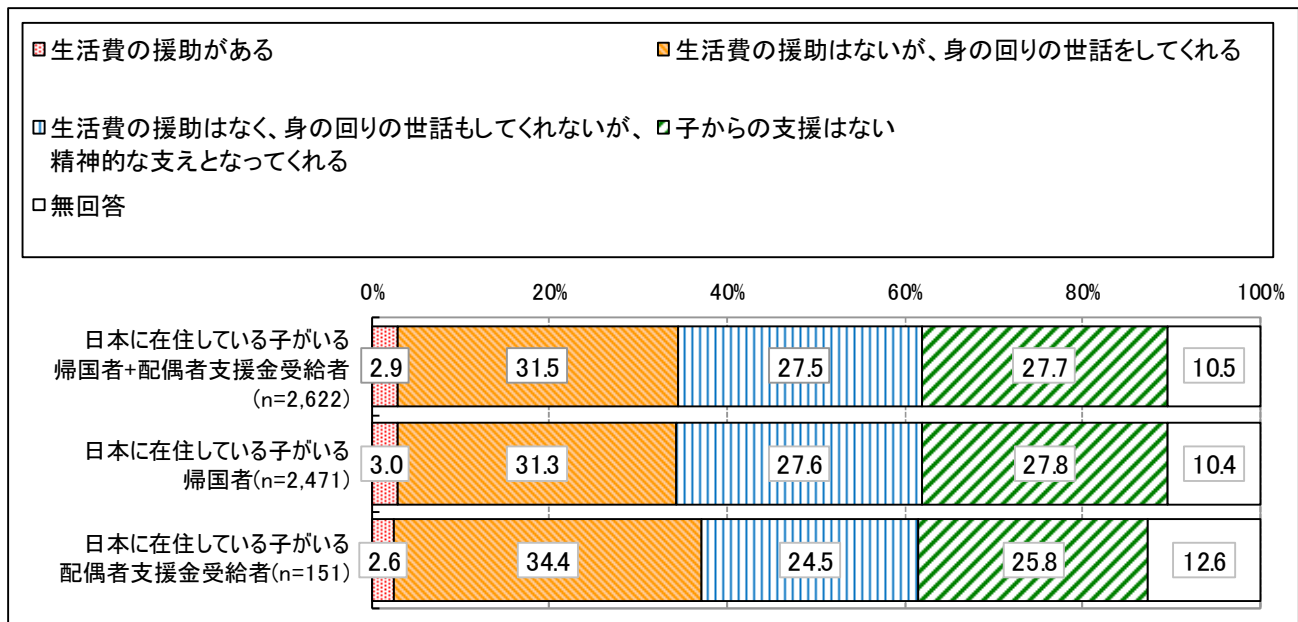
※回答のあった帰国者と配偶者支援金受給者(n=2,121)の孫と孫の配偶者の数を足上げて集計。



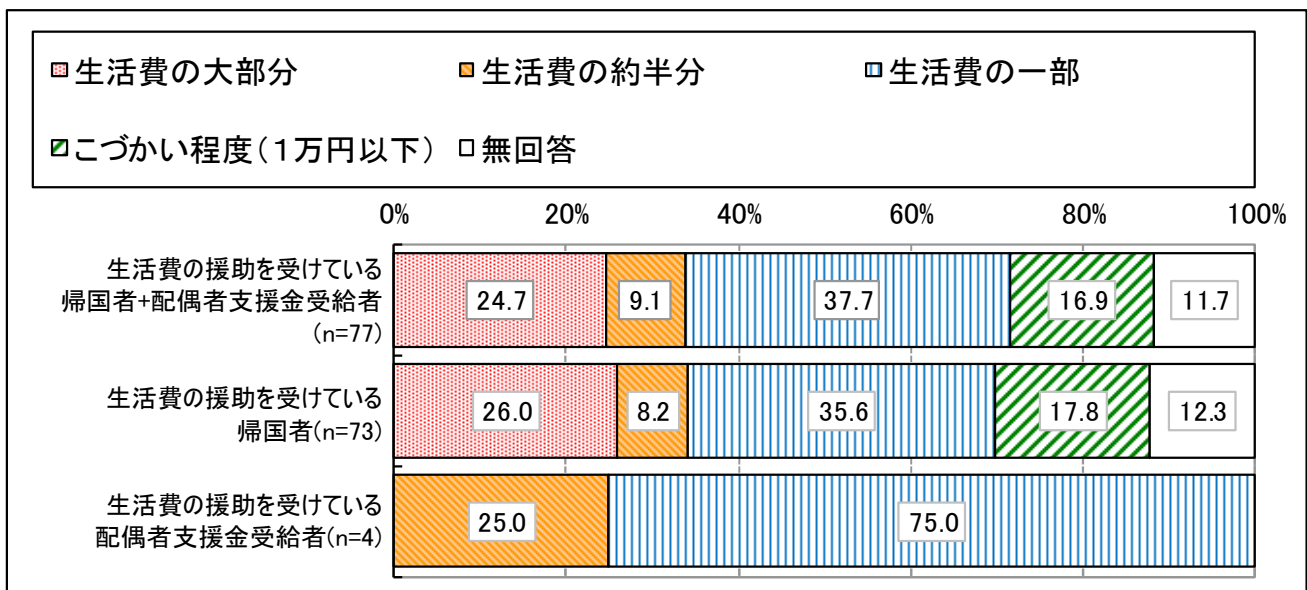
(7) 生活支援の状況

帰国者と配偶者支援金受給者では、子からの「生活費の援助がある」は2.9%、「生活費の援助はないが、身の回りの世話をしてくれる」「精神的な支えとなってくれる」は59.0%となっている。  
 一方、子へ「生活費の援助をしている」は2.2%、「生活費の援助はしていないが、身の回りの世話をしている」「精神的な支えになっている」は36.7%となっている。

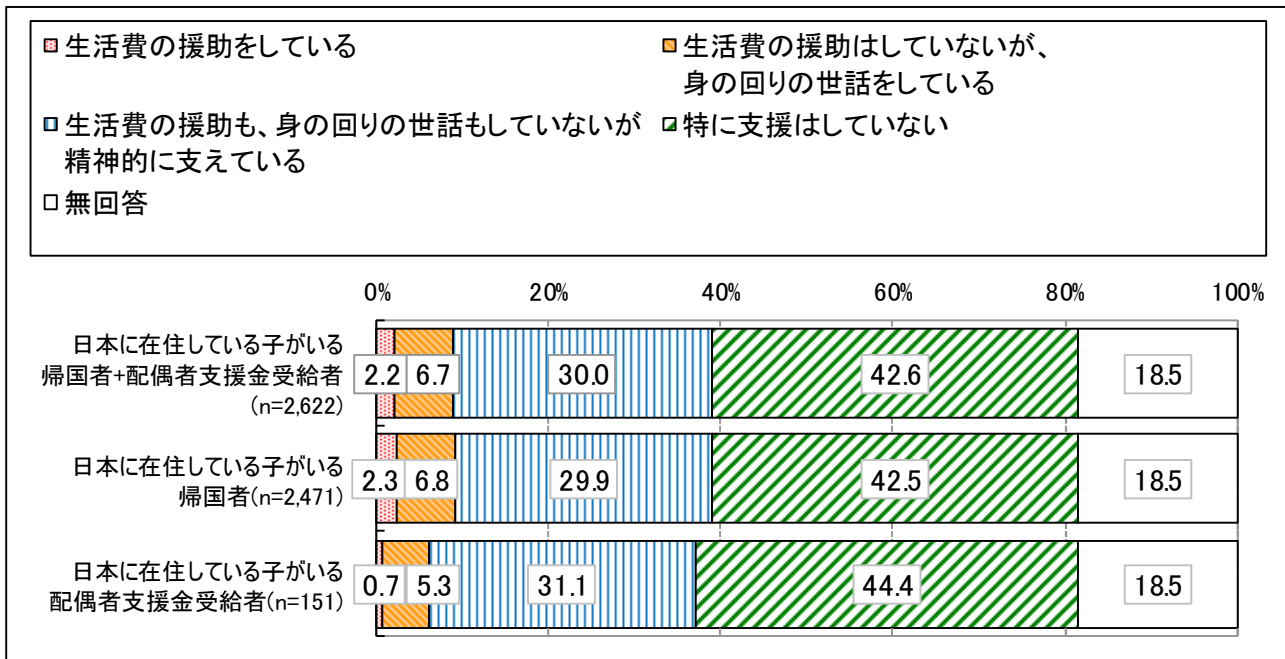
(グラフ66 子からの生活支援の状況)



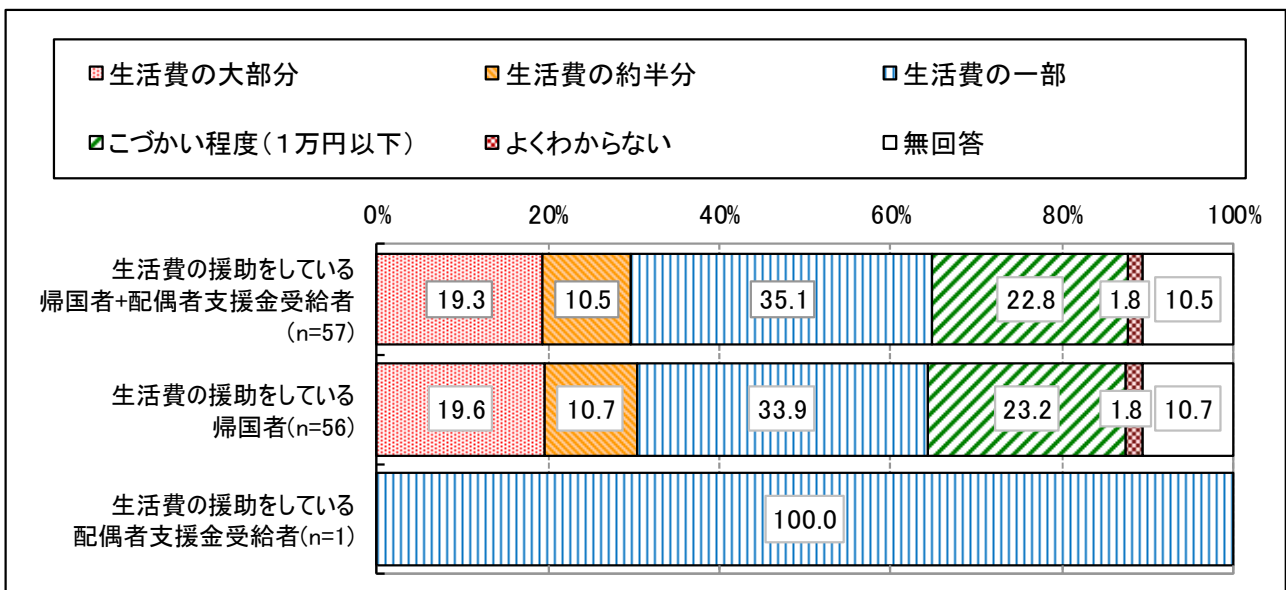
(グラフ67 子からの月々の生活費援助の程度)



(グラフ68 子への生活支援の状況)



(グラフ69 子への月々の生活費援助の程度)



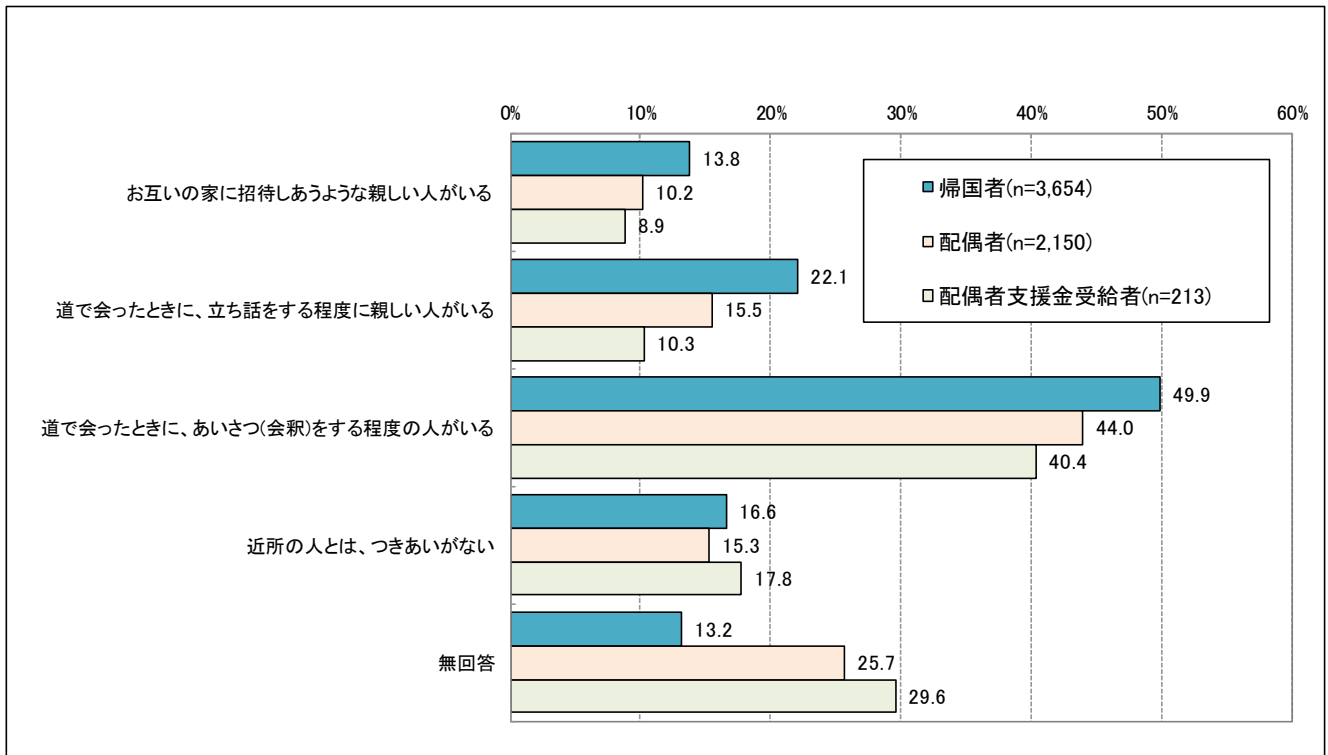
## 10 地域生活の状況

### (1) 近所付き合いの状況

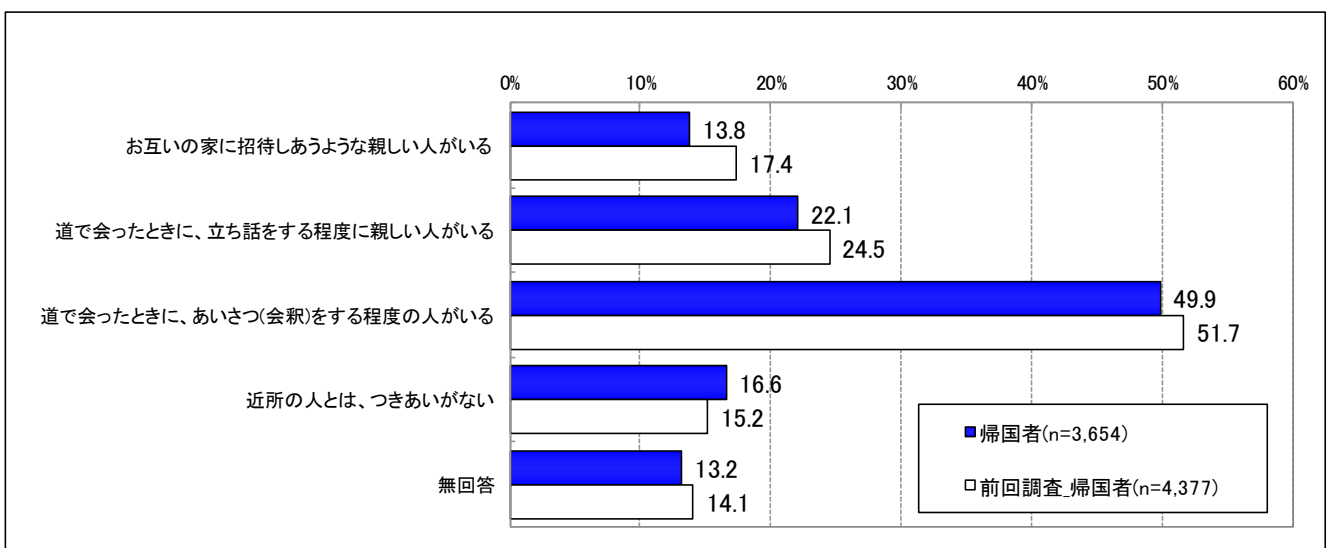
「立ち話をする程度に親しい人がいる」は、帰国者では22.1%、配偶者では15.5%、配偶者支援金受給者では10.3%となっている。

「お互いの家に招待しあうような親しい人がいる」は、帰国者では13.8%、配偶者では10.2%、配偶者支援金受給者では8.9%となっている。

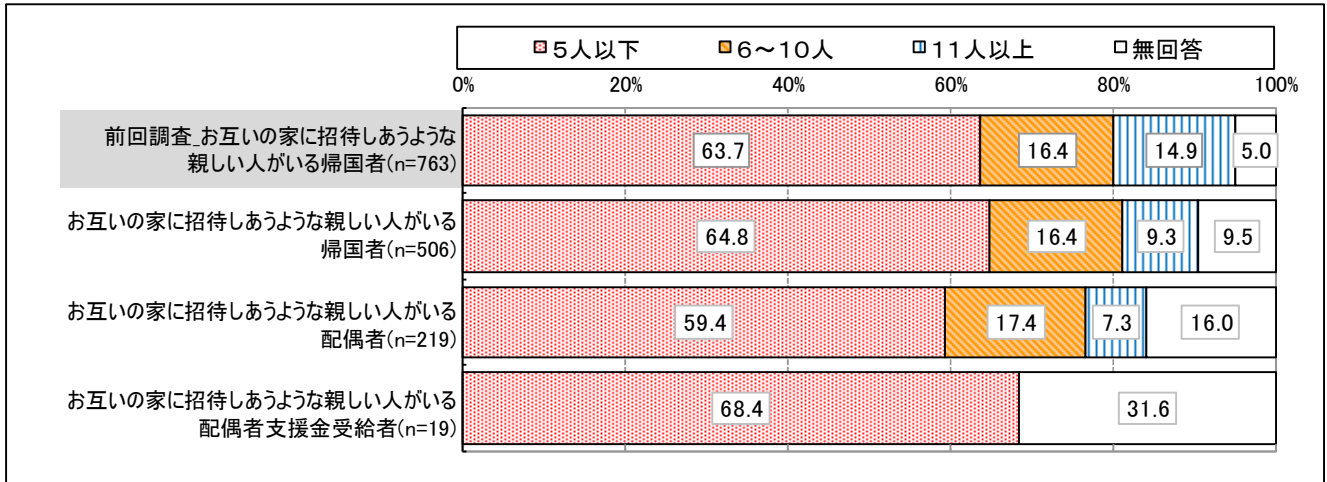
(グラフ70 近所付き合いの状況)〈複数回答〉



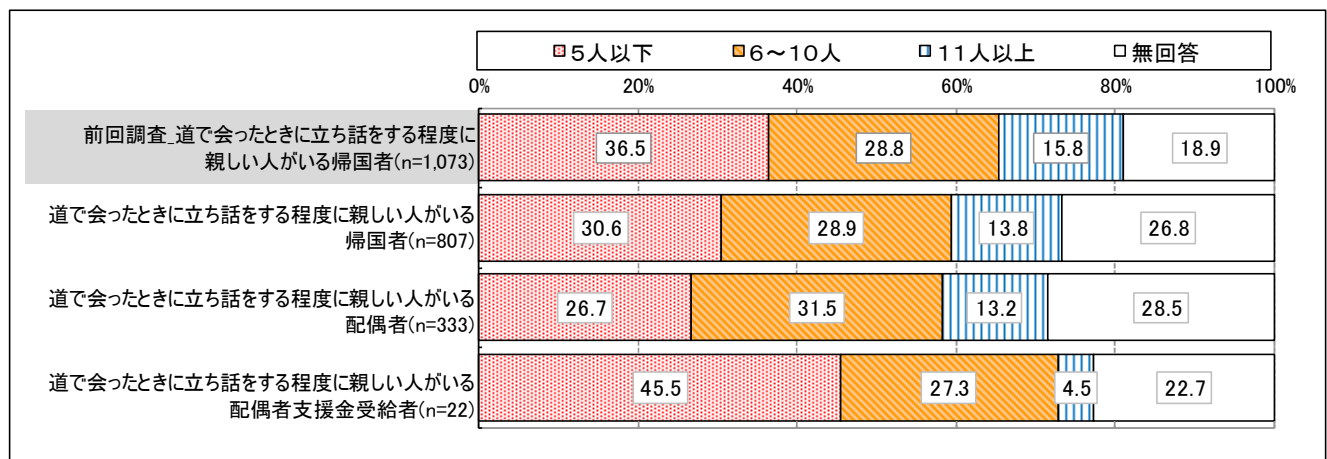
(グラフ71 近所付き合いの状況(前回比較))〈複数回答〉



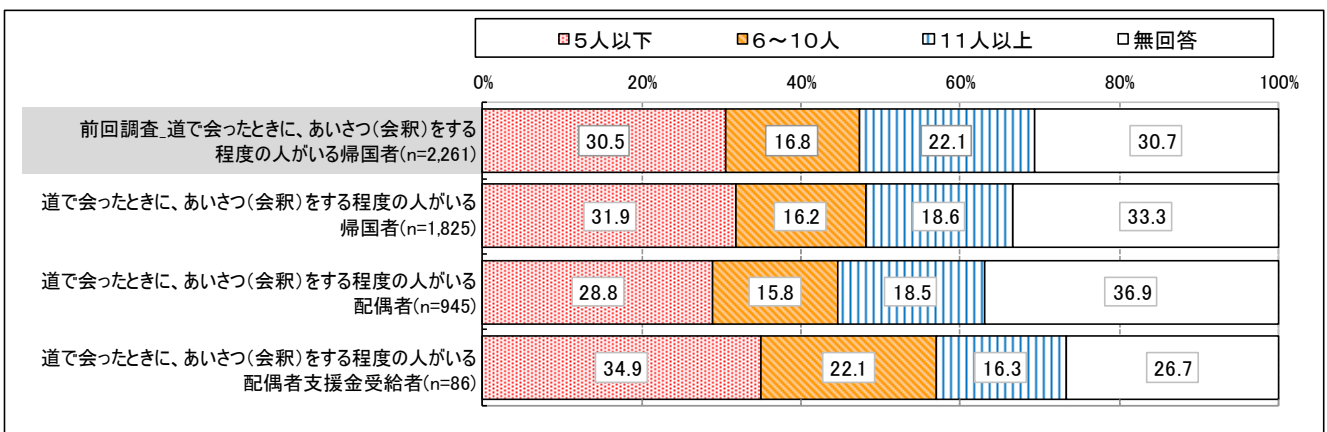
(グラフ72 お互いの家に招待しあうような親しい人の数)



(グラフ73 道で会ったときに、立ち話をする程度に親しい人の数)



(グラフ74 道で会ったときに、あいさつ(会釈)をする程度の人の数)



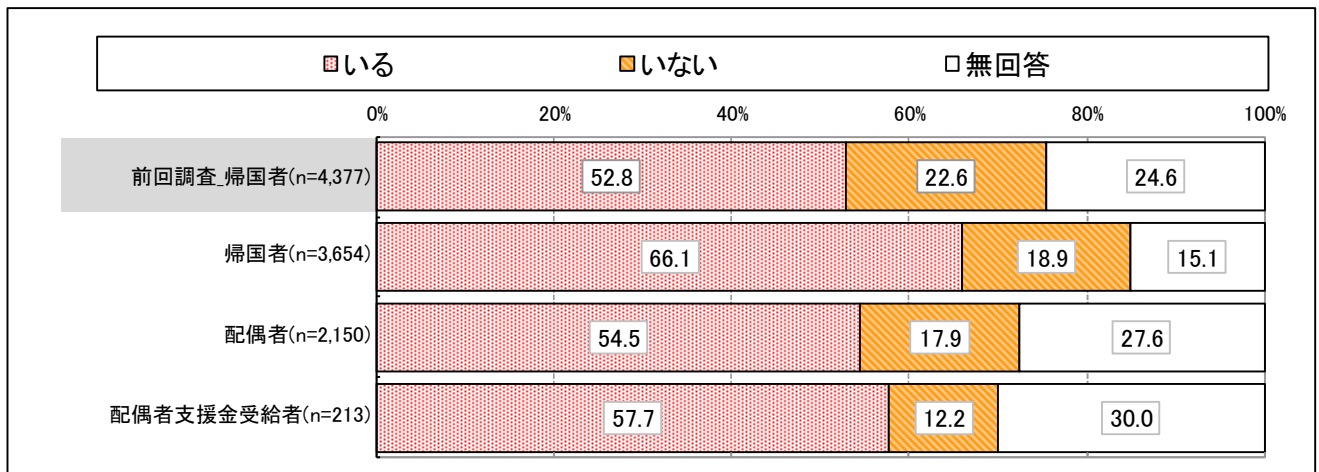
(2) 悩みの相談相手

「相談相手がいる」は、帰国者では66.1%、配偶者では54.5%、配偶者支援金受給者では57.7%となっている。

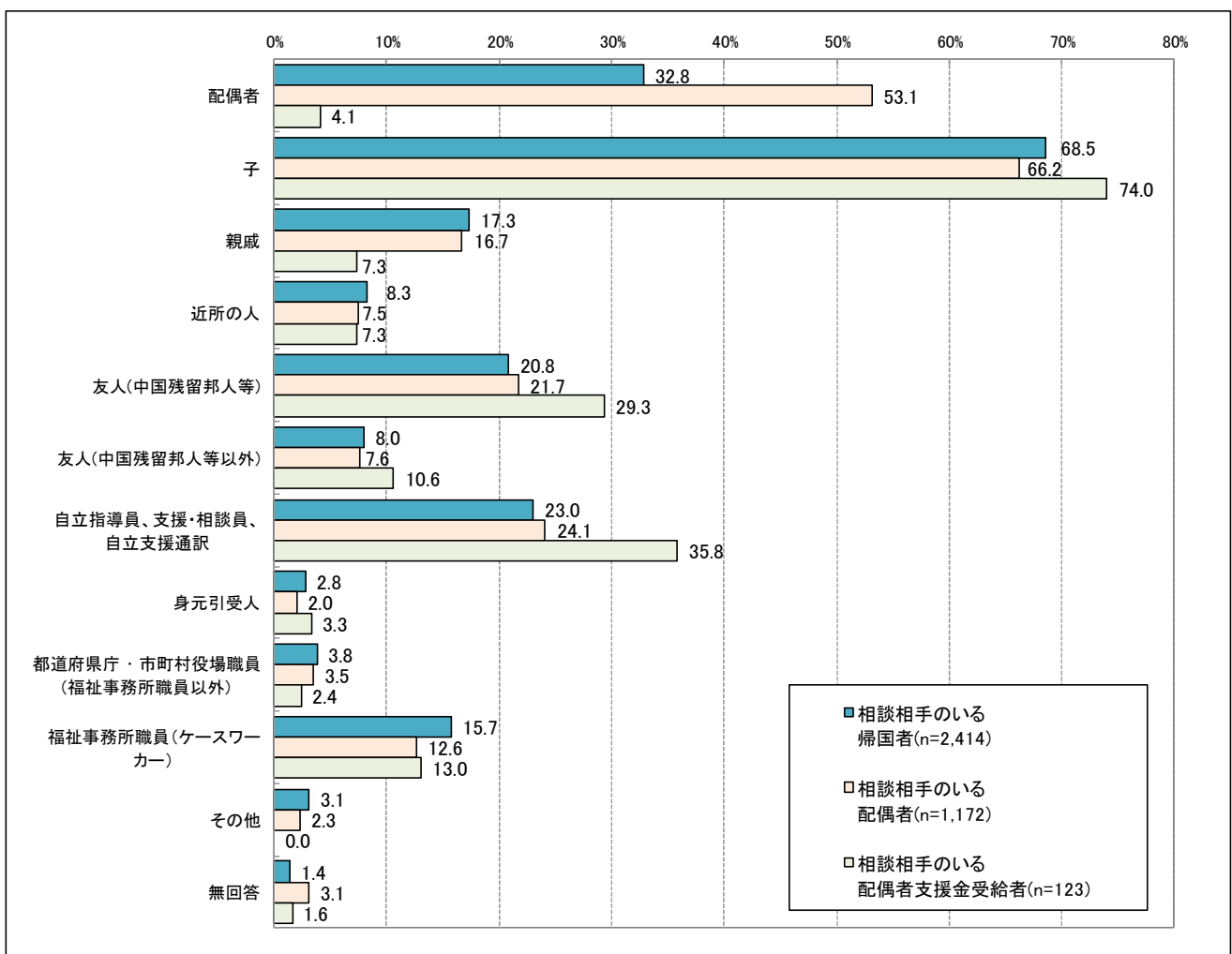
相談相手は、「子」が最も多く、帰国者では68.5%、配偶者では66.2%、配偶者支援金受給者では74.0%となっている。

「自立指導員、支援・相談員、自立支援通訳」は、帰国者では23.0%、配偶者では24.1%、配偶者支援金受給者では35.8%となっている。

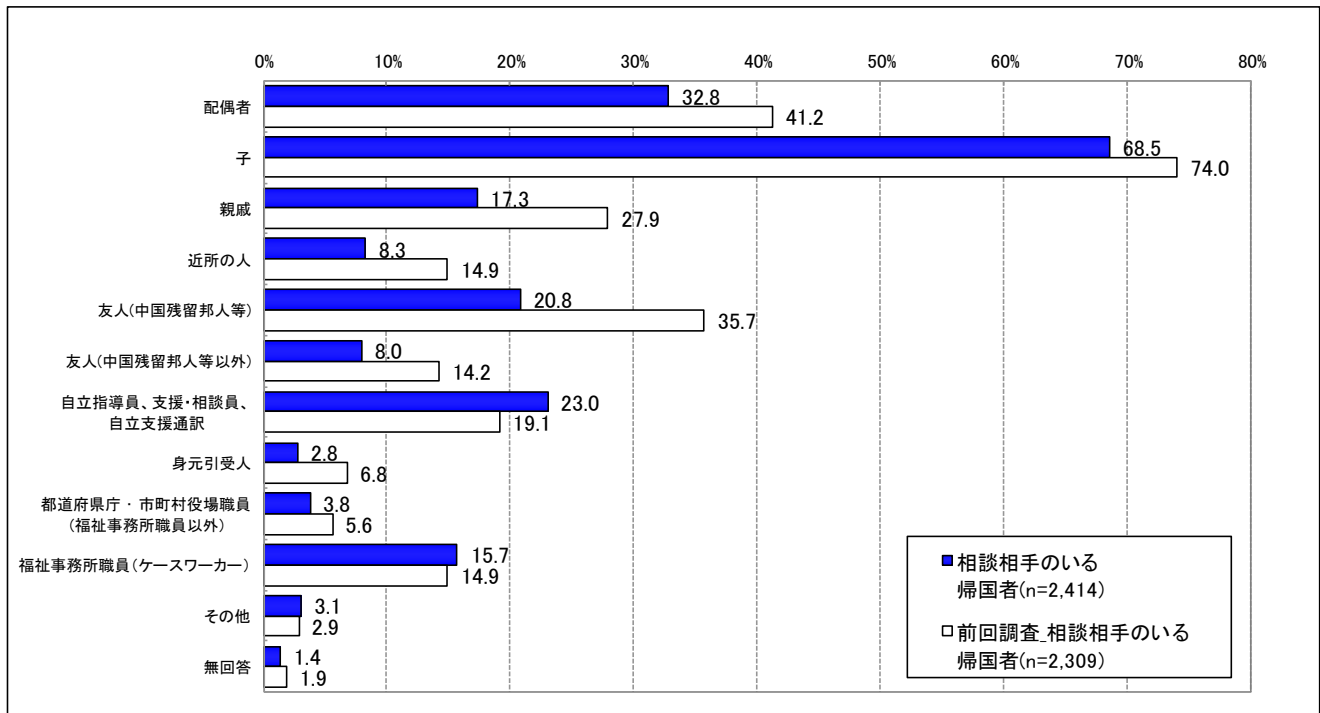
(グラフ75 悩みの相談相手の有無)



(グラフ76 悩みの相談相手)〈複数回答〉



(グラフ77 悩みの相談相手(前回比較))〈複数回答〉



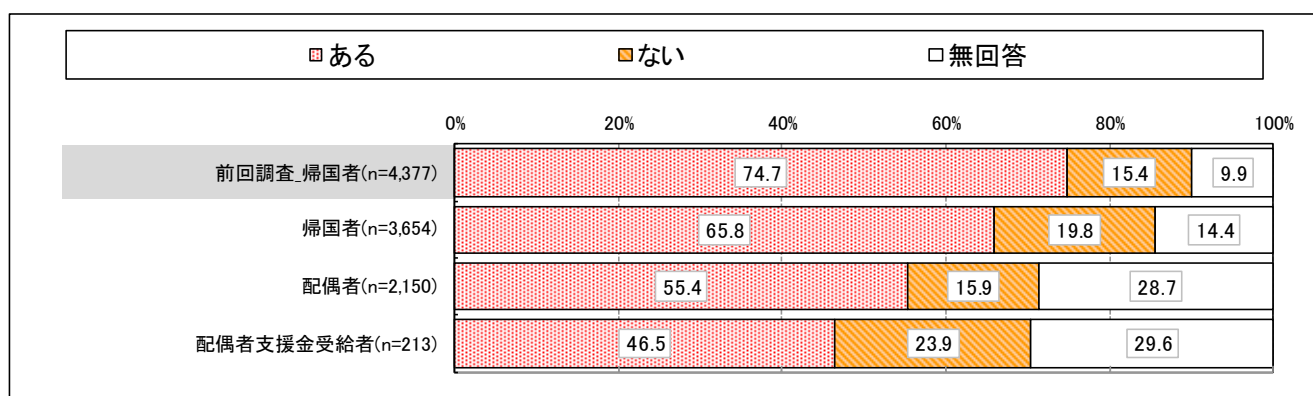
### (3) 地域活動への参加状況

地域活動へ「参加したことがある」は、帰国者では65.8%、配偶者では55.4%、配偶者支援金受給者では46.5%となっている。

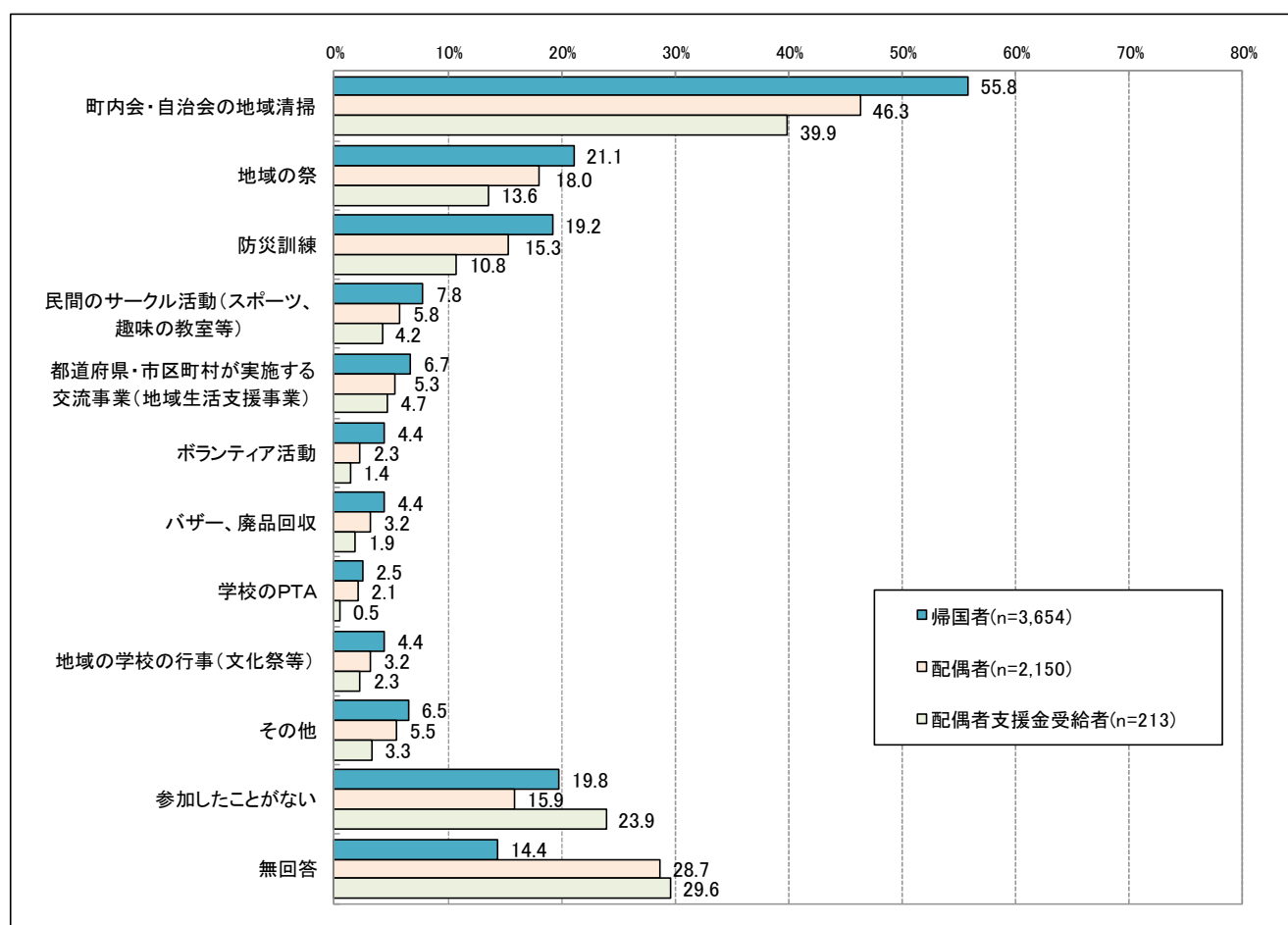
参加している活動は、「町内会・自治会の地域清掃」が最も多く、帰国者では55.8%、配偶者では46.3%、配偶者支援金受給者では39.9%、「地域の祭」が帰国者では21.1%、配偶者では18.0%、配偶者支援金受給者では13.6%となっている。

地域活動に参加しない理由は、「日本語が分からないから」が最も多く、帰国者では42.0%、配偶者では57.0%、配偶者支援金受給者では66.7%となっている。

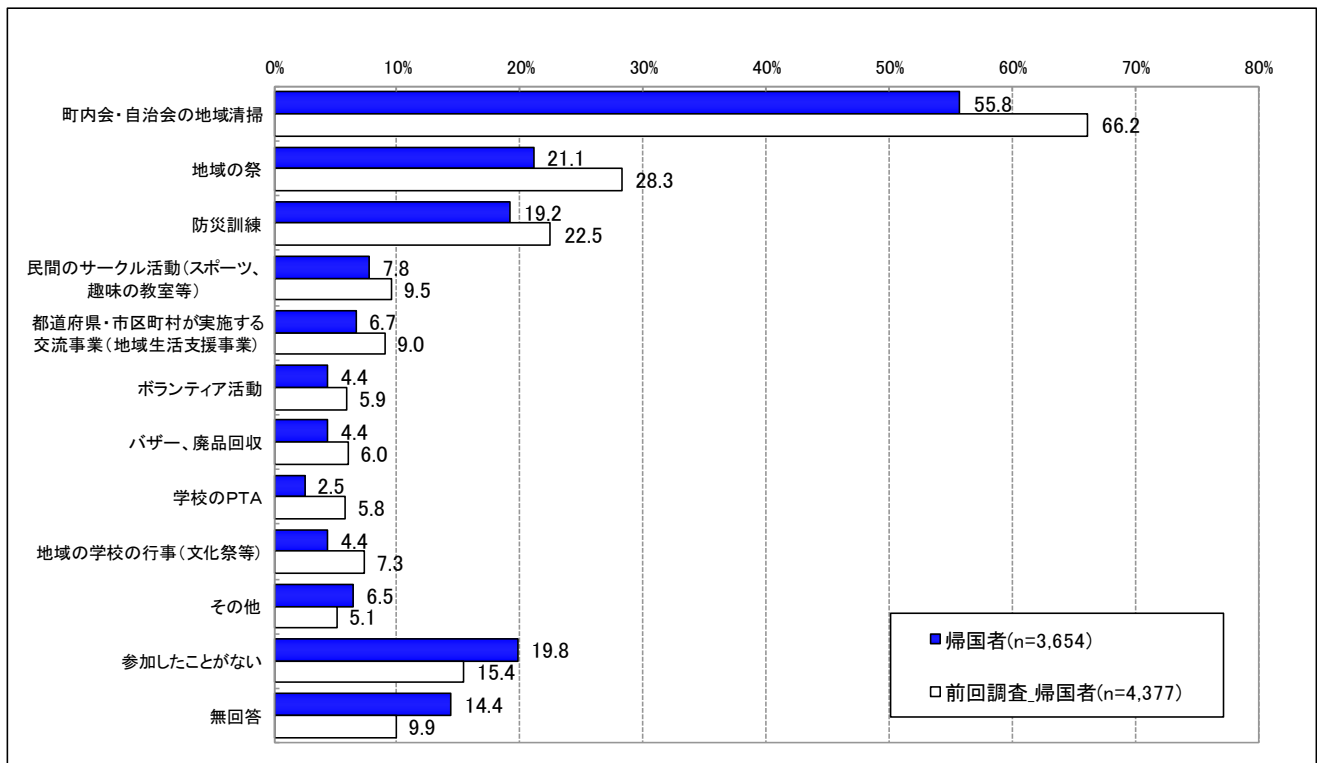
(グラフ78 地域活動への参加有無)



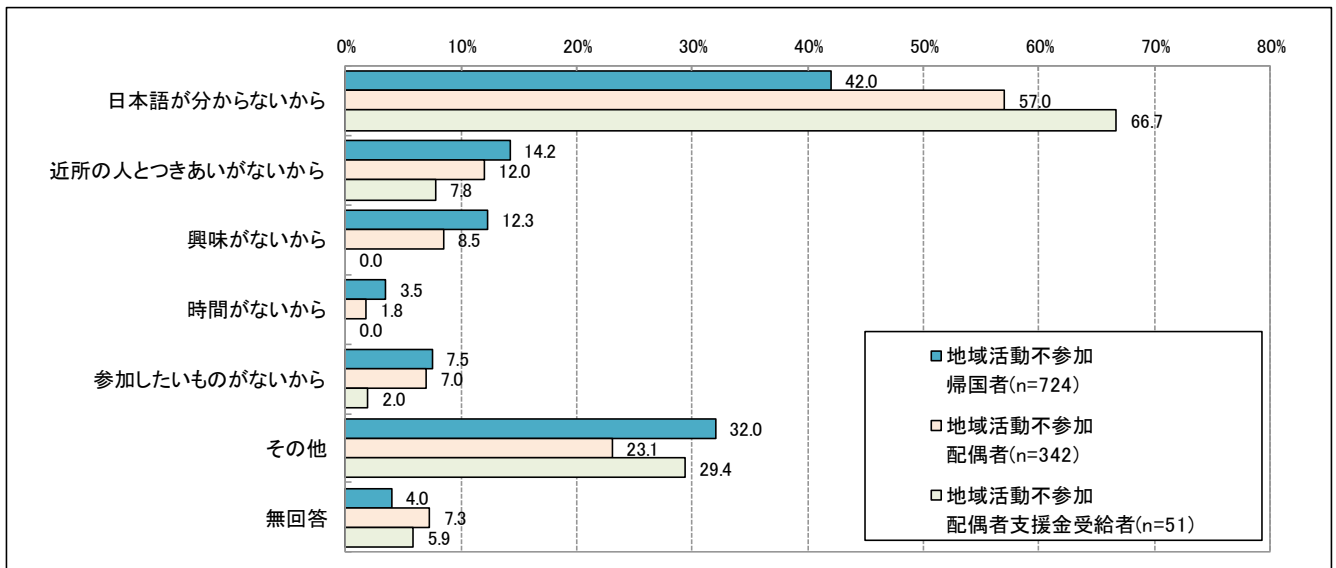
(グラフ79 地域活動への参加状況)〈複数回答〉



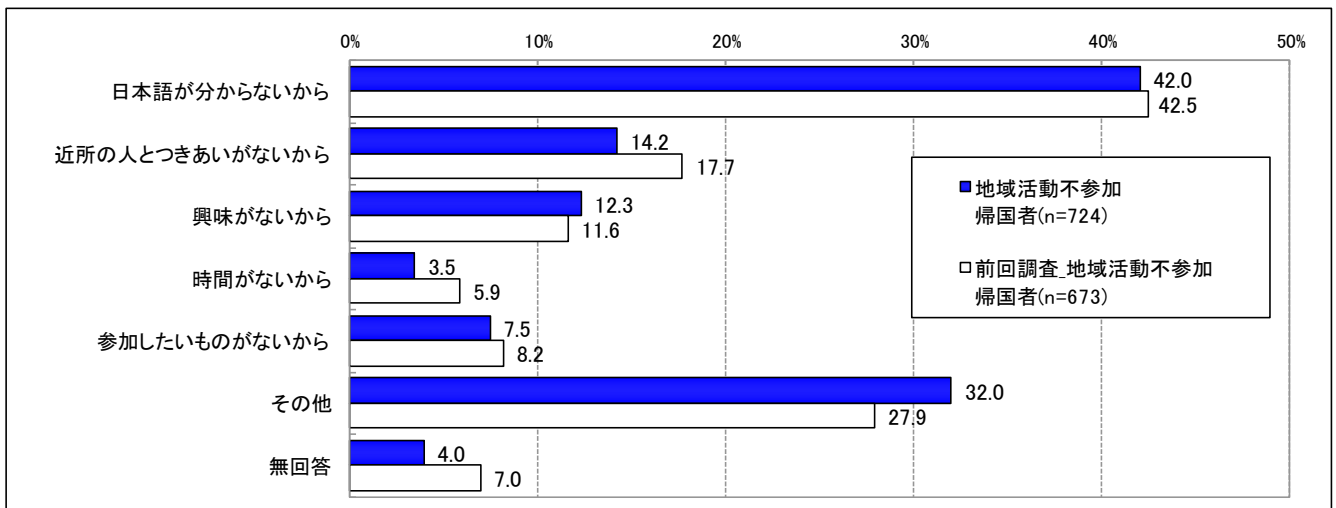
(グラフ80 地域活動への参加状況(前回比較))〈複数回答〉



(グラフ81 地域活動に参加しない理由)〈複数回答〉



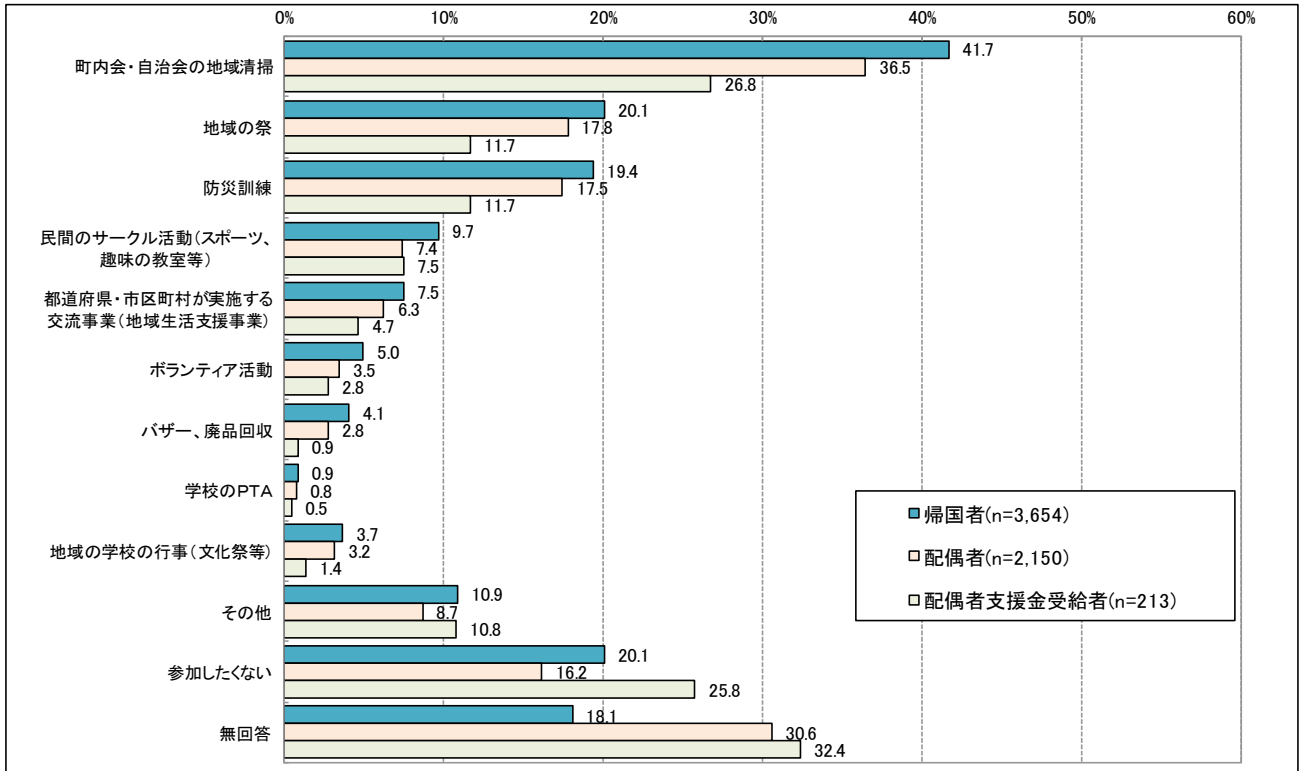
(グラフ82 地域活動に参加しない理由(前回比較))〈複数回答〉



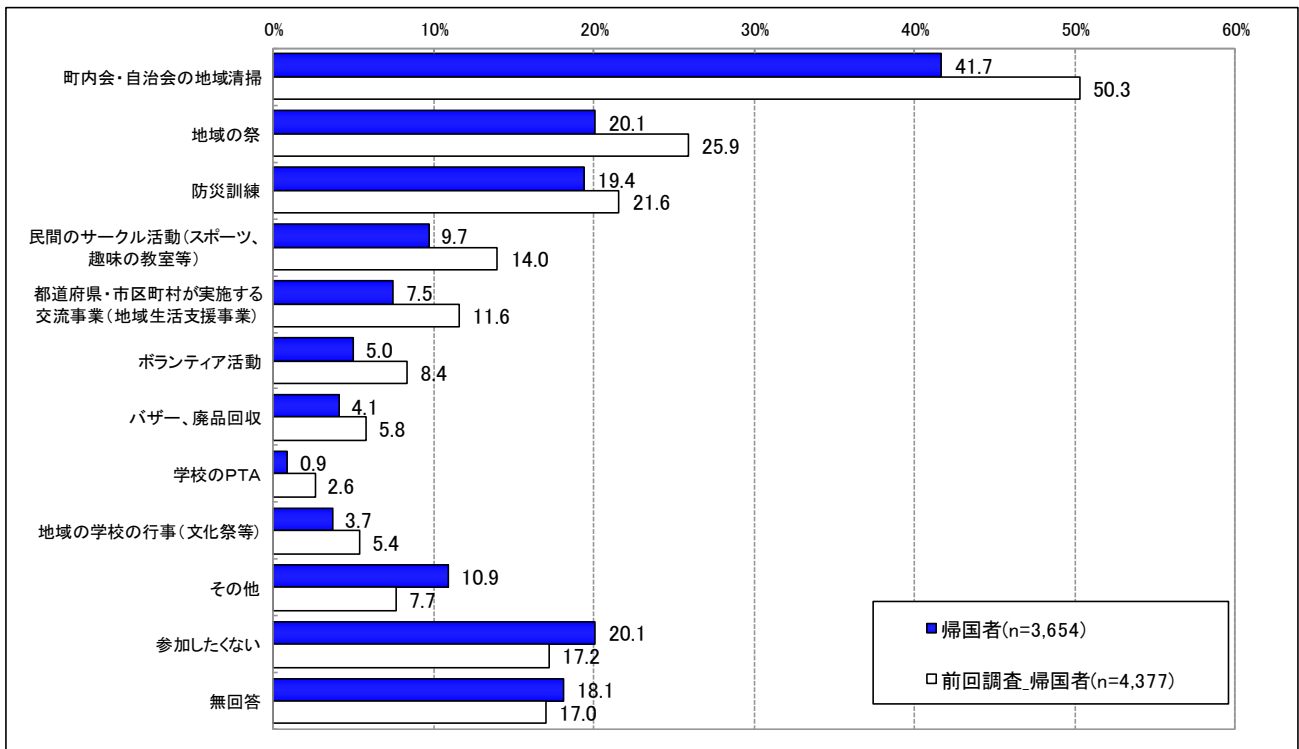
(4) 今後の地域活動

「町内会・自治会の地域清掃」が最も多く、帰国者では41.7%、配偶者では36.5%、配偶者支援金受給者では26.8%となっている。

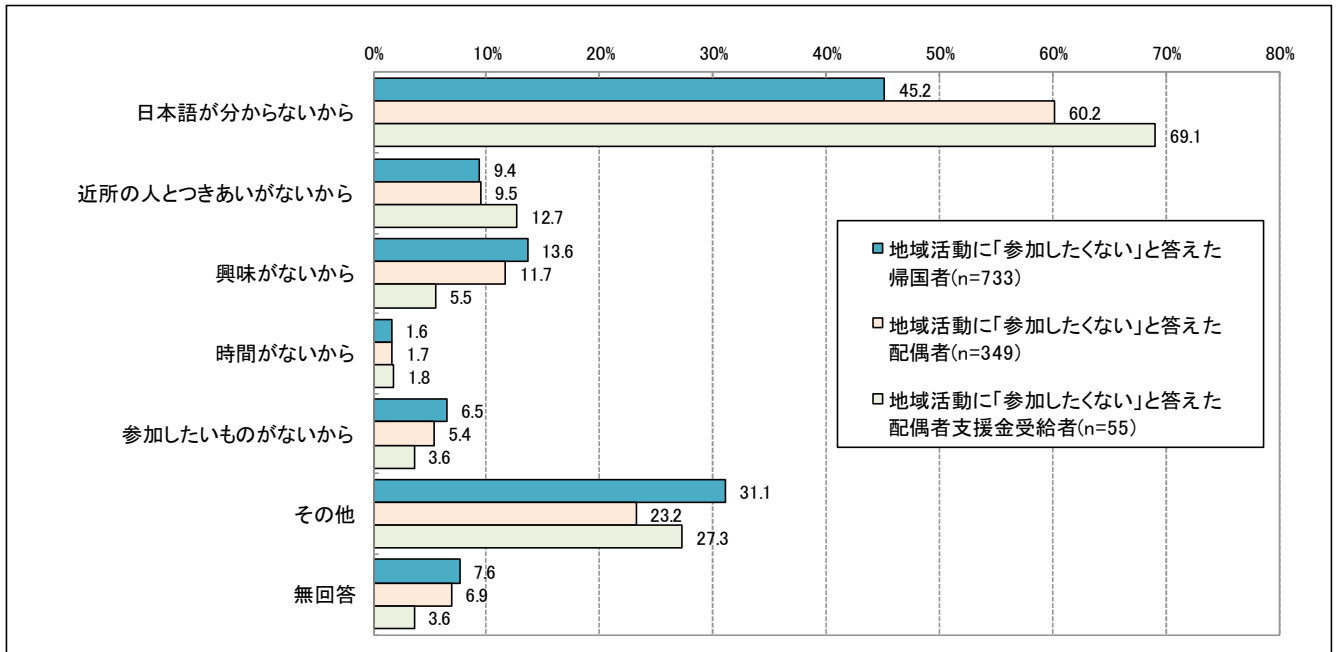
(グラフ83 今後参加したい地域活動)〈複数回答〉



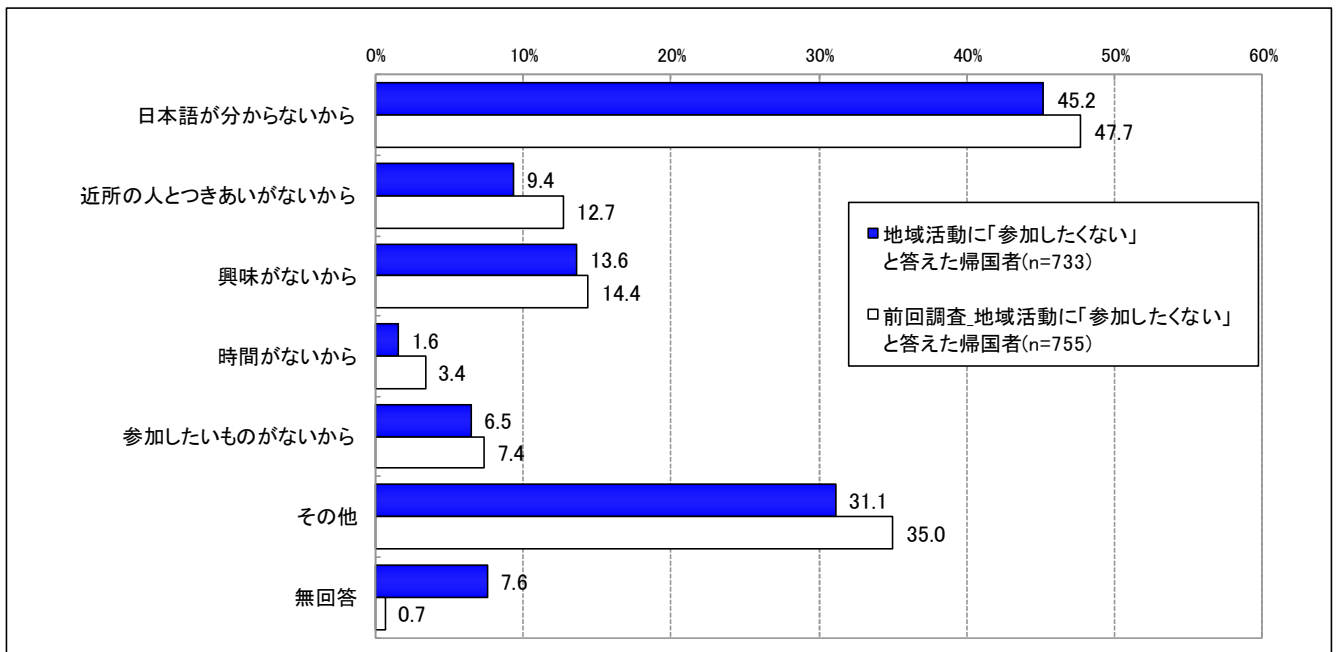
(グラフ84 今後参加したい地域活動(前回比較))〈複数回答〉



(グラフ85 今後地域活動に参加したくない理由)〈複数回答〉



(グラフ86 今後地域活動に参加したくない理由(前回比較))〈複数回答〉



---

---